

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 ( 2015年度入学生 )

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	マクロ経済分析基礎 畔津 憲司	1学期		2	1
	ミクロ経済分析基礎 牛房 義明	1学期		2	2
	計量経済分析基礎 林田 実	1学期		2	3
	財政学I 藤 貴子	1学期		2	4
	地域経済論 田村 大樹	1学期		2	5
	経済史 土井 徹平	1学期		2	6
	会計学I 白石 和孝	1学期		2	7
	財務会計I 西澤 健次	1学期		2	8
	経営学I 遠藤 雄二	1学期		2	9
	マーケティング 別府 俊行	1学期		2	10
	経営組織論 山下 剛	1学期		2	11
	情報管理基礎 池田 欽一	1学期		2	12
	マクロ経済学 田中 淳平	2学期		2	13
	ミクロ経済学 朱 乙文	2学期		2	14
	財政学II 藤 貴子	2学期		2	15

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	金融論 後藤 尚久	2学期		2	16
	国際金融論 前田 淳	2学期		2	17
	産業組織論 後藤 宇生	2学期		2	18
	統計学 林田 実	2学期		2	19
	計量経済学 藤井 敦	2学期		2	20
	労働経済学 休講	2学期		2	
	環境経済学 牛房 義明	2学期		2	21
	応用地域科学 奥山 恭英	2学期		2	22
	会計学II 白石 和孝	2学期		2	23
	財務会計II 西澤 健次	2学期		2	24
	管理会計 梅澤 俊浩	2学期		2	25
	経営学II 遠藤 雄二	2学期		2	26
	経営戦略論 浦野 恭平	2学期		2	27
	コーポレート・ファイナンス 松本 守	2学期		2	28
	人的資源管理 福井 直人	2学期		2	29

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	企業論	2学期		2	
	休講				
■文化・言語専攻	英語翻訳研究 野島 啓一	2学期		2	30
	中国民族文化研究 竹村 則行	1学期	2	2	31
			2年		
	中国民間文学研究 竹村 則行	2学期		2	32
	中国語教育論研究 胡 玉華	2学期		2	33
	■東アジア専攻	中国研究概論 堀地 明 他	1学期		2
東南アジア研究概論 田村 慶子 他		1学期		2	35
アメリカ社会史概論 寺田 由美		1学期		2	36
アメリカ人種関係概論 北 美幸		1学期		2	37
国際関係研究概論 大平 剛 他		1学期		2	38
現代中国政治研究 下野 寿子		2学期		2	39
現代韓国経済研究 尹 明憲	2学期		2	40	
日本社会史研究 八百 啓介	2学期		2	41	
近代日本政治外交史研究 小林 道彦	2学期		2	42	
東南アジア近現代史研究 篠崎 香織	1学期		2	43	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■東アジア専攻	東南アジア地域研究I 伊野 憲治	2学期		2	44
	東南アジア地域研究II 田村 慶子	2学期		2	45
	アメリカ社会史研究 寺田 由美	2学期		2	46
	アメリカ人種関係研究 北 美幸	2学期		2	47
国際経済研究 魏 芳	2学期		2	48	
国際機構研究 山本 直	2学期		2	49	
■特別研究科目	特別研究基礎 休講	1学期	1	2	
		1年			
	特別研究基礎 後藤 尚久	1学期	1	2	50
		1年			
	特別研究基礎 後藤 宇生	1学期	1	2	51
		1年			
	特別研究基礎 藤井 敦	1学期	1	2	52
		1年			
	特別研究基礎 田村 大樹	1学期	1	2	53
		1年			
	特別研究基礎 田中 淳平	1学期	1	2	54
		1年			
	特別研究基礎 朱 乙文	1学期	1	2	55
		1年			
	特別研究基礎 前田 淳	1学期	1	2	56
	1年				
特別研究基礎 林田 実	1学期	1	2	57	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	58
	牛房 義明	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	59
	奥山 恭英	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	60
	白石 和孝	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	61
	西澤 健次	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	62
	別府 俊行	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	63
	山下 剛	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	64
	池田 欽一	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	65
	浦野 恭平	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	66
	福井 直人	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	
	休講	1年			
特別研究 1	2学期	1	2		
休講	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	67	
後藤 尚久	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	68	
後藤 宇生	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	69	
藤井 敦	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	70	
田村 大樹	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 田中 淳平	2学期	1	2	71
		1年			
	特別研究 1 朱 乙文	2学期	1	2	72
		1年			
	特別研究 1 前田 淳	2学期	1	2	73
		1年			
	特別研究 1 林田 実	2学期	1	2	74
		1年			
	特別研究 1 牛房 義明	2学期	1	2	75
		1年			
	特別研究 1 奥山 恭英	2学期	1	2	76
		1年			
	特別研究 1 白石 和孝	2学期	1	2	77
		1年			
	特別研究 1 西澤 健次	2学期	1	2	78
		1年			
特別研究 1 別府 俊行	2学期	1	2	79	
	1年				
特別研究 1 山下 剛	2学期	1	2	80	
	1年				
特別研究 1 池田 欽一	2学期	1	2	81	
	1年				
特別研究 1 浦野 恭平	2学期	1	2	82	
	1年				
特別研究 1 福井 直人	2学期	1	2	83	
	1年				
特別研究 1 休講	2学期	1	2		
	1年				
特別研究 2 後藤 尚久	1学期	2	2	84	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■特別研究科目	特別研究 2	1学期	2	2	85
	後藤 宇生	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	86
	前田 淳	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	87
	後藤 尚久	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	88
	後藤 宇生	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	89
	前田 淳	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■地域コミュニティ専攻	社会心理学 田島 司	1学期		2	90
	生涯学習論 恒吉 紀寿	1学期		2	91
	臨床心理学 田中 信利	1学期		2	92
	社会福祉援助論 小賀 久	1学期		2	93
	児童福祉論 土井 高德	1学期		2	94
	人間環境学 野井 英明	1学期		2	95
	文化社会学 濱野 健	1学期		2	96
	都市社会学 稲月 正	1学期		2	97
	コミュニケーション論 休講	2学期		2	
	教育制度論 見玉 弥生	2学期		2	98
	臨床教育学 楠 凡之	2学期		2	99
	福祉コミュニティ論 休講	2学期		2	
	高齢社会論 石塚 優	2学期		2	100
	司法福祉論 深谷 裕	2学期		2	101
	フィールドワーク論 竹川 大介	2学期		2	102



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■地域コミュニティ専攻	臨床社会学 西田 心平	2学期		2	103
	環境社会学 岩松 文代	2学期		2	
■文化・言語専攻	イギリス文学研究概論 木原 謙一 他	1学期		2	105
	アメリカ文学研究概論 前田 譲治 他	1学期		2	
	英語学研究概論 平野 圭子	1学期		2	107
	英語教育法研究概論 伊藤 健一	1学期		2	
	英語表現法 アダム・ヘイルズ	2学期		2	109
	現代イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	111
	イギリス文化研究 アダム・ヘイルズ	2学期		2	
	現代アメリカ文学研究 アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	113
	アメリカ文学研究 前田 譲治	2学期		2	
	アメリカ文化研究 吉川 哲郎	2学期		2	115
	社会言語学研究 平野 圭子	2学期		2	
	英語通訳研究 伊藤 健一	1学期	2	2	117
			2年		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	中国語法研究概論 王 占華	1学期		2	118
	中国文化研究概論 板谷 俊生	1学期		2	119
	中国思想文化研究概論 鄧 紅	1学期		2	120
	中国哲学史研究 鄧 紅	2学期		2	121
	中国語教授法研究 王 占華	2学期		2	122
	中国文化史研究 板谷 俊生	2学期		2	123
	中国古典文学研究 武井 満幹	2学期		2	124
	中国語音声学研究 平田 直子	1学期	2	2	125
	比較文化研究概論 ロジャー・ウィリアムソン 他	1学期		2	126
	日本文化研究概論 五月女 晴恵 他	1学期		2	127
	言語学研究概論 漆原 朗子 他	1学期		2	128
	比較文学研究概論 ダニエル・ストラック 他	1学期		2	129
	日本宗教文化研究 休講	2学期		2	
	日本美術史研究 五月女 晴恵	1学期	2	2	130
	日本表象文化研究 真鍋 昌賢	2学期		2	131

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	比較広域文学研究 ダニエル・ストラック	2学期		2	132
	比較広域文化研究 岩本 真理子	1学期	2	2	133
		2年			
	ヨーロッパ比較文化研究 福島 勲	2学期		2	134
	日英比較文化研究 フィオナ・クリーサー	2学期		2	135
日米比較文化研究 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	136	
	2年				
理論言語学研究 ( 形態論 ) 漆原 朗子	2学期		2	137	
理論言語学研究 ( 統語論 ) 葛西 宏信	1学期	2	2	138	
	2年				
■東アジア専攻	東北アジア研究概論 八百 啓介 他	1学期		2	139
	アメリカ社会概論 中野 博文	1学期		2	140
	イギリス地域概論 久木 尚志	1学期		2	141
	近代中国政治史研究 休講	2学期		2	
中国社会史研究 休講	2学期		2		
現代中国経済研究 白石 麻保	2学期		2	142	
東アジア国際政治研究 李 東俊	2学期		2	143	
東アジア政治思想研究 金 鳳珍	2学期		2	144	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■東アジア専攻	アメリカ社会研究 中野 博文	2学期		2	145	
	イギリス地域研究 久木 尚志	2学期		2	146	
	北欧地域研究 休講	2学期		2		
	国際協力研究 大平 剛	2学期		2	147	
	安全保障研究 戸蒔 仁司	2学期		2	148	
	国際政治経済研究 阿部 容子	2学期		2	149	
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	150	
	現代イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	151	
	英語表現法 アダム・ヘイルズ	2学期		2	152	
	アメリカ文学研究 前田 謙治	2学期		2	153	
	現代アメリカ文学研究 アーノルド・ウエイン	1学期	2	2	154	
	英語教育法研究概論 伊藤 健一	1学期		2	155	
	■専攻共通科目	社会システム総合概論 大平 剛 他	1学期	1	2	156
	■特別研究科目	特別研究基礎 田島 司	1学期	1	2	157
		特別研究基礎 恒吉 紀寿	1学期	1	2	158

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	159
	松尾 太加志	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	160
	見玉 弥生	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	161
	田中 信利	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	162
	小賀 久	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	
	休講	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	163
	楠 凡之	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	164
	深谷 裕	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	165
	野井 英明	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	166
	稲月 正	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	167
	竹川 大介	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	168
岩松 文代	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2		
休講	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	169	
田部井 世志子	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	170	
木原 謙一	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	171	
前田 譲治	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	
	休講	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	172
	平野 圭子	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	173
	伊藤 健一	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	174
	鄧 紅	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	
	休講	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	175
	武井 満幹	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	176
	胡 玉華	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	
	休講	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	177
	真鍋 昌賢	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	178
	ダニエル・ストラック	1年			
特別研究基礎	1学期	1	2	179	
ロジャー・ウィリアムソン	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	180	
漆原 朗子	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	181	
葛西 宏信	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2		
休講	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	182	
下野 寿子	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	183
	白石 麻保	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	184
	金 鳳珍	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	185
	尹 明憲	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	186
	八百 啓介	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	187
	小林 道彦	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	188
	篠崎 香織	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	189
	伊野 憲治	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	190
	田村 慶子	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	191
	寺田 由美	1年			
特別研究基礎	1学期	1	2	192	
中野 博文	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	193	
北 美幸	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	194	
久木 尚志	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2		
休講	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	195	
魏 芳	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	196	
大平 剛	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	197
	山本 直	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	198
	田島 司	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	199
	恒吉 紀寿	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	200
	松尾 太加志	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	201
	児玉 弥生	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	202
	田中 信利	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	203
	小賀 久	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	204
	河嶋 静代	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	205
楠 凡之	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	206	
深谷 裕	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	207	
野井 英明	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	208	
稲月 正	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	209	
竹川 大介	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	210	
岩松 文代	1年				
特別研究 1	2学期	1	2		
休講	1年				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 田部井 世志子	2学期	1	2	211
		1年			
	特別研究 1 木原 謙一	2学期	1	2	212
		1年			
	特別研究 1 前田 譲治	2学期	1	2	213
		1年			
	特別研究 1 休講	2学期	1	2	
		1年			
	特別研究 1 平野 圭子	2学期	1	2	214
		1年			
	特別研究 1 伊藤 健一	2学期	1	2	215
		1年			
	特別研究 1 鄧 紅	2学期	1	2	216
		1年			
	特別研究 1 休講	2学期	1	2	
		1年			
	特別研究 1 武井 満幹	2学期	1	2	217
		1年			
	特別研究 1 胡 玉華	2学期	1	2	218
		1年			
特別研究 1 休講	2学期	1	2		
	1年				
特別研究 1 真鍋 昌賢	2学期	1	2	219	
	1年				
特別研究 1 ダニエル・ストラック	2学期	1	2	220	
	1年				
特別研究 1 ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	221	
	1年				
特別研究 1 漆原 朗子	2学期	1	2	222	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究 1	2学期	1	2	223
	葛西 宏信	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	
	休講	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	224
	下野 寿子	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	225
	白石 麻保	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	226
	金 鳳珍	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	227
	尹 明憲	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	228
	八百 啓介	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	229
	小林 道彦	1年			
特別研究 1	2学期	1	2	230	
篠崎 香織	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	231	
伊野 憲治	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	232	
田村 慶子	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	233	
寺田 由美	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	234	
中野 博文	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	235	
北 美幸	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	236	
久木 尚志	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■特別研究科目	特別研究 1	2学期	1	2	
	休講	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	237
	魏 芳	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	238
	大平 剛	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	239
	山本 直	1年			
	特別研究 2	1学期	2	2	240
	田部井 世志子	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	241
	鄧 紅	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	242
	王 占華	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	243
	田島 司	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	244
	竹川 大介	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	245
	伊藤 健一	2年			
特別研究 3	2学期	2	2	246	
田島 司	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	247	
河嶋 静代	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	248	
田部井 世志子	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	249	
鄧 紅	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	250	
王 占華	2年				

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 ( 2015年度入学生 )

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 3 竹川 大介	2学期	2	2	251
		2年			
	特別研究 3 伊藤 健一	2学期	2	2	252
		2年			

## マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済分析の前提となるマクロ経済学の基礎知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マクロ経済学の基礎理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マクロ経済学の基礎知識を正しく活用して、現実経済の抱える問題点を正しく理解できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的にとらえ、その動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要な目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 3回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 4回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 5回 所得・支出モデル(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 6回 所得・支出モデル(2) 【均衡GDP】
- 7回 所得・支出モデル(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 8回 所得・支出モデル(4) 【財政政策】【均衡予算乗数】
- 9回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 10回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 11回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 12回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 13回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 14回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・30%、期末試験・・・70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の初回に指示する文献を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

# マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## ミクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済分析の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 現代のミクロ経済の諸問題に関連する情報を収集し、分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、経済学の基礎であるミクロ経済学の分析の論理と方法について理解する。

## 教科書 /Textbooks

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学のカ』日本評論社 3,456円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

尾山大輔・安田洋祐 (2013) 『改訂版 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』日本評論社 2,268円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 目的と方法
2. 経済数学の初歩\_微分
3. 経済数学の初歩\_最適化
4. 消費者理論\_合理的行動
5. 消費者理論\_選好と無差別曲線
6. 消費者理論\_最適化
7. 消費者理論\_双対性
8. 企業理論\_生産要素が1つのケース
9. 企業理論\_生産要素が2つのケース
10. 企業理論\_所得分配
11. 市場均衡\_部分均衡
12. 市場均衡\_一般均衡
13. 市場均衡\_厚生経済学
14. 市場の失敗\_外部性
15. 市場の失敗\_公共財

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%)、発表 (20%)、試験(60%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義前までに教科書の該当する章を予め読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# ミクロ経済分析基礎 【昼】

キーワード /Keywords



## 計量経済分析基礎【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計的推定検定を理解し、計量経済学の基礎を固め、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 統計ソフトを用いて、経済データを的確に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 統計的手法を用いて、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

統計処理ソフトウェアEviewsに習熟し、これを利用して経済の実証分析ができるようになることを目指す。

## 到達目標

- ①Eviewsによる統計解析ができるようになる。
- ②回帰分析の理論を理解し、実証分析に利用できるようになる。
- ③パネル分析の理論を理解し、実証分析に利用できるようになる。
- ④VAR分析の理論を理解し、実証分析に利用できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

高橋青天、北岡孝義(2013)『Eviewsによるデータ分析入門』東京図書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜参考文献を指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Eviewsの基本操作
- 2 単回帰分析 1
- 3 単回帰分析 2
- 4 単回帰分析の応用 1
- 5 単回帰分析の応用 2
- 6 重回帰分析 1
- 7 重回帰分析 2
- 8 重回帰分析の応用 1
- 9 重回帰分析の応用 2
- 10 パネル分析 1
- 11 パネル分析 2
- 12 パネル分析の応用 1
- 13 パネル分析の応用 2
- 14 VARモデル 1
- 15 VARモデル 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による ( 100% )。

# 計量経済分析基礎 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習として、教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。事後学習としては、簡単な練習問題を解くこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Eviews、単回帰、重回帰、パネル分析、VAR

# 財政学I【昼】

担当者名 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政や租税の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財政や租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 財政や租税に関する高度な知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学 I

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

租税論を体系的に学ぶとともに、日本税制の形成過程や仕組みを理解し、現実の税制を理論的に考察する。そして日本税制の抱える課題とその解決策について検討する。

## 教科書 /Textbooks

森信茂樹『日本の税制-何が問題か』岩波書店 2010年 ¥3,456

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

江島一彦『図説 日本の税制(平成27年度版)』東洋経済新報社 2015年 ¥2,268

三木義一『日本の税金 新版』岩波新書 2012年 ¥864

森信茂樹『税で日本はよみがえる-成長力を高める改革』2015年 ¥3,240

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、税制の機能・役割
- 第2回 課税理論、税の転嫁と帰着
- 第3回 租税理論-包括的所得税、支出税、最適課税論
- 第4回 消費課税の類型
- 第5回 日本税制の歴史と税体系
- 第6回 所得税の概要と日本の所得税の課題
- 第7回 所得税をめぐる議論
- 第8回 社会保障と所得税
- 第9回 法人税の概要と課題
- 第10回 租税理論と所得課税
- 第11回 相続税の概要と課題
- 第12回 消費税の基本的仕組みと課題
- 第13回 地方分権と消費税
- 第14回 地方税の課題
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。

なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

# 財政学I【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

## キーワード /Keywords

財政 租税

## 地域経済論 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域経済論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。  
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。  
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

## 教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%  
期末試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 地域経済論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

テキストの当該箇所を予め予習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。

経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

## キーワード /Keywords

# 経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済史に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経済史

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることが目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、客観化することで現状認識に役立てることが目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何が見えてくるのか。過去を知ること、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代のイギリスを発端とし世界に波及していった「産業革命」を事例とします。そして「産業革命」とはいかなる「革命」で、なぜ「革命」は起きたのか分析することを通じて、経済史を学ぶ意義について皆さんと考えていきたいと思えます。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「経済史」という方法論
- 第2回 「大なる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
- 第4回 戦(いくさ)と掠奪(りやくだつ)の経済史
- 第5回 もう一つの「大なる分岐」-経済格差の構造化 -
- 第6回 生産力の肥大化と「帝国主義」
- 第7回 なぜ「産業革命」はイギリスで起こったのか - 財産権と「産業革命」 -
- 第8回 「革命」のインセンティブ
- 第9回 「発明」はいかにして起こったか
- 第10回 エネルギーと「産業革命」
- 第11回 なぜ日本は「産業革命」を実現できたのか
- 第12回 「明治維新」の経済史的意義
- 第13回 「革命」の輸入
- 第14回 産業革命はアジアで起こり得たか
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の授業内容を復習して講義に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

# 経済史【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科学としての歴史学で必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力=分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と感じてきた方でも、歴史をもとに考える意思さえあれば、まったく問題ありませんので主体的にご参加ください。

## キーワード /Keywords

経済史 社会経済史 産業革命



# 会計学Ⅰ【昼】

担当者名  
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次  
/Year

単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

講義

クラス  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 会計に関する高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学では財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門（第10版）』（有斐閣）、伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80%      ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分予習をしておくとともに、復習もしておくこと。

# 会計学I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 財務会計Ⅰ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社  
斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計入門
- 2回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5回 資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
- 6回 資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
- 7回 資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
- 8回 会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
- 9回 旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
- 10回 旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
- 11回 現代会計の諸問題【退職給付会計】
- 12回 現代会計の諸問題【資産除去債務】
- 13回 IFRSの検討【減損会計】
- 14回 IFRSの検討【公正価値会計】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 80% レポート・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 財務会計I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。  
事前学習：収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくこと。また、キータームに関する予習をしておくこと。  
事後学習：財務会計論の基礎的な思考を整理しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 経営学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業経営の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 企業経営に関する専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本の企業経営と人事労務管理全般、ならびに各論について、十分な予習、報告と討論を通じて理解を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

受講者の要望も取り入れて、1回目に決定する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

随時、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

初回：大学院生の勉強の仕方について講義。受講生の要望を聞いて、テキストを決定する。

- 第1部：企業経営と人事労務管理
- 第2部：採用から定年までの仕事
- 第3部：職場の男女平等とディーセント・ワーク
- 第4部：日本の人事労務管理、20世紀と21世紀

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジユメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## マーケティング【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マーケティングに関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マーケティング

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本科目は、学部でのマーケティングの内容をさらに深化させていくため、より高度で実践的なケース演習を中心に授業を行う。

## 教科書 /Textbooks

無

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

無

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2~15回 ケース演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によって評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業は予習と復習を必要とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経営組織の諸問題・諸課題について、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

企業にしろ、NPOにしろ、いずれの場合も、「組織を管理する」ことが経営の要となります。本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

## 教科書 /Textbooks

初回に受講者と相談の上、決定したいと思います。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年。(○)  
三井泉編『フォレット』文真堂、2012年。(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、到達目標で示した三点の理解を目指します。  
講義では、学生による報告、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

第1回 ガイダンス  
第2回～14回 上記テキストの各章の輪読  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30% 発表・報告内容 40% レポート提出等 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

指定された教科書について、報告者は講義前に該当箇所をよく読み込んでレジュメを作成し、報告者以外の人とも読み込んで講義に臨んでください。また、講義後ももう一度該当箇所を読み復習しておいてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

## キーワード /Keywords

# 情報管理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 情報管理の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

情報管理基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義ではデータを管理、分析する手法について学ぶ。データ管理ではデータベースソフトを用いたデータの効率的な管理方法、利用手法について学ぶ。データ分析では表計算ソフト (Excel)、統計ソフト (R) を利用してデータの統計、多変量分析手法について学ぶ。講義と実習を併用し、講義で学んだ後、実習によって理解度を深めることとする。具体的テーマとしてはデータベースによるデータの管理、統計的仮説検定、回帰分析、イベントスタディ手法などを取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

Excelでかんたん統計分析、近藤 宏 他、オーム社、ISBN: 978-4274066917、2,800円+消費税。  
 その他必要な際には別途指示。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、本講義で学ぶ内容の説明
- 第2回：表計算ソフトの利用
- 第3回：表計算ソフトを使った統計分析
- 第4回：データと度数分布確率変数と確率分布
- 第5回：ランダムサンプリング
- 第6回：検定
- 第7回：2グループの関係、比較
- 第8回：回帰分析
- 第9回：イベントスタディ
- 第10回：ロジットモデル
- 第11回：乱数とシミュレーション
- 第12回：データベースの設計方法、リレーショナルデータベース
- 第13回：データベースソフトの利用方法
- 第14回：クエリによるデータ抽出
- 第15回：まとめ

受講者の理解度、進行状況、希望等により内容、順番、進み方は変更になる場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...40%、期末試験...60%

詳細は第1回目に説明します。期末試験は期末レポートに変更する場合があります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 情報管理基礎 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

基礎的内容も簡単に話しますが、学部レベルの統計学の知識は前提とします。

講義前にはテキストや資料により予習をし、講義後には復習と課題にしっかりと取り組んでください。

USBフラッシュメモリを使いますので持っていない人は準備してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## マクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ マクロ経済の専門家として、より高度なマクロ経済理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ より高度なマクロ経済の専門知識を生かして、現実経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

マクロ経済分析基礎（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、伸縮価格モデル（価格や賃金が伸縮的に調整されるモデル）を分析の出発点に据える新古典派マクロ経済学の理論構造、経済成長のメカニズムなどである。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 IS-LMモデルの復習 【IS曲線】【LM曲線】【財政・金融政策】
- 3回 AD-ASモデル（1） 【総需要曲線】【総供給曲線】
- 4回 AD-ASモデル（2） 【デマンドプル・インフレ】【コストプッシュ・インフレ】【スタグフレーション】
- 5回 ケインズ体系と新古典派体系の比較：概観
- 6回 新古典派マクロ経済学（1） 【労働供給】【均衡賃金】
- 7回 新古典派マクロ経済学（2） 【自然失業率仮説】【財政政策】
- 8回 新古典派マクロ経済学（3） 【貨幣需要】【貨幣の中立性】【貨幣的景気循環】
- 9回 新古典派マクロ経済学（4） 【2期間モデル】【完全予見】
- 10回 新古典派マクロ経済学（5） 【実物的景気循環】【労働供給の分割不可能性】
- 11回 新古典派マクロ経済学（6） 【ニューケインジアン】【価格硬直性】
- 12回 新古典派成長理論（1） 【潜在的GDP】【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 新古典派成長理論（2） 【新古典派成長理論】
- 14回 新古典派成長理論（3） 【収束】【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（3回） 30% 期末試験 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行うこと。

# マクロ経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## ミクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ ミクロ経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 不完全競争の経済分析(1)：【独占】、【価格差別】
- 3回 不完全競争の経済分析(2)：【クールノー・ナッシュ均衡】
- 4回 不完全競争の経済分析(3)：【寡占】、【独占的競争】
- 5回 不完全競争の経済分析(4)：まとめ
- 6回 不確実性と情報の経済分析など(1)：【不確実性】、【リスク】、
- 7回 不確実性と情報の経済分析など(2)：【逆選択】 【道徳的危険】
- 8回 不確実性と情報の経済分析など(3)：【情報】、【シグナル】
- 9回 不確実性と情報の経済分析など(4)：まとめ
- 10回 ゲーム理論とミクロ経済分析(1)：ゲームの種類、ゲームの均衡概念
- 11回 ゲーム理論とミクロ経済分析(2)：【非協力ゲーム】 【同時ゲーム】
- 12回 ゲーム理論とミクロ経済分析(3)：【逐次ゲーム】
- 13回 ゲーム理論とミクロ経済分析(4)：【協力ゲーム】
- 14回 ミクロ経済分析の応用
- 15回 総まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30% レポートもしくはテスト 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

# ミクロ経済学 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

## キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

# 財政学Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政と租税の理解に必要なより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財政と租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財政と租税のより高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本では、2014年4月より消費税率が引き上げられ、消費税収は所得税収を上回ることが見込まれている。経済のグローバル化は、各国の租税政策に大きな影響を与えており、このような所得税の地位低下は日本に限るものではない。この授業では、グローバル化の下で租税体系の収斂化が進む各国税制の中でも、唯一、国税において所得課税中心主義を貫くアメリカの租税政策と、1990年代後半から2000年代にかけて租税体系の消費課税化を進めたドイツの租税政策について比較検討し、現代税制の課題と展望を考察する。

## 教科書 /Textbooks

関口智『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』東京大学出版会 2015年 ¥6,912  
 関野満夫『現代ドイツ税制改革論』税務経理協会 2014年 ¥3,996

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中村良広『所得税改革-日本とドイツ』税務経理協会 2013年 ¥3,024

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 カイダンス、世界の税制改革の潮流について
- 第2回 アメリカ連邦財政の特質
- 第3回 アメリカ連邦税制の水平的租税関係
- 第4回 アメリカにおける租税支出と雇用主提供民間医療保険
- 第5回 アメリカ税制からみた医療・年金資金の個人積立口座化
- 第6回 アメリカにおける勤労所得の資本所得化と税制
- 第7回 アメリカの経常収支の赤字と国際租税政策
- 第8回 グローバル化とアメリカにおける消費課税論の台頭
- 第9回 近年アメリカ税制の課題
- 第10回 アメリカ税制総括
- 第11回 ドイツ税制の由来と税制改革2000
- 第12回 ドイツ売上税(付加価値税)改革と純資産課税の動向
- 第13回 グローバル化とドイツ企業税制改革
- 第14回 ドイツ税制総括
- 第15回 アメリカ税制とドイツ税制について総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

## 財政学II 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。  
なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

## キーワード /Keywords

財政 租税

## 金融論【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 金融の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 金融に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を復習しながら、さらに応用的に金融に関する各種データを分析をする。理論と現実の整合性やギャップを確認する。さらに、今後の金融のあり方について、銀行経営や金融市場の側面から検討する。

## 教科書 /Textbooks

とくになし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の金融市場
- 3回 家計の金融活動
- 4回 企業の金融活動
- 5回 情報の非対称性と金融システム【アドバース・セレクション】
- 6回 情報の非対称性と金融システム【モラル・ハザード】
- 7回 金融仲介機関の存在理由
- 8回 地域金融と地域経済【地方銀行、第2地方銀行】
- 9回 地域金融と地域経済【信用金庫、信用組合など】
- 10回 銀行経営とガバナンス【BIS規制】
- 11回 銀行経営とガバナンス【内部ガバナンス】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化以前の財政投融资計画】
- 13回 郵政民営化【経営形態とその問題点】
- 14回 証券化と金融市場
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・30%、ディスカッションへの貢献・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

金融に関する学部レベルの知識をもっていると理解しやすい。  
毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。



# 金融論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 国際金融論 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 国際金融システムの枠組みと運動法則に関する専門的な知識を身につけ、国際金融の諸現象を深く洞察し、それらの原因と影響を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際金融関係の文献資料や情報・データを収集し、内容を適切に分析・加工・利用することができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国際金融に関する知識を常に求め、国際金融システムが直面する諸課題に対して、分析と思索と提言を行う態度を身につけることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【実質為替レート】 【実効為替レート】
- 3回 国際収支表の概要 【経常収支】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 並為替と逆為替 【コルレス銀行】
- 6回 荷為替信用制度と決済 【信用状】
- 7回 グローバル化と直接投資 【投資収支】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【対外資産・負債】
- 9回 為替レートを左右するもの 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動が与える影響 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 経常収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際資本移動を左右するもの 【キャリー取引】
- 13回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 14回 国際通貨・金融危機の原因 【国際資本移動】
- 15回 危機の予防と対処 【IMFコンディショナリティー】 【プルーデンス政策】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する(100%)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の初回に指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 国際金融論 【昼】

キーワード /Keywords

## 産業組織論 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法を理解、運用し、経済問題の解決に貢献できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際的な学術雑誌を詳細に読むことを通じて、先行研究の情報を有益に利用できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、分析・理解し、改善案を提案できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

産業組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現在の産業組織論は、実証分析が中心である。実証手法として、構造推定が使用される。  
この講義では、初歩的な手法を学んだ後、需要関数(差別化された財と集計されたデータ)の推定を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Kenneth Train. 2009. Discrete Choice with Simulation. 2nd. Cambridge University Press.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 実証分析と統計解析ソフト(Stata等)/数値解析ソフト(Matlab)について
2. 線形回帰モデル
3. 線形回帰モデル\_ダミー変数
4. 線形回帰モデル\_系列相関と分散不均一性
5. 線形回帰モデル\_内生問題への対処
6. 学生報告
7. パネル分析
8. パネル分析
9. 学生報告
10. 離散選択モデル
11. 離散選択モデル
12. 学生報告
13. 需要関数の推定
14. 需要関数の推定\_入れ子型ケース
15. 学生報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

統計学、計量経済学、微積分学、線形代数の知識が必要。  
前回の内容の理解を確認して、出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 産業組織論 【昼】

キーワード /Keywords

## 統計学 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計学の幅広い高度な知識を身につけ、応用できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 統計学の推定、検定を利用して、経済・経営分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 統計学を通じて、科学的な思考ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

統計学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

## 到達目標

- ① 統計的推定と検定を理解する。
- ② 正規分布をはじめとする密度関数の性質を理解する。
- ③ 漸近分布の概念を理解する。

## 教科書 /Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による ( 100% )。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 統計学 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習として、教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。事後学習としては、簡単な練習問題を解くこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

## 計量経済学【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 計量経済学の理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経済の専門家として、必要な情報を収集し、計量経済学的分析を行えるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 経済の問題・現象と数量的な分析を関連付けられるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

実証分析の論文を読み、経済理論をどのようにして実際のデータで分析するのかを学ぶ。理論モデルに合わせた計量モデルの構築、データの収集とその検討、計量モデルの推定と検定、統計分析結果の報告の仕方と解釈、政策的合意の導出までの一定のプロセスを実例を用いて経験することが目的である。余裕があれば、コンピュータを用いた簡単な分析を体験する。

## 教科書 /Textbooks

適宜，実証分析の論文を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて別途，指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生数，受講生の関心，担当教員の情報収集などによって変更する可能性があります。

- 1回 コースアウトライン、問題の背景→統計モデルの設定→推定・検定→解釈のシンプルな例を紹介
- 2回 回帰分析による実証分析：なぜ回帰分析を用いなければならないのか
- 3回 回帰分析による実証分析：回帰分析からどのような結論を引き出せるか
- 4回 パネルデータによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 5回 パネルデータによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 6回 パネルデータによる実証分析：パネルデータ用モデル特有の統計的推測
- 7回 多項ロジットモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 8回 多項ロジットモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 9回 多項ロジットモデルによる実証分析：多項ロジットモデル特有の統計的推測
- 10回 カウントデータモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 11回 カウントデータモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 12回 カウントデータモデルによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 13回 VARによる実証分析：通常の計量経済学モデルとどこが違うか
- 14回 VARによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80%， 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 計量経済学 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

事前に指示した文献・資料を読んでからご参加ください。  
授業後に疑問点を整理して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 環境問題を経済分析するのに必要な高度な専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 環境経済学における経済理論モデルの理解、実証分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 現在直面する環境問題の課題の抽出、解決策の提案ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学—理論と実践』 勁草書房 2005年○  
岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○  
環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

# 環境経済学 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義前までに教科書の該当する章を予め読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 応用地域科学 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

応用地域科学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、問題解決志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。ここで「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的でしかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深くしかも忍耐強く調査研究を試みるものである」をいう。

## 教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニク
- 15回 期末レポート発表および討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度、20% : レポート発表、30% : レポートの内容、50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学は必須、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。  
各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

# 応用地域科学 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域科学は空間を扱う実践的な学問です。計量分析中心ですがその応用範囲は大変広く、将来的にも大変役立つ学問領域です。

## キーワード /Keywords

地域科学、計量分析、都市経済学、地域経済学

## 会計学Ⅱ【昼】

担当者名  
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次  
/Year単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

2学期

授業形態  
/Class Format

演習

クラス  
/Class対象入学年度  
/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅱではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分に予習しておくとともに、復習もしておくこと。

# 会計学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 財務会計Ⅱ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	財務会計に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	財務会計に関するより高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社  
斎藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【意思決定有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
- 5回 財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【写像】【築像】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定量化】【定性化】
- 11回 財務報告の問題点(その1)【財務報告】【非財務報告】
- 12回 財務報告の問題点(その2)【純利益】【包括利益】
- 13回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 14回 財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 80% レポート・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 財務会計II【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。

事前学習：収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくこと。また、キータームに関する予習をしておくこと。

事後学習：財務会計論の基礎的な思考を整理しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 管理会計【昼】

担当者名 /Instructor 梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 管理会計の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 管理会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 管理会計に関する高度な専門知識を生かして、会計や経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

管理会計

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、企業評価や契約における会計の役割を検討する。

基本的に、指定テキストの各章を、1章につき2コマ使って、輪読(精読)する予定である。  
各章の担当者には、レジユメを作成の上、パワーポイントで説明をしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

Christensen, J.A. and J.S. Demski. 2003. Accounting Theory: An information content perspective. MCGRAW HILL.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 Chapter 1: Introduction
- 3回 Chapter 2: The reporting organization
- 4回 Chapter 2: The reporting organization
- 5回 Chapter 3: Classical foundation
- 6回 Chapter 3: Classical foundation
- 7回 Chapter 4: Accounting foundation
- 8回 Chapter 4: Accounting foundation
- 9回 Chapter 5: Modeling information
- 10回 Chapter 5: Modeling information
- 11回 Chapter 6: Information use at the individual level
- 12回 Chapter 6: Information use at the individual level
- 13回 Chapter 7: The accounting system as an information channel
- 14回 Chapter 7: The accounting system as an information channel
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 報告 ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 管理会計【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルの会計関連科目およびミクロ経済学関連科目は履修済みであること。  
ミクロ経済学ベースの会計なので、「ミクロ経済分析基礎」および「コーポレート・ファイナンス」を履修済みであること。  
報告者は、報告の前に資料を作成・準備し、報告後にコメントを踏まえて資料を修正してから、資料を提出すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 経営学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	企業経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	企業経営に関するより高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本の企業経営について考えていく。入念な予習に基づく受講者の報告の後、毎回のテーマについて議論し、理解を進化させていく。

## 教科書 /Textbooks

事例研究が中心となるため教科書は使用しない。テーマに関する資料・論文を随時、配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション  
第2～15回：日本企業のうち、過去20年間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、成功と失敗の要因を探求していく。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営戦略に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経営戦略の策定に寄与する情報の収集・分析手法、戦略計画の立案・評価の手法を身につけることができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的な知識にもとづいて、経営戦略に関わる課題解決に主体的に取り組むことができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営戦略論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。  
到達目標は以下のとおりです。  
経営戦略論の基礎・応用理論の修得により、現実の経営現象の説明ができる。

## 教科書 /Textbooks

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年を使用。  
その他、随時、参考資料を提供する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の研究テーマに沿って随時指定。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。  
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。  
また、随時レポートの提出を求めます。

第1回 ガイダンス  
第2回 イントロダクション 【定義】【経営戦略論史】  
第3回 事業戦略①フレームワーク 【SWOT】【Five Forces】【VC】【RBV】  
第4回 事業戦略②基本戦略 【差別優位】【コスト優位】  
第5回 競争のダイナミズム①競争優位の持続可能性 【システム】【経営資源】【組織能力】  
第6回 競争のダイナミズム②業界標準と競争 【ネットワーク外部性】【業界標準】【競争と協調】  
第7回 競争のダイナミズム③イノベーションと産業進化 【技術】【市場】【収益化】  
第8回 企業戦略①フレームワーク 【事業の定義】【取引費用】【事業範囲】  
第9回 企業戦略②垂直統合 【生産費用】【取引費用】【中間組織】  
第10回 企業戦略③多角化 【多角化の要因】【多角化のタイプ】【学習】  
第11回 企業戦略④多角化のマネジメント 【組織形態】【PPM】【凝集性】  
第12回 国際化の戦略 【国際化の形態】【OLI】【トランスナショナル】  
第13回 参入と撤退 【内部成長】【M&A】【アライアンス】  
第14回 撤退とリストラクチャリング【清算】【売却】【事業統合】【リストラクチャリング】  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 経営戦略論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。  
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。  
授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。  
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

## キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

## コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ コーポレート・ファイナンス理論の観点から、企業経営で生起する諸問題の課題を設定し、それらの問題を分析し、解決策を考えることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

コーポレート・ファイナンス

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、欧米のビジネススクールで定評のあるテキストを輪読し、コーポレート・ファイナンスの基礎概念と主要なトピックを学習します。

## 教科書 /Textbooks

Richard Brealey , Stewart Myers , Franklin Allen ,Principles of Corporate Finance 10th,McGraw Hill Higher Education,2010.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Stephen A. Ross, Corporate Finance ,McGraw-Hill Higher Education.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Goals and Governance of the Firm
- 第3回 How to Calculate Present Values
- 第4回 Valuing Bonds
- 第5回 The Value of Commons Stocks
- 第6回 Net Present Value and Other Investment Criteria
- 第7回 Making Investment Decisions with the Net Present Value Rule
- 第8回 Introduction to Risk and Return
- 第9回 Portfolio Theory and the Capital Asset Pricing Model
- 第10回 Risk and the Cost of Capital
- 第11回 Agency Problems, Compensation, and the Performance Measurement
- 第12回 Efficient Markets and Behavioral Finance
- 第13回 How Corporations Issue Securities
- 第14回 Payout Policy
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...50% 授業への貢献度など(報告・発言・レポートなど)...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## コーポレート・ファイナンス【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルの「ミクロ経済学」・「統計学・計量経済学」・「会計学（財務会計・管理会計）」の知識を前提とします。不安がある場合はしっかり復習しておいて下さい。

参加者は毎回報告の義務があります（毎回レポートを課します）。また、授業中に何も発言しない人（自発的に発言しない人）には単位を与えません。

・ 授業外学習について

(1)事前に配布した講義資料等を必ず参照し、予習すること。

(2)授業終了後には、授業の内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 人的資源管理 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析できる技能を形成できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的知識を活かし、現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		人的資源管理

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら論究します。

扱う領域は学部講義である「人的資源管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したく、学術的研究の動向にウェイトを置いた議論を展開したいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

受講者の学習水準に合わせて選定したいが、現時点では、下記参考書に挙げている奥林・原田(2014)の使用を検討している。ただし、それを用いるか否かは講義の第1回の話し合いで決定するので、必ず出席してほしい。

なお、昨年度は奥林・原田(2014)を指定した。この教科書は数少ない大学院生向けの人的資源管理テキストであり、読み応え十分である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

奥林康司・原田順子(2014)『人的資源管理』放送大学教育振興会。

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。

白木三秀編(2013)『人的資源管理の基本(第3版)』文眞堂。

上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。

その他、専門的な学術論文を適宜配布するので、これについても予習が必要。

※奥林編(2009)は昨年度の指定教科書である。大学院レベルとしては少々易しいかもしれない。

※別途、各回において論文を配布する。

# 人的資源管理 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究概論
- 2回 経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
- 3回 組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
- 4回 職務設計論の研究【分業】【調整】
- 5回 人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 雇用管理の研究【終身雇用】【雇用の流動化】
- 7回 人材育成の研究【キャリア】【OJT】
- 8回 人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
- 9回 賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
- 10回 労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
- 11回 人材ポートフォリオの研究【非正社員】
- 12回 ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
- 14回 人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

各回のテーマは教科書的な流れで配列しているが、いずれの教科書を用いるかによって若干内容は変化することに留意されたい。また、人的資源管理に関する基礎的な内容は修得しているものとして本科目を進める。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・25%（配布した論文についてレジュメを作成・報告してもらう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が多いのほかに多くなることはあらかじめ承されたい。）

中間レポート・・・50%（2,000字程度のレポートを3回課す。1回でも提出しなかった場合は不可とする。）

最終レポート・・・25%（4,000字～6,000字を予定）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- (1) 事前に教科書の該当箇所、および配布された論文は必ず読んでくること。
- (2) 各回の復習を必ず行うこと。
- (3) 講義は日本語で行なう。
- (4) 大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。ただ、学部のとときに当該科目を履修した経験がないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただし、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。  
人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。とはいえ、人的資源管理に関する最低限の基礎知識はあることを前提として講義を進めたい。経営組織論や経営戦略論と併せて受講することを推奨する。  
時間割で選択する科目は、自身のプラスになるように考えたうえで選択すること。単位の取りやすさ、曜日や時限だけで判断しないこと。

## キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

## 英語翻訳研究 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の諸分野に関する高度な知識を身に付け、国際社会に役立てる能力を習得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 専門的職業人として、英語力を駆使して資料の的確な分析とその発展的研究ができるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 専門的知識を活用して、グローバル社会が抱える課題を主体的に探索・解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語翻訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

## 教科書 /Textbooks

Printed Material:

Visual Material: (News, Speech Scripts)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introductory Lecture
Week 2	Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3	Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4	Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5	Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6	Project Work (I): Relevance-theoretic Approach
Week 7	Project Work (II): Translation Principles
Week 8	Project Work (III): Communication Situations
Week 9	Communicative Clues
Week 10	Inter-lingual Interference
Week 11	Direct Translation and Indirect Translation
Week 12	A Unified Account of Translation
Week 13	Research Program: Planning and structuring
Week 14	Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15	Course review

## 英語翻訳研究 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam ( 60% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

## 中国民族文化研究【昼】

担当者名 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民族文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代中国語に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 中国民族文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国民族文化研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中国民族文化研究「王昭君文学史研究」と題する。漢代の中国に実在し、少数民族の匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君に取材した様々な記録や文学作品を系統的に読解することで、中国民族文化理解に資することを目的とする。

中国四大美人の一人として有名な王昭君は、漢民族と少数民族の融和と悲劇の象徴として、歴代の種々の詩文戯曲小説に描かれてきた。中国文学史、中国民族文化史上に占める王昭君の意義は今日も全く失われていない。

関連する作品は多数に上る。時間が限られた1学期の授業では、まず王昭君に関する歴史記録を確認した上で、宋代王安石の「明妃曲」、次いで欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

授業では、毎週担当者が30分程度で所定の作品内容について報告し、その後は担当者一受講生が自由に討論する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料を担当者が毎回準備する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『古文真宝(前集)下』(星川清孝、明治書院、新釈漢文大系10、昭和42年)
- 『王昭君故事的伝承と嬪嬙』(張文徳、学林出版社、2008年)
- 『歴代歌詠昭君詩詞選注』(魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、王昭君に関する歴史記録を踏まえた上で、『古文真宝』に収録する王安石の「明妃曲」、欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

- 一 はじめに 授業の目的と概要の紹介
- 二 『漢書』巻9元帝紀・巻94匈奴伝
- 三 『後漢書』巻89南匈奴伝
- 四 『西京雜記』巻2画工棄市
- 五 王安石「明妃曲」その一(明妃初出漢宮時一当時枉殺毛延寿)
- 六 王安石「明妃曲」その二(一去心知更不帰一人生失意無南北)
- 七 王安石「明妃曲二」その一(明妃出嫁与胡兒一彈看飛鴻勸胡酒)
- 八 王安石「明妃曲二」その二(漢宮侍女暗垂淚一尚有京絃留至今)
- 九 欧陽脩「明妃曲」その一(漢宮有佳人一万里安能制夷狄)
- 十 欧陽脩「明妃曲」その二(漢計誠已拙一莫怨春風当自嗟)
- 十一 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その一(胡人以鞍馬一胡人共聽亦咨嗟)
- 十二 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その二(玉顔流落死天涯一豈知此声能斷腸)
- 十三 小まとめ 王安石・欧陽脩の「明妃曲」について
- 十四 「昭君出塞」関連ビデオ
- 十五 まとめ 中国文学における王昭君故事の意義

## 中国民族文化研究 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 日頃の授業への取り組み50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

調査発表や討論は日本語を主とするが、作成する資料等は中国文でも構わない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

王昭君 中国文学史 古文真宝 少数民族 匈奴 王安石 欧陽脩

## 中国民間文学研究【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代中国語と方言に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 中国民間文学に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国民間文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近現代中国における民間文学への関心と研究は、中国がアヘン戦争を経て欧米の先進文明を認識し、植民地国家でない自立した中国のあり方を模索し始めた1920年代に始まる。

この授業では、その草創期における顕著な著作である鄭振鐸の『中国俗文学史』を読み、鄭振鐸が日中戦争下において中国の民間文学をどう捉えていたか、その考えは今日の中国にどう活かされているかについて考える。

授業では、毎回担当者が30分程度、『中国俗文学史』に示された当該題目について調査発表し、その後、受講生全員で自由討論する。

## 教科書 /Textbooks

○『中国俗文学史』（鄭振鐸、中国文聯出版社、2009年）  
※どの版を用いてもよい。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『挿図本中国文学史』（鄭振鐸、商務印書館、1963年）  
※どの版を用いてもよい。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各章を前後二回に分け、担当者が30分で内容紹介する。残りの時間は全員が自由に討論する。教員は適宜総括する。

前期の予定は次の通りである。

- 一 はじめに 鄭振鐸と『中国俗文学史』について
- 二 第一章 何謂「俗文学」 前半
- 三 第一章 何謂「俗文学」 後半
- 四 第二章 古代的歌謡 前半
- 五 第二章 古代的歌謡 後半
- 六 第三章 漢代的俗文学 前半
- 七 第三章 漢代的俗文学 後半
- 八 第四章 六朝の民歌 前半
- 九 第四章 六朝の民歌 後半
- 十 第五章 唐代的民間歌賦 前半
- 十一 第五章 唐代的民間歌賦 後半
- 十二 第六章 変文 前半
- 十三 第六章 変文 後半
- 十四 第七章 宋金の雜劇詞 前半
- 十五 第七章 宋金の雜劇詞 後半

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日頃の授業への取り組み50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 中国民間文学研究 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

発表や質問は日本語を用いるが、作成資料は中文使用可です。  
自由質問の時間は、全ての受講生に質問を促します。「何もありません」はありません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

鄭振鐸 中国俗文学史 民間文学



## 中国語教育論研究【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国語教育に関する必要な専門知識を身につける。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語教育を論じるに必要な研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で中国語教育の問題を解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語教育論研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論に基づいた外国語教育の研究及び実践を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案する。

## 教科書 /Textbooks

随時プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

胡玉華 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』 東方書店、2009  
 村野井仁 『第二言語習得研究からみた効果的な英語学習法・指導法』 大修館書店、2006

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第1章 学習者を知る  
 1. 外国語をどう習得するかー認知的要因：知能及び適性
- 第2回 2. 外国語をどう習得するかー認知的要因：認知スタイル及び学習ストラテジー
- 第3回 3. 外国語をどう習得するかー情意的要因：動機
- 第4回 4. 外国語をどう習得するかー情意的要因：性格
- 第5回 5. 外国語をどう習得するかー社会文化的要因：母語の転移
- 第6回 6. 外国語をどう習得するかー社会文化的要因：異文化の受容
- 第7回 第2章 教授活動を知る  
 1. 何をどう教えるかー内容
- 第8回 2. 何をどう教えるかー方法
- 第9回 3. 何をどう教えるかー目標
- 第10回 第3章 中国語教育を知る  
 1. 中国における対外漢語
- 第11回 2. 非漢字圏における中国語教育
- 第12回 3. 日本における中国語教育ー歴史
- 第13回 4. 日本における中国語教育ー現在
- 第14回 5. 日本における中国語教育ー最新動き
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50%  
 課題の完成度.....50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 中国語教育論研究 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

予習が必要。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 中国研究の諸分野について専門的知識を習得し、自らの見解を表明できる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国研究の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 中国に関する諸問題に関心を持ち、広い視野から問題解決の方法を模索し行動することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国の歴史・経済・政治の分野において、研究をすすめる上で必須の専門知識を習得し、中国研究の研究方法を理解する。特に研究文献と一次資料の取り扱い方、一次資料から自説を立論する手法を重んじる。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：全教員-授業ガイダンス
- 2回：白石-中国経済を分析する視点
- 3回：白石-中国経済への分析アプローチ(1)論文を読む
- 4回：白石-中国経済への分析アプローチ(2)分析手法
- 5回：白石-中国経済分析から得られるインプリケーション
- 6回：堀地-中国近代史の学術論文が完成するまで
- 7回：堀地-中国近代史研究とインターネット利用
- 8回：堀地-歴史資料を読解し分析する(1)中文史料
- 9回：堀地-歴史資料を読解し分析する(2)日文史料
- 10回：下野-現代中国を政治的観点からみる - 問題の所在
- 11回：下野-資料の探し方
- 12回：下野-資料の読み方
- 13回：下野-分析手法
- 14回：全教員-総合討論と学生研究報告(1)報告
- 15回：全教員-総合討論と学生研究報告(2)総合討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価、授業中の報告等と学生研究報告で100%評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 中国研究概論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

講義だけでなく、受講生による報告や実習等も行う。中国の歴史・政治・経済を専門とする学生の履修が望ましい。中国の文学・言語学・文化等を専門とする者には非常に難である。現代中国語と古典中国語の語学力が必要である。中国語未習者には、本科目の履修を薦めない。また、英語文献を取り扱うこともある。  
授業前に教員が提示した課題を準備して出席すること、また授業後に教材を見直し論点を整理すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

中国近代史 一次資料 中国政治 中国経済 現代中国

## 東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような態度を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近現代東南アジアの歴史、政治や社会について体系的に学び、当該地域に対する理解を深めることができるように指導する。(オムニバス方式 / 全15回)

## 1 田村慶子 / 5回

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会、エスニシティ、国民統合に関する文献を読み、受講生との討論を中心に授業を進める。

## 2 伊野憲治 / 5回

東南アジア、特にミャンマーを中心に、民主化問題を扱い、政治と文化の関係性に注目しながら文献を選び、受講生との討論を行っていく。

## 3 篠崎香織 / 5回

植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。ナショナリズム、移民などのテーマを中心に文献を選び、受講生による報告・討論を行う。

## 教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

\* これは学部3 - 4年生用の教科書であるので、大学院受講生の学力や知識によっては変わることもある。

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。

加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落 (岩波講座東南アジア史第6巻)』岩波書店、2002年。

池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開 (岩波講座東南アジア史 第7巻)』岩波書店、2002年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○白石隆『海の帝国—アジアをどう考えるか』中公新書、2000年。

○ベネディクト・アンダーソン(白石隆・白石さや訳)『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』NTT出版、1997年。

○東南アジア学会監修『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。

○伊野憲治『アウンサンスーチーの思想と行動』アジア女性交流・研究フォーラム、2001年。

工藤年博編『ミャンマー政治の実像—軍政23年の功罪と新政権のゆくえ』アジア経済研究所、2012年。

# 東南アジア研究概論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 【田村担当】

- 第1回 教科書、参考文献、スケジュールなどの説明。  
 第2回 『東南アジア現代政治入門』序章および第一章の輪読と議論  
 第3回 『東南アジア現代政治入門』第二章および第三章の輪読と議論  
 第4回 『東南アジア現代政治入門』第四章および第五章の輪読、議論  
 第5回 『東南アジア現代政治入門』第六章の輪読および議論、まとめの議論

### 【伊野担当】

- 第6回 東南アジア諸国における民主化についてーミャンマーを中心にー (講義)  
 第7回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (理論に関する邦語論文の輪読)  
 第8回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (理論に関する英語論文の輪読)  
 第9回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (ミャンマーに関する邦語文献の輪読)  
 第10回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (ミャンマーに関する英語文献の輪読)

### 【篠崎担当】

- 第11回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：序章～第4章  
 第12回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：第5章～終章  
 第13回 『植民地経済の繁栄と凋落』の輪読、議論。  
 第14回 『植民地経済の繁栄と凋落』および『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。  
 第15回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告や議論などの日常の授業への取り組み 70%  
 レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

東南アジア、港市国家、植民地支配、ナショナリズム、華僑、華人

# アメリカ社会史概論 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を身につける。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに、政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じることで、アメリカ社会を支えてきた人々の営み考え方、感じ方を受講生にとらえさせる。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示・配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告内容...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

# アメリカ社会史概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# アメリカ人種関係概論 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ人種関係概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人種・民族の多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

## 教科書 /Textbooks

Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.  
 Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.  
 Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.  
 Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性(ホワイトネス)」議論の登場
7. ホワイトネス各論1: M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論2: D.ローディガー
9. ホワイトネス各論3: その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
11. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀前半
12. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀後半
13. その他のグループ間関係
14. 21世紀のアメリカの人種関係
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アメリカ人種関係概論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。  
また、毎回の授業の前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際関係研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科  
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 国際関係の理論、国際経済、国際政治の基礎について包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する事項について、修得した知識と技術を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際関係研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、国際関係研究の基礎となる国際政治および国際経済の理論を主に学びます。そのうえで専門科目を学ぶにあたっての基礎的な素養をしっかりと身につけます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。適宜、各回の授業で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 マルクス主義 (1) 生成の背景と思想
- 第3回 マルクス主義 (2) 実践と現代における意味
- 第4回 巨視的歴史理論 (1) 従属論
- 第5回 巨視的歴史理論 (2) 世界システム論
- 第6回 リアリズム：覇権安定論
- 第7回 リベラリズム (1) 相互依存論
- 第8回 リベラリズム (2) 国際レジーム論
- 第9回 コンストラクティビズム：規範の役割
- 第10回 グローバル化する経済 (1) 自由貿易
- 第11回 グローバル化する経済 (2) 経済統合
- 第12回 グローバル化する経済 (3) 直接投資
- 第13回 国際統合論 (1) 連邦主義
- 第14回 国際統合論 (2) 交流主義、新機能主義
- 第15回 国際統合論 (3) ガバナンス論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に各回で学ぶ内容について、予備知識を文献やインターネットを通して得ておくこと。事後学習としては、レポート課題が出されるので、テーマに則した文献や資料を収集してレポートを書くこと。

# 国際関係研究概論 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、東アジア専攻の4名の教員によってオムニバス形式で行われます。

## キーワード /Keywords

# 現代中国政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国政治およびそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国政治およびそれに関連する事項について先行研究を収集することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 中国政治およびそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代中国政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国の近現代史を踏まえて、①中華人民共和国の成立過程と21世紀初頭までの歩み、②現代中国の政治体制について広く知識を修得し、現代中国が抱える諸問題について学術的な観点から議論できるようになることを授業の目的とする。

## 教科書 /Textbooks

Kenneth Lieberthal, *Governing China: From Revolution through Reform*, 2nd edition, W.W.Norton & Company, 2004.  
天見慧『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年。
- 毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動』はじめに・1章
- 3回 " 2・3章
- 4回 " 4・5章
- 5回 " 6・7章
- 6回 " 8・9章
- 7回 *Governing China* Chap.1
- 8回 " Chap.2
- 9回 " Chap.3
- 10回 " Chap.4
- 11回 " Chap.5~6
- 12回 " Chap.7~8
- 13回 " Chap.9~10
- 14回 " Chap.11~12
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % 課題提出物...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 現代中国政治研究 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

現代中国の近現代史・政治・経済・社会などについて基礎的な知識を備えていることが望ましい。  
授業では、テキストを熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点（3点程度にまとめる）等を用意してから授業に臨むこと。  
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代韓国経済研究【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代の韓国経済を学ぶことによって、東アジア経済発展のダイナミズムと脆さを理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきかを考察してみる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

現代韓国経済研究

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、アジアNIEsの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的な問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、何をもたらしたかを明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

趙淳 (深川博史監訳/藤川昇悟訳) 『韓国経済発展のダイナミズム』、法政大学出版局

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で適時指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 「序論」
- 第2回 「1950年代と1960年代の経済発展」
- 第3回 「概観」(1)：輸出志向工業化と重化学工業化
- 第4回 「概観」(2)：構造調整と民主化
- 第5回 「産業組織」(1)：大企業と中小企業の関係
- 第6回 「産業組織」(2)：政府の政策
- 第7回 「労働」(1)：韓国の労働事情
- 第8回 「労働」(2)：労働問題と政策的含意
- 第9回 「金融制度」(1)：銀行制度と証券市場
- 第10回 「金融制度」(2)：金融政策と金融改革
- 第11回 「対外貿易」(1)：貿易政策と貿易状況
- 第12回 「対外貿易」(2)：世界経済の中の韓国
- 第13回 「IMF経済危機」
- 第14回 「危機以降の韓国経済」
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

指定文献の報告...30%、授業での討論参加状況...30%、レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 現代韓国経済研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発独裁、財閥、輸出志向工業化、通貨危機、構造改革



## 日本社会史研究【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本の文化が形成される近世社会の歴史に関心を持ち、歴史を社会と生活文化の視点から捉えることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 著書や論文などの文献にとどまらず、実際にくずし字史料を解読して実証的な研究を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 単に一国史の視点にとどまることなく、アジアやヨーロッパと比較する視点を持つことによって世界史の中に位置づけることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

江戸時代の歴史とりわけ文化・思想の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『日本都市生活史料集成』(学習研究社)
- 『日本庶民生活史料集成』(三一書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 平戸町人別帳① 川崎屋
- 第3回 平戸町人別帳② 高麗人
- 第4回 犯科帳① 抜荷
- 第5回 犯科帳② 遊女
- 第6回 犯科帳③ 欠落
- 第7回 犯科帳④ 博奕
- 第8回 犯科帳⑤ 無宿
- 第9回 博多津要録① 捨て子
- 第10回 博多津要録② 茶屋
- 第11回 博多津要録③ 水主役
- 第12回 博多津要録④ 興業
- 第13回 博多津要録⑤ 寺内
- 第14回 補論
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 日本社会史研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 近代日本政治外交史研究【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 近代日本政治外交史に加え、広く世界に関する知識を修得している。現代世界が抱える問題について、歴史的な見地から議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 研究テーマに関して、先行研究を踏まえ、草書体史料などの一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 近代日本政治外交史に関する知識を国際社会で実践的に生かすことができる。歴史認識の多様性を理解し、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

近代日本政治外交史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史の研究書を読み進めていきます。毎回分担範囲を決めて、学生諸君に報告していただきます。本講義の狙いは、近代日本政治外交史研究のレベルを理解してもらうことにあります。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定しますが、奈良岡聰智『対華二十一カ条要求とは何だったのか』（名古屋大学出版会、6825円）、北岡伸一『門戸開放政策と日本』（東京大学出版会、6400円）を予定しております。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○外務省編・刊『日本外交文書竝主要文書』上・下巻(原書房、1965年)。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 『対華二十一カ条要求とは何だったのか』序章の講読。
- 3回 同上第1・2章の講読。
- 4回 同上第3・4章の講読。
- 5回 同上第5・6章の講読。
- 6回 同上第7・終章の講読。
- 7回 『門戸開放政策と日本』序章の講読。
- 8回 同上第1章の講読。
- 9回 同上第2章の講読。
- 10回 同上第3章の講読。
- 11回 同上第4章の講読。
- 12回 同上第5章の講読。
- 13回 同上第6章の講読。
- 14回 同上第7章の講読。
- 15回 同上第8章の講読。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告の内容...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 近代日本政治外交史研究 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに教員から提示された課題を完遂すること。授業終了後には講義中指摘された問題点を自分なりに考え、次週の講義に臨むこと。明治期の文語体の文章を読んでおいて下さい。あらかじめ、ある程度テキストに目を通しておいて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

半期で2冊を通読するというスケジュールはややハードですが、がんばって参りましょう。なお、受講者の能力によってはシラバスの内容に若干の変更を加えることもあり得ます。この点、ご了承下さい。

## キーワード /Keywords

# 東南アジア近現代史研究 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代世界とのつながりのなかで、東南アジア近現代史を理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として応用することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア近現代史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。まず、19世紀から20世紀にかけて伝統的な港市国家が近代的な植民地国家に再編された過程をおさえる。そのうえで、その過程で展開した社会変容への対応、自立の模索、人やモノの越境などのテーマを中心的に取り上げ、受講生による報告・討論を行う。

## 教科書 /Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。  
杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。  
加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。  
後藤雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史第7巻）』岩波書店、2002年。  
後藤乾一ほか編集『国民国家形成の時代（岩波講座東南アジア史第8巻）』、2002年。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。  
このほかにも授業中に別途指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 3回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(2) 第2章～第4章
- 4回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(3) 第5章～終章
- 5回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 6回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(2) 第2章、第3章
- 7回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(3) 第9章、第10章
- 8回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(1) 【開発】
- 9回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(2) 【貿易】
- 10回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(1) 【抵抗運動】
- 11回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(2) 【ナショナリズム】
- 12回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(3) 【革命】
- 13回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論(1) 【脱植民地化】
- 14回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論【国家形成】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

# 東南アジア近現代史研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基本的にテキストに沿って進める。東南アジアについて基本的な知識がない受講者は、学部（国際関係学科）で開講している東南アジア研究概論、東南アジアの社会と歴史、東南アジアの政治と外交などを受講のうえ本科目を受講するか、これらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 東南アジア地域研究I 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代国際社会における地域研究的アプローチの重要性を認識し、自ら運用できる知見と能力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観できる能力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 各研究テーマに即して、研究と実践との相関関係を把握する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究 I

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：地域研究の起源【起源】
- 第3回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
- 第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
- 第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
- 第7回：東南アジア研究の視点（風土・生態系）【風土・生態系】
- 第8回：東南アジア研究の視点（宗教・世界観）【宗教・世界観】
- 第9回：東南アジア研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第10回：東南アジア研究の視点（歴史）【歴史】
- 第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
- 第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
- 第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
- 第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%  
報告内容50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 東南アジア地域研究I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究



# 東南アジア地域研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 東南アジア地域の近現代史、独立後の政治や社会の変容に関する基礎的な知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 広く先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような行動力を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究II

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：  
岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。  
Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年  
\* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。  
\* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回 『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
- 第3回 『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
- 第4回 『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
- 第5回 『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
- 第6回 アジア政治の課題について議論する
- 第7回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
- 第8回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
- 第9回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
- 第10回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
- 第11回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
- 第12回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
- 第13回 華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
- 第14回 これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
- 第15回 補足とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

## 東南アジア地域研究II 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。  
アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことがない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に・積極的に学習して欲しい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

## アメリカ社会史研究 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を深める。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を深める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代アメリカ社会の始まりは、19世紀末～20世紀初頭の革新主義時代であるとされる。本授業においては、革新主義時代のアメリカ社会形成を中心に、現代アメリカ史に関する基本文献を読み、アメリカ社会をよりよく理解する端緒とする。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示・配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2 回 都市の時代：1893年シカゴ万博と都市の拡大
- 3 回 都市の時代：ハル・ハウスと移民の生活
- 4 回 都市の時代：ハル・ハウスと貧困・階級
- 5 回 労働争議の時代：プルマン・ストライキと労働問題
- 6 回 労働争議の時代：労働組合と労働問題
- 7 回 労働争議の時代：フォーディズムと労働問題
- 8 回 大衆消費の時代：郊外化とアメリカ文化
- 9 回 大衆消費の時代：都市化とアメリカ文化
- 10 回 大恐慌の時代：不況と政治
- 11 回 大恐慌の時代：不況と家族・家庭
- 12 回 大恐慌の時代：不況と労働運動
- 13 回 冷戦の時代：冷戦と反共主義
- 14 回 冷戦の時代：冷戦と家族・家庭
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの参考文献を積極的に読むことを薦める。

# アメリカ社会史研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカ人種関係研究 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得し、それに基づいて、現代世界が抱える問題について専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

アメリカ人種関係研究

## 授業の概要 /Course Description

人種・民族の多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

## 教科書 /Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.  
 David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].  
 David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.  
 Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 優生学の登場
3. 「新移民」と人種
4. ホワイト・エスニックとは
5. 反ユダヤ主義の系譜
6. 戦争と人種問題 1：アフリカ系アメリカ人
7. 戦争と人種問題 2：ホロコーストの記憶と反省
8. 戦争と人種問題 3：日系人と強制収容
9. 公民権運動をめぐる議論 1：1950年代
10. 公民権運動をめぐる議論 2：1960年代前半
11. 公民権運動をめぐる議論 3：1960年代後半
12. ポスト公民権運動期の人種関係
13. 文化多元主義と多文化主義
14. 今日のアメリカの人種関係とその展望
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%

## アメリカ人種関係研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。  
また、毎回の授業の前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際経済研究 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。グローバル社会が抱える諸問題を経済学の視点から理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 経済学の分析手法を身につけ、国際経済の現実問題に応用して議論を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能を生かし、国際的な視野に立って物事を考える。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、不完全競争市場下の貿易政策の経済分析を学習する。部分均衡分析の手法を用いて、国際貿易政策の分析に応用できることを期待している。

到達目標は以下の通りである。

- ① 不完全競争の市場構造を理解できる。
- ② 貿易政策の経済分析の基本ツールを身につける。
- ③ 現実の貿易政策を調査し、経済学の視点から分析できる。

## 教科書 /Textbooks

Helpman E. and P.R. Krugman 『Trade Policy and Market Structure』(MIT Press)  
和訳：大山道広訳『現代の貿易政策』(東洋経済新報社)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』(東京大学出版社)  
柳川範之著『戦略的貿易政策』(有斐閣)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策と市場支配力【戦略的效果】【生産効率】
- 3回 完全競争下の貿易政策I【関税】【輸入割当】【輸出補助金】
- 4回 完全競争下の貿易政策II【最適関税理論】
- 5回 保護と国内市場支配力I【国内独占】【関税】【輸入割当】
- 6回 保護と国内市場支配力II【国内寡占】
- 7回 外国企業による市場支配I【外国独占】【関税】【数量制限】
- 8回 外国企業による市場支配II【クールノー型寡占】【ベルトラン型寡占】
- 9回 外国企業による市場支配III【寡占のもとでの割当】
- 10回 戦略的輸出政策I【戦略的輸出補助金政策】【レントシフト】
- 11回 戦略的輸出政策II【価格競争】【規模の経済】
- 12回 戦略的輸入政策I【関税】【輸入割当】
- 13回 貿易政策調査発表I
- 14回 貿易政策調査発表II
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出・発表 70 %

# 国際経済研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学の知識が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 国際機構研究 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際機構の理解に必要な基礎的・専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際機構に関する先行研究を踏まえ、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際機構をめぐる実践的な問題に関心を持ち、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

国際機構研究

## 授業の概要 /Course Description

国際機構に関する理解を深めるために、国際機構の目的、制度、機能および課題を研究する。

## 教科書 /Textbooks

Clive Archer, International Organizations, Fourth Edition, Routledge, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの講読と報告を通じて、国際機構の現代的展開を概観および考察する。

- 第1回 はじめに
- 第2回 テキスト第1章【国際機構の定義】
- 第3回 テキスト第1章【国際機構の歴史】
- 第4回 テキスト第2章【国際機構への加盟】
- 第5回 テキスト第2章【国際機構の目的と活動】
- 第6回 テキスト第3章【現実主義と国際機構】
- 第7回 テキスト第3章【修正主義と国際機構】
- 第8回 テキスト第3章【急進主義と国際機構】
- 第9回 テキスト第4章【国際機構の役割】
- 第10回 テキスト第4章【国際機構の機能】
- 第11回 テキスト第4章【グローバル・ガバナンス】
- 第12回 テキスト第5章【国際機構の将来】
- 第13回 テキスト第5章【国際機構の課題】
- 第14回 テキスト第5章【国際機構のもうひとつの可能性】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加50%、報告50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

国際機構に関する入門書・専門書を事前に購読しておくこと。

# 国際機構研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

海外・国内ジャーナルに掲載された経済政策に関する論文を熟読する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済政策に関する高度な専門知識を修得する。
- ② 現在の経済問題を理解し、その解決策を明瞭な文章と口頭で説明できる。

## 教科書 /Textbooks

適時、論文を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス  
2回～15回  
毎回、配布した論文の内容について報告してもらう。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

興味のある経済政策分野についてある程度の知識と英語文献を読む能力が必要。  
毎回、前回の内容を復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の完成するための基礎訓練を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌  
経済数学

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：  
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要  
前回の内容の理解を確認して、出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

学生が自身の研究テーマのために必要とする計量経済モデルについて、各自学習し、発表を行う。これを通じて、計量経済分析のイメージを自身のテーマと関連して持つことができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料および実証分析の論文を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各種学術研究検索サイト

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本となる統計学・計量経済学についてやや詳しく扱う資料を輪読する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 資料の中から各自ひとつずつ話題を選んで発表。
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 関心のある先行研究論文を1本ずつ選び、内容の報告。前回までで学んだモデルがどのように用いられているかを中心に報告する。
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80%, 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

上記のGeNiiを用いて、各自の関心のある研究分野について先行研究を検索しておく。  
 事前に指示した文献・資料を読んでからご参加ください。  
 授業後に疑問点を整理して下さい。

# 特別研究基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講者の関心・能力に指導者の関心・能力を加味し、修士論文につながる研究テーマを見つける。

## 教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
いくつかの文献を報告してもらい、それを手がかりに研究テーマを絞り込んでいく。  
毎回の文献輪読を基本とする。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず予習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

マクロ経済学の標準的文献を輪読する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を要求する。報告を割り当てられなかった参加者には積極的な質疑への参加を要求する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析について論究し、特別研究論文の作成のために、ミクロ経済分析の論理と方法について必要な基礎知識を習得する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時間中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2～4回 興味・関心のあるミクロ経済問題について調査報告
- 5～6回 ミクロ経済分析的アプローチ論究
- 7～13回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告
- 14回 現代ミクロ経済学の展開
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30 % レポート 70 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学についての基礎知識を十分に修得しておくこと

## キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマ確定に向けて、先行研究の内容報告、参考文献一覧の作成、修士論文の目次作成などを行う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～10回 先行研究・参考文献の講読。レジユメによる学生の発表形式で行う。
- 11回 正しい引用の仕方・参考文献表の作り方を説明する。
- 12回～15回 修士論文のテーマ、目次、参考文献一覧を作成する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジユメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。前期の本科目では統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

浅野 哲、中村 二郎(2009)『計量経済学』第2版、有斐閣

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習として、教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。事後学習としては、簡単な練習問題を解くこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

統計学、統計的推定、統計的検定

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学—理論と実践』 勁草書房 2005年○  
 岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○  
 環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 ( 25% )、発表 ( 25% )、期末試験 ( 50% )

# 特別研究基礎 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義前までに指定したテキストの該当する章、論文などを予め教科書を読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に資する基礎的な知識を得るとともに、受講生による更なる問題意識の顕在化に努め、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、その都度紹介。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODククション・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度、30%：期末のレポート、70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。



# 特別研究基礎 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文の課題を策定することは非常に重要です。興味を持っていることを理解可能で論文となり得る形の課題として策定することに注力します。

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

概して、現代の財務会計上の重要な課題というのは、個々の資産の特性の相違や経済的環境の著しい変化も顧みず、「価値」と「コスト」に大幅な乖離がみられる資産に対しても、伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）を一律に適用しようとしているところから生じているように思われる。そのことが、企業の経済的実態（経済的現実）の忠実な表現（描写）を阻害する極めて大きな要因になっているのである。現代の財務会計の主要な論点のひとつは、こうした伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）による歪んだ像を、より現実的な写像を提供できるように、可能な限り修復しようとする一連の試みであるといえるのかもしれない。常にこうした問題意識を持ちながら、特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、醍醐聡『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松章編『現代の財務経営（6）経営分析・企業評価』（中央経済社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を主要テーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待したい。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分に予習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

大学院における会計学の基礎を勉強するために、財務会計論ないし会計学原理のテキストの個別のテーマを取り上げて、会計について深く考えたいと思う。

## 教科書 /Textbooks

友岡賛『会計学原理』税務経理協会

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回  
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジユメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。  
事前学習：著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考論文、インターネットなどで学習しておくことが望ましい。  
また、事前の課題に対して十分な予習をしておくこと。  
事後学習：演習で残した課題については、図書館などを活用して、調べて、考えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

無

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

無

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2~15回 修論指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合を総合的に評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業は、予習と復習を必要とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

経営組織論に関する文献を読み込み、現実と結び合わせながら考える力を身につけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上、決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)  
 H.A.サイモン(二村敏子・桑田耕太郎・西脇暢子・高柳美香・高尾義明訳)『新版 経営行動』ダイヤモンド社、2009年(○)  
 M.P.フォレット(米田清貴・三戸公訳)『組織行動の原理』未来社、1972年(○)  
 三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス  
 第2回～第15回 文献整理・報告・議論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表...50% 授業への参加度...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参考文献を熟読しておいてください。講義前には、教科書の該当箇所を読み込んで講義に臨んでください。また講義後にもう一度教科書を読み復習しておいてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデルなど複雑系手法、サポートベクトルマシン、ニューラルネット（真相学習）など機械学習を経済に応用した主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス  
第2回～第15回：文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 50% 日常の授業への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布資料、およびテキストを事前にしっかり読み込み、講義後にはしっかり理解できていない部分の復習を必ずすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指定します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要なと考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

講義の前後で資料整理(予習・復習)をすることで、論文作成に向けての研究ノートとして下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

## キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革



# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本科目は大学院の所属ゼミ演習科目に該当します。演習の主旨は、修士論文に向けた指導を行うことです。本科目は修士論文を作成する前提知識として、研究の進め方、論文の読み方・書き方、社会科学的研究法に関する専門的内容を学習することを目標としています。本科目では、毎回のように論文や研究書を渡し、諸君に読んできてもらうことを必須としますが、決して平板な輪読に終始することを目論んでいるわけではありません。諸君が主体的に論文や本から知識を取り込むとともに、自身の見解や主張を論理的に、かつ科学的な作法に基づいて発信すること、これを達成するための演習と位置づけています。また、本科目の終盤では修士論文のテーマをある程度確定してもらうこととします。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、毎回のようにリーディングスを配布・貸与します。これらはすべて必読です。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大谷信介・木下栄二ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房(複数版があるので、演習時に紹介する)。  
○ダン・レメニイ著、小樽商科大学ビジネス創造センター訳『研究の進め方』同文館出版。  
○伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文の読み方
- 第2回 研究の進め方概論
- 第3回 よいリサーチ・クエスションとは
- 第4回 概念的思考
- 第5回 理論構築の方法
- 第6回 概念の操作的定義
- 第7回 仮説の立て方
- 第8回 仮説検証型論文の検討
- 第9回 サーベイ・リサーチの方法(質問票作成、ワーディングなど)
- 第10回 サーベイ・リサーチの方法(データ収集の方法)
- 第11回 サーベイ・リサーチの方法(回収後の作業、分析について)
- 第12回 ケース・スタディの方法
- 第13回 ケース・スタディの実例
- 第14回 エスノグラフィーの方法、その他の一次資料収集方法
- 第15回 総まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回課題を課し、その結果をこちらで採点する。その合計点によって評定する(100点満点)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

人的資源管理の専門的内容については、「人的資源管理」の科目のなかで扱うので、そちらを併せて受講すること。一方、こちらの科目では人的資源管理そのものを対象とした演習を行なうわけではない。  
さらに、「経営学」「経営戦略」「経営組織」の並行受講を必須とする。  
大学院生なので当然のことであるが、各回における授業外学習すなわち予習復習を怠らないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士論文では1次資料の収集を必須とする。換言すれば、これを満たさない論文は不可とする。  
これを行おうとすれば、この演習の知識は最低限必要となる。さらに、サーベイ・リサーチの方法をとる場合は、統計的方法論に通じていなければならない。本演習では統計学の基礎知識について教授することはないため、他の専門科目において学習を深めておくこと（もちろん統計ソフトを使えば統計分析が手軽にできるのだが、その分析過程や解釈において、統計学の知識が欠落していると深い分析はできないものと考えよ）。  
加えてアドバイスするとすれば、統計的方法論の理解のためには、確率・統計や微積分といった数学の知識が必要であることは間違いない。

## キーワード /Keywords

経営学方法論、理論構築、仮説検証、サーベイ・リサーチ、ケーススタディ

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための準備をする。

## 教科書 /Textbooks

とくになし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 各自の研究テーマに沿った論文を読み報告する。
- 15回 まとめとしてレポートを作成する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の完成するための基礎訓練を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌  
統計解析

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：  
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要  
前回の内容の理解を確認して、出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

計量経済モデルを現実のデータにあてはめてひとつの統計分析結果を得るには、考慮すべき様々な問題が存在する。これらについて、参加者同士の議論を通じて経験していく。修士論文相当のイントロダクションの青写真を作ることが目的である。

## 教科書 /Textbooks

用いない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて別途指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教員による研究論文をサンプルとして提示：「なぜ、何を、どのように分析するか」を考えながら作業することを学ぶ。併せて、研究遂行上の困難とその解決方法の事例を学ぶ。
- 2回 どんな問題に興味があるか、先行研究論文数本を選び、自身の興味の背景とともに内容を報告。
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 先行研究で用いられている計量経済学的な分析手法を報告。それを自分の興味対象に応用するにはどのようなデータが必要で、どのようなデータが利用可能かを報告。
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 データの利用可能性を前提にして、計量経済モデルの組み合わせ・修正を検討する。
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80%, 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究 1 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

興味のある先行研究を探しておくこと。

事前に指示した文献・資料を読んでからご参加ください。  
授業後に疑問点を整理して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究テーマに関連する主要文献を徹底して読込み、理論的考察のための枠組みを構築する。

## 教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

受講者の文献報告にしたがって精読の方法、思考のまとめ方などについて指導していく。  
文献輪読と受講者の研究報告を中心に進めていく。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習はもちろんのこと、授業を通じて自らの研究体制を固めてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

マクロ経済学の標準的文献を輪読する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を要求する。報告を割り当てられなかった参加者には積極的な質疑への参加を要求する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# 特別研究 1 【昼】

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて論文を作成し報告する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 3～8回 特別研究テーマの調査・研究報告
- 9～14回 特別研究論文の作成および報告
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジユメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

## キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の内容の発表、先行研究の報告、修士論文に盛り込むデータと図表の作成を行う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～10回 修士論文の内容、とりわけ、本文に相当する部分を学生が執筆・発表し、指導する。
- 11回～13回 修士論文に盛り込むデータ・図表を学生が作成・発表し、指導する。
- 14回～15回 修士論文の問題の設定と予想される結論について、学生が発表し、指導する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジユメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。本科目では計量経済学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

浅野 哲、中村 二郎(2009)『計量経済学』第2版、有斐閣

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習として、教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。事後学習としては、簡単な練習問題を解くこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

計量経済学、内生性

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学の分野に関する実証分析の論文を理解するために必要な計量経済学の分析手法について学習し、講義の後半では論文を読む。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 計量モデルの推定と検定、統計分析結果を理解できるようになる。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

浅野・中村 『計量経済学』第2版 有斐閣 2009年 ○  
Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education ○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明と計量経済学について
- 2回 回帰分析1 【単回帰】、【推定】、【検定】
- 3回 回帰分析2 【系列相関】、【不均一分散】
- 4回 回帰分析3 【重回帰】、【多重共線性】
- 5回 操作変数法1 【同時方程式】、【識別問題】
- 6回 操作変数法2 【2段階最小二乗法】
- 7回 時系列分析1 【VAR】、【因果性検定】
- 8回 時系列分析2 【単位根】、【共積分】
- 9回 パネルデータ分析 【固定効果】、【変量効果】
- 10回 離散選択モデル 【プロビットモデル】、【ロジットモデル】、【トービットモデル】
- 11回 環境経済学関連の論文の紹介
- 12回 スマートグリッドの経済分析の論文の紹介
- 13回 デマンドレスポンスの経済分析の論文の紹介
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 ( 25% )、発表 ( 25% )、期末試験 ( 50% )

# 特別研究 1 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義前までに指定したテキストの該当する章、論文などを予め教科書を読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。  
学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分、統計学の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学、統計学の復習をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に寄与するべく、受講生による更なる問題意識の顕在化に努めるとともに、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、その都度紹介。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をととして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度と進捗、30%：期末のレポート、70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

# 特別研究 1 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文の課題に係わる先行研究を広く調べ、何が分かっているか、なぜそのように導き出されたか、そして何が分かっていないか等を整理することが、その後の課題に係わる解析の基礎となります。きめ細やかで丁寧な先行研究のレビューを心がけて下さい。

## キーワード /Keywords



# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

概して、現代の財務会計上の重要な課題というのは、個々の資産の特性の相違や経済的環境の著しい変化も顧みず、「価値」と「コスト」に大幅な乖離がみられる資産に対しても、伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）を一律に適用しようとしているところから生じているように思われる。そのことが、企業の経済的実態（経済的現実）の忠実な表現（描写）を阻害する極めて大きな要因になっているのである。現代の財務会計の主要な論点のひとつは、こうした伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）による歪んだ像を、より現実的な写像を提供できるように、可能な限り修復しようとする一連の試みであるといえるのかもしれない。常にこうした問題意識を持ちながら、特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、醍醐聰『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松章『現代の財務経営（6）経営分析・企業評価』（中央経済社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を主要テーマとして、テキストを輪読し、解説することにしたい。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待したい。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究 1 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分に予習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代会計の変化が早く、それに追従するあまり、会計学の古典を読む機会が少ないので、本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて検討したいと思う。

## 教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回  
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジュメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。  
事前学習：著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考論文、インターネットなどで学習しておくことが望ましい。  
また、事前の課題に対して十分な予習をしておくこと  
事後学習：演習で残した課題については、図書館などを活用して、調べて、考えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

無

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

無

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2~15回 修論指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によって評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業は予習と復習を必要とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

経営組織論に関する文献を読み込み、現実と結び合わせて考える力を身につけることを目指します。  
修士論文のテーマを決定していきます。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)  
H.A.サイモン(二村敏子・桑田耕太郎・西脇暢子・高柳美香・高尾義明訳)『新版 経営行動』ダイヤモンド社、2009年(○)  
M.P.フォレット(米田清貴・三戸公訳)『組織行動の原理』未来社、1972年(○)  
三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス  
第2回～第15回 文献整理・報告・議論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表...50% 授業への参加度...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参考文献を熟読しておいてください。講義前には、教科書の該当箇所を読み込んで講義に臨んでください。また講義後にもう一度教科書を読み復習しておいてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のためのに必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデル、ニューラルネット（真相学習）など複雑系手法、機械学習の手法を経済に応用した複雑系経済学に関する主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス  
第2回～第15回：文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布資料、およびテキストを事前にしっかり読み込み、講義後にはしっかり理解できていない部分の復習を必ずすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派アプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指定します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要なと考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

講義の前後で資料整理(予習・復習)をすることで、論文作成に向けての研究ノートとして下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

## キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この科目では、1学期に立ててもらった研究テーマに沿って、各種文献を集め、読み込んでいくことを目標とします。修士論文では実証研究であることを必須としていますが、実証を行うためには事前の文献サーベイをどれだけ行うかが鍵になります。また、1年次に十分な文献サーベイを行わないことには、2年次での実証に間に合いません。したがって、本演習のなかで大量の文献を押さえておきましょう。もちろん闇雲に読むでは意味が無く、自分の問題意識に照らし合わせながら知識を得るとともに、既存研究を一定の立場から批判することも重要です。また、テーマが確定したからといって、読む論文の幅を狭めないほうがよいでしょう。むしろ、テーマに関する文献をまずは広く浅く読んでみて、そのなかで関心のある領域について深く追究していくプロセスを推奨します。本演習は広く浅くという観点から、テーマに関する前提知識を習得できるような論文読解を目指します。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、各自のテーマに応じて変化するため、ここで挙げることはまずできません。もちろん、テーマが決まれば関連文献を福井から紹介することはあります。しかし、各自で探すことも重要な作業です。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この演習の計画を事前に立てることは難しいです。なぜなら、受講者の研究テーマが決まっていないためです。にもかかわらず、シラバスには計画を書かなければなりません。いま仮に、受講者が「人事考課」についての研究を進めることになったと仮定して、その場合どのような文献を順に読み進めるかを例示する形で、計画としたいと思います。

- 第1回 対人評価における人事考課の位置づけ
- 第2回 人事考課の史的変遷 (概ね戦前まで)
- 第3回 人事考課の史的変遷 (戦後～高度経済成長期)
- 第4回 人事考課の史的変遷 (安定成長期～バブル期)
- 第5回 人事考課の史的変遷 (バブル崩壊以降～現在)
- 第6回 人事考課におけるerrorに関する諸研究
- 第7回 人事考課におけるaccuracyに関する諸研究
- 第8回 人事考課のpurposeに関する諸研究
- 第9回 人事考課のfairnessに関する諸研究
- 第10回 人事考課における評価者の認識枠組の研究
- 第11回 人事考課の技法に関する研究
- 第12回 人事考課と目標管理
- 第13回 人事考課とコンピテンシー
- 第14回 人事考課と多面評価
- 第15回 人事考課からパフォーマンス・マネジメントへ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回、各自のテーマに関連する報告を義務付け、各回の成績が点数化されます。その点数の合計点をもって本科目の最終評定とします。



## 特別研究 1 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

「経営学」「経営組織」「経営戦略」「人的資源管理」を必ず並行履修してください。  
また、これら以外に自身にとってプラスになる科目については積極的に履修してもらいたいです。くれぐれも曜日の都合のみで時間割を組むことの無いよう。  
また当然のことですが、大学院生であるからには授業外の学習（予習・復習）が必須であることを心得てください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでいくつか修士論文の審査に立ち会ってきましたが、既存研究を無批判に引用する論文が目立ちます。もちろん既存研究が正しいと思えることはありますが、すべてを受容できるわけではないでしょうし、自分の考えとは異なることもあって当然です。にもかかわらず論文内に批判が一点もないことがあります。既存研究を読んで何も感想や意見が出てこないのは、おそらく勉強不足から来ています。批判を行うには、自分自身に一定量の知識が必要であり、確固たる自分の見解が必要だからです。既存研究の渉獵が不足しているために、批判ができないというのは、修士論文の水準からすれば不十分といわざるを得ません。この演習を通じて、一定の水準に達してもらえればと思います。

## キーワード /Keywords

人的資源管理、修士論文、参考文献

# 特別研究 2 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の中間報告を目指してデータの収集と論文執筆の両方を同時に実施する。

## 教科書 /Textbooks

とくになし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～14回 研究報告
- 第15回 中間報告に向けての準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の取り組み・・・50%
- 論文内容・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、報告内容を改善しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 2 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要。  
前回の内容の理解を確認して、出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 2 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマについて論文を作成・報告し、論文完成に向けての準備を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～8回 特別研究テーマの調査・研究報告
- 9～14回 特別研究論文の作成および報告
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 3 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中間報告での指摘をもとに論文を改定し、修士論文を完成させる。

## 教科書 /Textbooks

とくになし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス ( 中間報告での指摘の確認 )
- 第2回～第14回 論文報告
- 第15回 修士論文報告会への最終準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の取り組み・・・ 50%
- 論文内容・・・ 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、論文作成の準備と前回の報告内容の改善をしておくこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 3 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要。  
前回の内容の理解を確認して、出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 3 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文を作成・報告し、修士論文をまとめる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～ 8回 修士論文の調査・研究報告-論理の流れの最終的確定
- 9～ 14回 修士論文の細目の修正・完成
- 15回 修士論文の提出と最終的なプレゼン

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジюме(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 社会の諸問題にかかわる社会心理学の専門知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 人間関係に係わる諸課題を社会心理学的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間関係に係わる諸課題に対して社会心理学の観点から対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会心理学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多くない場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

社会心理学の研究法の主な特徴を理解した上で、社会心理学の理論が他の複数の学問分野にどのように関連するかを理解し、説明できるようになることが到達目標である。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。



# 社会心理学 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半（7, 8回程度）の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には、受講者からテキストの各節（参加人数によって、各自の担当ページ数や進度は異なる）の内容を報告してもらい、その内容について補足の講義を行う。その後、皆で議論する。

後半（7, 8回程度）は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする。受講者が8名以下であれば、1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また、受講者各自の研究テーマの発表を交えながら、様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学，教育学，社会学，人類学等との関連
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 %    議論への参加等 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生涯学習論【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 生涯にわたる学習の特性や理論について専門的知識を修得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 学習者の課題発見・解決プロセスを理解・分析する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 学習者の課題発見・解決プロセスを支援・促進する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

生涯学習論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。  
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- パトリシア・クラプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房
- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- その他、学会年報や紀要など

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答・・・70%、レポート・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 生涯学習論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 臨床心理学に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を臨床心理学の観点から調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題に臨床心理学の観点から解決策を提案できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

臨床心理学

## 授業の概要 /Course Description

E.Eriksonの漸成理論を拠り所にして、乳児期から老年期までの生涯発達を通じて、各発達段階における不適応の諸特徴、ならびに発達課題と不適応との関連を理解すると同時に、各発達段階に応じた臨床心理学的援助のあり方について考究する。その際、治療現場での臨床事例を取りあげ、その治療プロセスを詳細に検討することで、理論的・実践的な理解を深めていくこととする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。プリントを配布する予定である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 松島恭子(編)『ライフサイクルの心理療法』創元社  
 ○『臨床心理学体系3 ライフサイクル』金子書房  
 ○下山晴彦・丹野義彦(編)『講座 臨床心理学5 発達臨床心理学』東京大学出版会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本科目の概要と進め方  
 第2回～第4回 乳幼児期の不適応と臨床心理学的援助  
 第5回～第7回 児童期の不適応と臨床心理学的援助  
 第8回～第10回 青年期の不適応と臨床心理学的援助  
 第11回～第13回 中年期・老年期の不適応と臨床心理学的援助  
 第14回～第15回 ライフサイクルと不適応(これまでの内容をもとに全体討論を実施)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度 ... 10% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、発表担当者はレジユメを作成すること。また、その他の者も資料を事前に読んで内容についての疑問や意見をまとめておくこと。  
 授業終了後は、レジユメ等に目を通しながら、授業内容に関する理解を深めること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 臨床心理学 【夜】

キーワード /Keywords

# 社会福祉援助論【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 人間の生活困難に関して調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会福祉援助論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代における社会福祉研究の動向を踏まえ、社会福祉援助の枠組みの制度的変化や意味について吟味し、社会福祉援助に関する方法的検討を中心とした理論的検討を行う。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 社会福祉とは何かに関する文献購読と討論
- 4～8回 社会福祉の援助論、特に1960～70年代の文献購読
- 9～13回 社会福祉の援助論、特に1980年代以降の文献購読
- 12～15回 まとめの討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献購読が一定量必要となるので覚悟のこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 児童福祉論【夜】

担当者名 /Instructor 土井 高德 / Takanori Doi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	児童家庭福祉の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	児童家庭福祉に関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	児童家庭福祉に関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

児童福祉論

## 授業の概要 /Course Description

児童福祉の今日的課題を概観する。

司法・福祉・医療・教育・心理の専門家を悩ませている「虐待・非行・発達障害」の困難を抱える青少年の事例検討を行う。

修士課程での2年間の研究活動に必要な基礎的な知見の取得、研究方法の習得、フィールドの場の確立をめざす。

## 教科書 /Textbooks

「青少年の治療・教育的援助と自立支援 - 虐待・発達障害・非行など深刻な問題を抱える青少年の治療・教育モデルと実践構造 - 」 ( 福村出版株式会社 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「神様からの贈り物 里親・土井ホームの子どもたち 希望と回復の物語」 ( 福村出版株式会社 )

「虐待・非行・発達障害 困難を抱える子どもへの理解と対応-土井ファミリーホームの実践の記録」 ( 福村出版株式会社 )

「思春期の子に、本当に手を焼いたときの処方箋33」 ( 出版社小学館 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション

2～14回 レポートの発表、討議、講義

15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加50%、発表レポートの内容50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 児童福祉論 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に関する情報 [http://blogs.yahoo.co.jp/s\\_family\\_home/folder/1017569.html](http://blogs.yahoo.co.jp/s_family_home/folder/1017569.html)

社会福祉情報 [http://blogs.yahoo.co.jp/s\\_family\\_home/folder/943597.html](http://blogs.yahoo.co.jp/s_family_home/folder/943597.html)

[http://blogs.yahoo.co.jp/s\\_family\\_home/folder/943597.html](http://blogs.yahoo.co.jp/s_family_home/folder/943597.html)

## キーワード /Keywords



# 人間環境学【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

人間環境学

## 授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、先史時代、歴史時代を通して変動しており、文明は環境に深く関わりをもって生まれ、消滅してきたと考えられています。環境と文明の関連を考えることは、現代の環境問題、ひいては現代文明の行く末を見きわめる手がかりともなります。今年度の人間環境学演習では、地質学者と歴史学者が書いた2冊の本を用いて、大地震と歴史の関わりについて地質学と歴史学の2つの視点から考えます。

この科目の主な到達目標は以下のとおりです。  
 人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。  
 人間と文化の環境との関わりに関する諸問題を調査・分析できる。

## 教科書 /Textbooks

○寒川旭「日本人はどんな大地震を体験してきたのか 地震考古学入門」平凡社、2011年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○保立道久著「歴史の中の大地動乱—奈良・平安の地震と天皇制—」岩波書店、2012年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
 最初の授業で、分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールを進めます。  
 テキストを読んで発表・討論することになりますが、必要に応じて最新の情報も提供します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 30% 発表の内容 ... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表の担当でない回でもテキストを読んでおいてください。また、新聞やインターネット情報などに目を通し、関連する記事があれば読んでおくにより理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 人間環境学 【夜】

キーワード /Keywords

## 文化社会学【夜】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	文化と人間関係の関連について理解するための専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	文化と人間関係の関わりを見定め調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△	文化と人間関係の関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

文化社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会学領域において必須とされる社会理論・文化理論・批判理論の基礎理論を中心として、現代社会の様々な事象を批判的に分析する方法について能動的に学び、学位論文にむけた理論的・方法的な能力を養う。  
毎回、履修者は指定されたテキストの要旨と論点をまとめたディスカッションペーパーを持参し、講義および全体討論を実施する。  
本年度は社会構築主義を中心に、「社会問題の社会学」をテーマとする。

## 教科書 /Textbooks

最初の数回は講義資料を担当教員が事前に配布する。その後は履修者の個別の研究計画などを鑑みて妥当なものを決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：社会構築主義の基礎（前編）①
- 2回：社会構築主義の基礎（後編）②
- 3回：社会構築主義（前編）①
- 4回：社会構築主義（後編）②
- 5回：社会問題の社会学（基礎編）①
- 6回：社会問題の社会学（基礎編）②
- 7回：社会問題の社会学（基礎編）③
- 8回：社会問題の社会学（応用編）④
- 9回：社会問題の社会学（応用編）⑤
- 10回：社会問題の社会学（応用編）⑥
- 11回：社会問題の社会学（応用編）⑦
- 12回：社会問題の社会学（応用編）⑧
- 13回：社会問題の社会学（応用編）⑨
- 14回：社会問題の社会学（応用編）⑩
- 15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内評価50%。ディスカッションペーパーによる全体議論への参加50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 文化社会学 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

指定する講読資料は英文の場合もあるのでその旨を理解しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 都市社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 都市社会と人間との関わりについて理解するための理論的な枠組みを学習し、都市の社会的分析に関する専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 都市社会と人間との関わりについて調査・分析する基礎的技能を習得する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 都市社会と人間との関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。  
 具体的には、以下の事柄について理解する。  
 ( 1 ) 産業化と都市化の関係  
 ( 2 ) 都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方  
 ( 3 ) さまざまな社会現象における「都市的なもの」の意味  
 ( 4 ) 都市計画の課題と可能性  
 ( 5 ) 都市における社会現象を把握する技法  
 なお、授業は演習形式も交えて行う。

## 教科書 /Textbooks

『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』, 町村敬志・西澤晃彦著, 2000, 有斐閣

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『よくわかる都市社会学』, 中筋直哉・五十嵐泰正編著, 2013, ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生
- 第3回 都市へのまなざし
- 第4回 都市的世界の構造
- 第5回 個性化のメカニズム
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス
- 第7回 都市生活の基盤
- 第8回 居住点から広がる社会
- 第9回 郊外という迷宮
- 第10回 政治権力と都市
- 第11回 見える都市、見えない都市
- 第12回 都市の計画と再生
- 第13回 ユートピアとしての都市
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 70% 参加・貢献度... 30%

# 都市社会学 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。  
文献について報告してもらうので、( 1 ) 概要、( 2 ) 内容要約、( 3 ) 論点整理、( 4 ) 議論を記したレジユメの用意が必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集会的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

# 教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 教育の制度に関する理論的な枠組みを学習、専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

教育制度論

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。  
 授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。  
 後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

### 目標

- ①教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。
- ②教育の制度に係わる諸課題について、調査・分析できる。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
 資料は初回に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 3回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 4回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 5回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 6回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
- 7回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
- 15回 まとめ

# 教育制度論 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジユメ等、プレゼン資料を準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 臨床教育学【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的な理解を持っている。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	様々な課題を抱える子ども・青年の抱える課題を分析しつつ、その援助を行っていくための基本的な技能を修得している。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	子ども・青年に対して人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく意欲と態度を持っている。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

臨床教育学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、今日子ども・青年の中で生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、文献講読と事例検討を通じて深めていく。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 事例検討 その1 児童期の発達障害の事例
- 3回 事例検討 その2 思春期の発達障害の事例
- 4回 事例検討 その3 学生の発達障害の事例
- 5回 事例検討 その4 被虐待児の事例
- 6回 事例検討 その5 虐待サバイバーの方の事例
- 7回 講読演習 テキスト 第一章
- 8回 講読演習 テキスト 第二章
- 9回 講読演習 テキスト 第三章
- 10回 講読演習 テキスト 第四章
- 11回 講読演習 テキスト 第五章
- 12回 講読演習 テキスト 第六章
- 13回 参加者の研究計画の検討
- 14回 参加者の研究計画の検討
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%、期末レポート50%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 臨床教育学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 高齢社会論【夜】

担当者名 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 高齢社会の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 高齢社会における人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 高齢社会における人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

高齢社会論

## 授業の概要 /Course Description

人口構成の高齢化が進展し、2060年頃には40%近い高齢化率に達すると推計されている。この間に、75歳以上人口や85歳以上人口の増加が見込まれている。このような高度高齢社会への人口転換がもたらす社会的影響について、心理・社会的な視点から講義を進める予定。これにより高度高齢社会への移行期に生起する心理・社会的課題について理解することができる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方
- 第2回 人口構造の高齢化の推移と要因
- 第3回 人口ボーナスと人口オナー
- 第4回 高齢者の社会的適応と社会理論(心理学的視点から)
- 第5回 高齢者の社会的適応と社会理論(社会学的視点から)
- 第6回 高齢者の心理・社会的課題(認知機能の変化)
- 第7回 高齢者の心理・社会的課題(文化的位置づけとアイデンティティ)
- 第8回 高齢者のQOLの課題
- 第9回 高齢者の家族関係(介護、認知症、虐待等)
- 第10回 近隣の社会関係の課題
- 第11回 高齢者の介護・福祉・医療の制度的側面(介護保険制度、後期高齢者医療制度)
- 第12回 高齢化に伴う労働力の課題
- 第13回 人口減少と女性の就業の課題
- 第14回 人口高齢化に伴う地域的政策課題(社会参加、社会的支援等)
- 第15回 まとめ(高齢化の長所、短所など)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出40%、講義への参加(報告等)60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

# 高齢社会論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 司法福祉論【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 非行や犯罪と社会および福祉の関係性に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 司法福祉に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 司法福祉と福祉制度・実務に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

司法福祉論

## 授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

## 教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶー総合的支援による人間回復への途」(ミネルヴァ書房 2013年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第3回 歴史の中の司法福祉
- 第4回～7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回～12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回～14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。  
基本的には講義形式の形態をとるが、受講数が少ない場合は、参加型の形態をとりつつ進めて行く。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィールドワーク論 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	諸文化の相対性と、人類の生物学的普遍性に関する最新の研究をリファアーする。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査を遂行できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと展開する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

フィールドワーク論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

## 教科書 /Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認とオリエンテーション
- 第1講 フィールドワークに関する基本的文献
- 第2講 実際のデータの活用のおされ方と分析手法
- 第3講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【基礎】
- 第4講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【実践】
- 第5講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【応用】
- 第6講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【基礎】
- 第7講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【実践】
- 第8講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【応用】
- 第9講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【基礎】
- 第10講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【実践】
- 第11講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【応用】
- 第12講 各自の研究に関するディスカッション
- 第13講 各自の研究に関するプレゼンテーション
- 第14講 問題点の抽出
- 第15講 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション 70%  
レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィールドワーク論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。  
実際の調査データを収集する

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

フィールドワーク  
社会調査

# 臨床社会学【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	臨床現場の諸課題や実践にかかわる専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	臨床現場の諸課題や実践について社会的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	臨床現場の社会的な考察を踏まえ、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

臨床社会学

## 授業の概要 /Course Description

社会学の一つのアプローチをなす「臨床社会学」の考え方について学ぶ。「逸脱の社会学」や「社会問題の社会学」では、何がどう議論されてきたのか。こうした論点を整理しながら、社会問題研究の先端に位置づく臨床社会学の可能性について議論する。

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの設定
- 2回 臨床社会学の議論の概要
- 3回 研究文献の選定①
- 4回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究文献の選定②
- 10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 12回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション…100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表者はプレゼンテーションの準備を入念に取り組んでください  
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自で集めて準備してください



# 臨床社会学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 環境社会学【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する専門知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析ができる。	○ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する調査・分析ができる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する問題や対策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま（山）」、さらに森や社、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

## 教科書 /Textbooks

- 筒井迪夫「森林文化への道」
  - 北村昌美「森林と日本人」
- その他、各自の関心テーマにあわせて選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2回 森林文化に関わる研究史について
- 3回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 4回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 5回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 6回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 7回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 8回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 9回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 10回 新しい森林文化の研究について
- 11回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 12回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 13回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 14回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加含む)...50% 事前調査と発表内容...50%

# 環境社会学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森林（山林）、林業、山村（農村、村）等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくことが期待される。

キーワード /Keywords

## イギリス文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に必要な高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

歴史的な視点、現代的な視点の両方からイギリス文学を研究、分析していくための基礎的な素養を獲得することを主目的とする。文学は大きく、詩、劇、小説に分けられるが、Hailesが劇を、木原が詩を、田部井が小説を担当する。

## 教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回ハンドアウトを用意する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 ( Hailes) Introduction to Shakespeare: Theatre and the Renaissance Imagination
- 2回目 ( Hailes) Shakespeare and Gender: Twelfth Night
- 3回目 ( Hailes) Shakespeare and Sexuality: A Midsummer Night's Dream
- 4回目 ( Hailes) Shakespeare and Sovereignty: Richard III
- 5回目 ( Hailes) Shakespeare and Pleasure: Macbeth
- 6回目 ( 木原 ) W. B. Yeats: Introduction
- 7回目 ( 木原 ) W. B. Yeats、前期ケルトの薄明の詩
- 8回目 ( 木原 ) W. B. Yeats、後期象徴主義詩
- 9回目 ( 木原 ) W. B. Yeatsとアイルランド、ナショナルアイデンティティー
- 10回目 ( 木原 ) W. B. Yeatsと能
- 11回目 ( 田部井 ) 導入： D.H.Lawrence 全般について  
( イギリス小説全般の中の異端児として：階級、性、ジェンダー、エコロジー )
- 12回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( 第一の島 )
- 13回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( 第二の島 )
- 14回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( 第三の島 )
- 15回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( まとめ )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が3分の1ずつ評価し、最終的にそれを合計する。各教員により課題や小テストなどの方法は異なる。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## イギリス文学研究概論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## アメリカ文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科  
アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の全体像を理解してもらい、アメリカ文学に関する研究方法と専門的知識を身に付ける。

## 教科書 /Textbooks

1回目からは5回目までは、Death of a Salesman Arthur Miller 南雲堂 9784523036180 を使用するので購入しておくこと。（生協のネット販売に在庫有り）

11回から15回までは、プリント使用

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
  - 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
  - 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
  - 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社
- 必要に応じて、各担当教員からも別途、参考書リストが配布される場合がある。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 アメリカ演劇研究 Arthur Miller 概説
- 3回 アメリカ演劇研究 Death of a Salesman の女性描写の特徴
- 4回 アメリカ演劇研究 Death of a Salesman の過去の位置づけ
- 5回 アメリカ演劇研究 Death of a Salesman の物質主義批判
- 6回 Stephen Crane: “An Experiment in Misery”
- 7回 Jacob Riis: from How the Other Half Lives
- 8回 Henry Miller: “The Fourteenth Ward”
- 9回 Vladimir Nabokov: “Symbols and Signs”
- 10回 Grace Paley: from The Little Disturbances of Man
- 11回 アメリカ小説研究 1 【カポーティ概説】
- 12回 アメリカ小説研究 2 【『ティファニーで朝食を』概説】
- 13回 アメリカ小説研究 3 【『ティファニーで朝食を』のヒロインの造形】
- 14回 アメリカ小説研究 4 【『ティファニーで朝食を』の象徴するもの】
- 15回 アメリカ小説研究 5 【『ティファニーで朝食を』の夢想性】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アメリカ文学研究概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

三人の教員のリレー講義の形を取るため、授業計画に多少の変更が生じる可能性があります。  
授業前には、教員から与えられた課題を行うこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 英語学研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語学に関する知識を持ち、研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		英語学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種、英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の具体例を紹介しながら基本的理論を解説し、受講生の英語学研究分野に関する理解を深めることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著（2014）『現代英語学へのアプローチ』英宝社。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 地球語としての英語
- 3回 英語の誕生
- 4回 近代英語の誕生
- 5回 英語の新大陸への進出
- 6回 英語の地域的変種
- 7回 英語の地球的拡散
- 8回 英語の社会的変種
- 9回 英語の音声と音韻の仕組み
- 10回 英語の語彙と意味
- 11回 英語の文構造-生成文法の観点から-
- 12回 英語の文構造-認知言語学の観点から-
- 13回 英語の運用と表現の諸相
- 14回 英語の習得
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習して下さい。



# 英語学研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「事実上の国際共通語」の地位を得て久しい英語ですが、それゆえにグローバル化が進むのにあわせ、この言語に習熟することが前にもまして重要になってきています。英語教育について研究しようと志す方はもちろん、英米文学や英語学、あるいは中国語教育などについての研究を目指す方も、たとえ直接英語教育に携わる立場に立たなくとも、英語学習者の方々への助言を行なうなど、さまざまな形で間接的に英語教育にかかわることとなります。この授業は、そういう方にとって有意義な学びを提供できるものと思います。

英語教育学の根本となるのは言語理論であったり、それを本に発展した教授法ではありますが、学習者要因なども非常に重要です。また、理論と実践の間にも大きな開きがあります。そこで、本授業では、最初に言語理論や教授法、学習者要因などを扱い、後半では具体的な実践活動について考えてみたいと思っています。最終段階ではディベート教育、通訳教育などについてもふれ、今後の応用について考えてもらえるよう工夫したつもりです。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業ではプリントなどを用い、皆さんの学習の便宜を図ります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業の中で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：新しい時代の英語教育を目指して
- 第02回 アジア諸国における英語
- 第03回 TESOLとは何か：TESLとTEFL
- 第04回 日本における言語政策と英語教育論争
- 第05回 20世紀の言語理論
- 第06回 構造主義的外国語教授法
- 第07回 人間主義的外国語教授法
- 第08回 コミュニカティヴ・アプローチ
- 第09回 学習者とモチベーション
- 第10回 カリキュラム・シラバス・テスト
- 第11回 スピーキング・リスニングの指導
- 第12回 リーディングの指導
- 第13回 文法・作文の指導
- 第14回 通訳教育とグローバル人材育成
- 第15回 復習とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の度合い50% + 学期末レポート50%

## 英語教育法研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 英語表現法【夜】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

This course in English expression will focus on the field of academic thesis writing. Classes will systematically address the theories that guide and direct thesis production and offer tuition in the English language skills required for successful engagement with the field of academic writing. It is hoped that by the end of the course students will be able to plan and produce focused and professional research papers.

## 教科書 /Textbooks

Swales, John M., & Freak, Christine, Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills, 3rd. ed. (Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes) 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction: Audience, Purpose and Strategy, Organization, Style  
 Week 2 Flow & Language Focus 1  
 Week 3 Openings: General Statements, Statistics, Definitions  
 Week 4 Definitions cont. & Schools of Thought  
 Week 5 Problem-Solutions Texts & Language Focus 2  
 Week 6 Flow of Ideas in a Process Description & Language Focus 3  
 Week 7 Structure of Data Commentary & Language Focus 4  
 Week 8 Concluding a Commentary & Language Focus 5  
 Week 9 Writing Summaries & Language Focus 6  
 Week 10 Writing Critiques & Language Focus 7  
 Week 11 Critical Reading  
 Week 12 Constructing a Research Paper: Thesis Design  
 Week 13 Discussion Sections & Language Focus 8  
 Week 14 Presentation Week: Outline Your Thesis  
 Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1 short essay (700 to 1000 words) (100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

# 英語表現法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

19世紀から現代に至るイギリス文学とその背景にあるキリスト教との関係について分析する。扱う作家は以下の5人である。

William Blake  
S. T. Coleridge  
William Wordsworth  
T. S. Eliot  
C. S. Lewis  
Graham Greene

毎回、担当者の発表に基づいて、ディスカッション形式で授業をすすめる。

## 教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回プリントを用意する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 イン트로ダクション
- 2回目 William Blake, The Songs of Innocence
- 3回目 William Blake, The Songs of Experience
- 4回目 S. T. Coleridge, Kubla Khan
- 5回目 S. T. Coleridge, The Rime of the Ancient Mariner
- 6回目 William Wordsworth, "I Wondered Lonely as a Cloud"
- 7回目 William Wordsworth "The Rainbow"
- 8回目 T. S. Eliot, The Love Song of J. Alfred Prufrock
- 9回目 T. S. Eliot, Hollow Man
- 10回目 C. S. Lewis, The Lion, the Witch and the Wardrobe
- 11回目 C. S. Lewis (protestantism)
- 12回目 J. R. R. Tolkien, Lord of the Rings
- 13回目 J. R. R. Tolkien (Catholicism)
- 14回目 Graham Greene, The Third Man
- 15回目 Graham Greene, The Quiet American

## 現代イギリス文学研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、指示されたテキストや文献を読んで、自分の見解をまとめておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## イギリス文学研究【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

## 教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ベルティンク、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（イメージの起源）
- 3回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（死）
- 4回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（再生）
- 5回 文学テキストへの応用（Charles Dickens）
- 6回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（イメージと神話）
- 7回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（歴史）
- 8回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（古代芸術）
- 9回 文学テキストへの応用（P. B. Shelley）
- 10回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（スペクトル）
- 11回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（映像）
- 12回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（遠隔視）
- 13回 文学テキストへの応用（W. B. Yeats）
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント



## イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回テキストを読み、自分の研究分野に照らし合わせながら見解をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## イギリス文化研究 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国々間の文化、考え方を交換するための架け橋となる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

## 教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare  
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules  
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage  
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society  
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education  
Class 6: Politics and the Play  
Class 7: Gender and the Play  
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts  
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures  
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender  
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power  
Class 12: Review  
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance  
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?  
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

## イギリス文化研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Required preparation will be discussed during the first class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 現代アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイ / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
 単位 /Credits 2単位 / 1学期  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	◎ 現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

## Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest “walkers” in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for weekly presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America’s greatest living author.

## 教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)  
 Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Journal articles on the library database.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

## 現代アメリカ文学研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Requirements: Final Essay: 30%, Four 1-page summaries: 20%, participation: 20%, Presentations and Socratic seminar questions: 20%, TED Talk and other homework: 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and all students will be expected to participate in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not be able to pass the course.

## キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

## アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

## 教科書 /Textbooks

*Adventures of Huckleberry Finn* Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4  
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1-4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5-8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9-12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13-16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17-23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24-27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28-31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32-35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36-40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何ゆえに生じているのか。
- 12回 41-43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

## アメリカ文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

## 【事前・事後学習の内容】

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## アメリカ文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ アメリカの文化に関する高度な知識を身に付ける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバル社会の諸課題に主体的に向きあえるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

1960年代のミュージカル映画と演劇について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1920年代～1950年代
- 3回 時代背景
- 4回 『ウエストサイド物語』
- 5回 『マイ・フェア・レディ』
- 6回 『サウンド・オブ・ミュージック』
- 7回 「イギリス人の侵入」
- 8回 ザ・ビートルズ
- 9回 ロック・ミュージカル
- 10回 アフロ・アメリカンの音楽
- 11回 「人種のサラダ」
- 12回 「寛容な社会」
- 13回 ポプ・フォッシー
- 14回 アンドリュー・ロイド＝ウェーバー男爵
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 発表...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。



# アメリカ文化研究 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。  
演習室はコロシウム。

## キーワード /Keywords

【ミュージカル演劇】 【時代との関連】 【作品の種類】

## 社会言語学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 社会言語学に関する知識を持ち研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 社会言語学の知識を持つ専門的職業人として資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 社会言語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会言語学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

## 教科書 /Textbooks

（予定）岩田祐子・重光由加・村田泰美 (2013). 『概説 社会言語学』. ひつじ書房.  
または Miriam Meyerhoff. (2011) *Introducing Sociolinguistics*, 2nd ed. Routledge.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ Miriam Meyerhoff, Erik Schlee and Laurel MacKenzie. (2015) *Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis*. Routledge.  
その他の文献は授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学とは
- 2回 地域と言語
- 3回 言語と社会階層
- 4回 民族と言語
- 5回 言語とジェンダー
- 6回 言語と年齢
- 7回 言語の選択
- 8回 言語の状況差、適切さ（スタイルとレジスター）
- 9回 ポライトネス
- 10回 会話のしくみ
- 11回 コミュニケーションの民族誌
- 12回 学生による研究報告(1)先行研究
- 13回 学生による研究報告(2)方法論
- 14回 学生による研究報告(3)結果
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 社会言語学研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

『英語学研究概論』を受講すると、本講義の理解がより深いものとなります。  
毎回指定された箇所を予習して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 英語通訳研究 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 通訳として立っていくに必要な高度な語学力、多岐にわたる背景知識を身に付け、国際的な感性を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 通訳に必要な技能を身に付け、一定の条件下で適格な通訳を行なうことができる技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 通訳の自覚をもって、グローバル社会におけるコミュニケーターとして、また異文化コンサルタントとして務められる奉仕の姿勢を身に付ける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語通訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。通訳といっても、ここではおもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に取り組んでいきたいと思えます。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいのかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に应用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思います。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思えます。

## 教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 異文化間コミュニケーションとしての通訳
- 第03回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
- 第04回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
- 第05回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
- 第06回 アジアにおける通訳事情とリレー通訳
- 第07回 通訳者養成のための訓練法概説
- 第08回 通訳者養成のための訓練法の実践
- 第09回 リスニングの考察
- 第10回 ノートテーキングの理論と実践
- 第11回 背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
- 第12回 背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
- 第13回 背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
- 第14回 通訳の実践演習
- 第15回 全体のまとめとディスカッション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。  
授業への積極的参加の度合い50% + 発表または実技50%

## 英語通訳研究 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎時間、次週の内容を確認しますので、あらかじめご準備いただいた上でご参加ください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実践した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

## キーワード /Keywords

## 中国語法研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈できる能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	積極的に言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から研究課題を取り込んで、実践する。
			中国語法研究概論

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国言語文化専攻及び他専攻の院生として、修得した方が将来の研究と仕事に役立てる文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解させた上で、実践的な練習を通じて、現代言語理論と中国語の研究・教育能力を身につける。

## 教科書 /Textbooks

資料を配付する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 文法研究概説 文法研究の対象 文法研究の方法
2. 構造主義と中国語文法研究
3. 認知文法と中国語文法研究
4. 「配価（結合価）文法」と中国語文法研究
5. 語義特徴分析理論と中国語文法研究
6. 格文法と中国語文法研究
7. 生成文法理論と中国語文法研究
8. 機能文法・第二言語教育と中国語文法研究
9. 語用論と中国語文法研究
10. これまでの重要な研究（問題別の観点・著作・論文）
11. 現代中国語文法研究における重要課題
12. 中国の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
13. 日本の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
14. 海外の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の練習・発表・コメントにより100%で評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 中国語法研究概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言葉は思考とコミュニケーションの道具であり、文法は思考と研究の規則である。専攻分野に関係なく、中国語や言語学の知識・教育の能力を身につけるための講義で、基礎を固めた上、視野を広め、積極的な思考・問題提起などを望んでいる。

## キーワード /Keywords

# 中国文化研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説-魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と嚴復『天演論』の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のバイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集『呐喊』について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西文学・思想の受容について
- 第10回 イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争-「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家聯盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし。



# 中国文化研究概論 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

## 中国思想文化研究概論【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国思想文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国思想文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国古代思想史全般について、幾つかの教科書を講読することによって、中国思想史の基本知識を学び、中国文化の源流を理解する。

## 教科書 /Textbooks

○小島祐馬著『中国思想史』 創文社2000年（必要に応じてコピーして配る）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○胡適著『中国古代哲学史大綱(上)』商務印書館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	序説
第2回	中国古代の社会状態
第3回	孔子
第4回	孟子
第5回	子思子
第6回	荀子
第7回	墨子
第8回	農家
第9回	老子
第10回	莊子
第11回	列子・楊子
第12回	法家
第13回	易・五行
第14回	春秋
第15回	まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の予習状況30%、受講準備30%、レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 中国思想文化研究概論【夜】

キーワード /Keywords

## 中国哲学史研究【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国哲学史に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国哲学史研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国中古の思想史を勉強することによって、中国思想史研究の基礎を築き、中国文化のルーツに対する理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

○『中国思想史の流れ』（上、両漢・六朝） 橋本高勝編 晃洋書房

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

胡適著『中国中古思想史長編』（関連部分をコピーして配布）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説
- 第2回 賈誼
- 第3回 劉安
- 第4回 董仲舒
- 第5回 司馬遷
- 第6回 揚雄
- 第7回 王充
- 第8回 王符
- 第9回 何休
- 第10回 黃老
- 第11回 孔融
- 第12回 仲長統
- 第13回 何晏
- 第14回 王弼
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平時の予習状況50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 中国哲学史研究【夜】

キーワード /Keywords

## 中国語教授法研究【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上、説得力のある教育法を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を取り込んで、自分なりの講義ポイントを積み重ねる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語教授法研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文法を中心にして、現代言語学理論、特に認知言語学・機能主義の視点より日本語母語者に中国語を教授する方法を研究する。

## 教科書 /Textbooks

1. 日中両国の代表的な中国語教科書抜粋のコピー（資料配付）
2. 第二言語教育理論に関する論述のコピー（資料配付）
3. 中国語検定試験・HSK試験問題（資料配付）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 第二言語教育の視点から中国語文法を見る（総論）
2. 「時流順・事実順」
3. 「デフォルト値と場所性」
4. 「計量・個体化・イメージ化」
5. 「A B式・重ね型・分類と区別」
6. 「方式視点と目的視点」
7. 「実現重視と変化重視」
8. 「粘着と関連」
9. 「主観任意性と無方向性」
10. 「客観条件・技術能力・主観判断」
11. 「補充と説明・主体説明と事項説明」
12. 「常識依存と文脈依存」
13. 「意味本位と形式本位」
14. 翻訳法・直接法・視聴法・機能法教材の編成
15. 文法教育の評価体系

## 中国語教授法研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の練習・発表・コメントにより100%で評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言葉は思考とコミュニケーションの道具であり、文法は思考と研究の規則である。専攻分野に関係なく、中国語や言語学の知識・教育の能力を身につけるための講義で、基礎を固めた上、視野を広め、積極的な思考・問題提起などを望んでいる。

## キーワード /Keywords

## 中国文化史研究【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国語の中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 中文の中国語理解に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 中国語理解に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国語理解

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新戯や時事新戯の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時代の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢と中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks



# 中国文化史研究【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父-曹禺

## 中国古典文学研究【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 中国文学の漢文資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国文学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国古典文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

三国時代の文学について、『三国志演義』にも引用される詩や文を読み、その作品の特徴や物語展開上の役割などを考察する。また『三国志演義』をはじめとして授業中に取り上げる作品のテキストや参考資料などを学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『詩歌三国志』（松浦友久、新潮選書、1998年）
- 『「三国志」漢詩紀行』（八木章好、集英社新書、2009年）

ほか。

※作品を読む際に参考にすべきものについては授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『三国志』、『三国志演義』について
- 第2回 建安文学、『文選』について
- 第3回 『三国志演義』第四十八回
- 第4回 曹操「短歌行」（『文選』巻27）
- 第5回 『三国志演義』第二十二回
- 第6回 陳琳「為袁紹檄劉予州」（『文選』巻44）
- 第7回 『三国志演義』第七十九回
- 第8回 曹植「七步詩」（『世説新語』）
- 第9回 『三国志演義』第四十四回
- 第10回 曹植「銅雀台賦」（『三国志』裴松之注引『魏紀』）
- 第11回 『三国志演義』第九十一回
- 第12回 諸葛亮「出師表」（『文選』巻37）
- 第13回 『三国志演義』第二十三回
- 第14回 孔融「薦禰衡表」（『文選』巻37）
- 第15回 その他の、三国志に関する漢詩

※以上のように予定しているが、順番や取り上げる作品は変わることがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み（50%）＋レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 中国古典文学研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

- ①漢文訓読についても学んでいく。
- ②調べたり解釈したりしてもらうことがある。
- ③授業前、授業後に参考書等を利用して理解を深めて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

三国志演義、三国志、文選、建安文学、漢詩・漢文

## 中国語音声学研究【夜】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語学（音声学）の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語学（音声学）関連の資料を活用した調査研究能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	現代中国語の音声現象に対して関心を深めることができる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語音声学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では以下のことを学習目標とする。

- ①一般音声学、中国語音声学・音韻学の基礎的知識を身につける。
- ②上記①の基礎的知識をもとに、中国語の古代音から現代音への変遷をたどる。
- ③興味のあるテーマを決め、学期末にレポートを書いて提出する（必要な関連資料を収集する能力を身につけ、自分の意見・主張を論理的に展開することが大切）。

## 教科書 /Textbooks

『概説 中国語音声学』 佐藤昭 編著  
購入については、授業時に指示をする。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『中国語語音史 中古音から現代音まで』 佐藤昭 著 白帝社 2002年
- 『中国文化叢書1 言語』 牛島徳次等 大修館書店 1967年
- 『中国語の歴史』 大島正二 大修館書店 2011年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下の通りである。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 音声学の基礎知識(1)【発音器官、調音器官】
- 第3回 音声学の基礎知識(2)【言語音の分類】
- 第4回 日本語の音節と中国語の音節
- 第5回 中国語の声母と韻母
- 第6回 中国語の基本音節表
- 第7回 中国の方言音
- 第8回 中国の方言区分
- 第9回 中国語の古代音と現代音
- 第10回 中古音から現代音への変化
- 第11回 中国語音韻学の基礎知識(1)【韻書】
- 第12回 中国語音韻学の基礎知識(2)【韻図】
- 第13回 中古音から中原音韻への変化
- 第14回 中原音韻から現代音への変化
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50%、レポート・・・50%

# 中国語音声学研究 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

きちんと予習をし、疑問点を見つけて授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

まずは基礎的な知識を身につけ、この分野での研究方法について学びましょう。

## キーワード /Keywords

中国語 語音 変遷

## 比較文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 口ジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本とヨーロッパとの比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、生活様式、歴史、政体、国民性、文学、価値観、芸術、食文化といった様々なトピックを通じて、アメリカ、イギリス、と日本との文化比較を行う。学生には、各文化の特徴、差異、共通点について概論的な知識を吸収してもらうとともに、文化を相対的に眺める視点を獲得してもらう。

## 教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the Course
- 2回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan (Dr. Williamson)
- 3回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States(Dr. Williamson)
- 4回 Island Nations:A Brief History of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 5回 The Role of the Monarchy: Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 6回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 7回 Value Patterns in the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 8回 Mid-Term Review
- 9回 The British and Japanese Education Systems (Dr. Creaser)
- 10回 Modern Life in Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 11回 Education in Japan and the United States(Dr. Williamson)
- 12回 Contemporary Family Life in Japan and the United States (Dr. Williamson)
- 13回 Cultural Calendars of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 14回 British and Japanese Cuisine: Some surprising similarities (Dr. Creaser)
- 15回 Final Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 60% Final paper 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion

# 比較文化研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 日本文化研究概論【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科, 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本文化に関する総合的知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本文化の諸領域の研究方法について習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本文化の諸領域について、2名の教員が授業を実施する。

## 1回 ガイダンス

2回～4回 グローバルな生活環境の変化のなかで日本文化を研究しようとする際に、大衆文化は学問分野をまたいで共有される重要なテーマである。本概論の最初の3回では、近現代の日本文化を研究するうえで避けては通れない領域として大衆文化を位置づけ、大衆文化研究史の概略的なポイント（研究テーマ・研究方法の特徴）を確認していく。

5回～8回 前回までのまとめをおこなったうえで、具体的な映像資料をとりあげ鑑賞したうえで、議論をおこなう。

9～15回は、日本美術史の概説書と論文を読む予定である。9～13回は日本美術史の千野香織氏と日本建築史の西和夫氏が、それぞれの分野の視点から日本美術の絵画作品について交互に論述している『フィクションとしての絵画』（ペリカ社）から主に絵巻を扱っている章を取り上げ、絵画とはフィクション（虚構）性が許されるものであるため、画面内容が必ずしも事実に基づいているわけではなく、少なからず描き手の演出が作用しているということと、物語絵画に盛り込まれた時間の表現を確認する。14～15回は、平安時代の仏画の名品・金剛峯寺所蔵「仏涅槃図（応徳涅槃）」についての論文を取り上げ、画面内容や描写表現を詳細に見て行くことによって描き手や制作年代を明らかにして行くという美術史学の王道である様式史的研究方法を確認する。

## 教科書 /Textbooks

2～8回 テキスト：使用しない。一部プリント配布。

9回～15回 テキスト：プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する



# 日本文化研究概論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 大衆文化研究史①【1910年代以前】
- 3回 大衆文化研究史②【1920年代】
- 4回 大衆文化研究史③【1930年代】
- 5回 大衆文化研究史④【1940年代以降】 / 映像資料をもとにしたディスカッション①【問題提起】
- 6回 映像資料をもとにしたディスカッション②【映画資料】
- 7回 映像資料をもとにしたディスカッション③【テレビ資料】
- 8回 映像資料をもとにしたディスカッション④【総括】
- 9回：「絵画の中の時間-複数の同一人物を描く」（信貴山縁起絵巻）
- 10回：「空を飛ぶ倉-斬新な発想とすぐれた表現力」（信貴山縁起絵巻）
- 11回：「複数の情景を合成する-物語と絵画」（源氏物語絵巻）
- 12回：「吹抜屋台の手法-大胆な、そしてすぐれた空間表現」（源氏物語絵巻）
- 13回：「絵師の作為を読む-出産は公開されていたか」（融通念仏縁起絵巻）
- 14回：「金剛峯寺蔵 仏涅槃図（応徳涅槃）」（『国華』1263号）前半【截金・肥瘦線・鉄線描・具色】
- 15回：「金剛峯寺蔵 仏涅槃図（応徳涅槃）」（『国華』1263号）後半【鶴林寺仏涅槃図・聖衆来迎寺十六羅漢図】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業へ取り組み100%（小テストをおこなう場合がある）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

あらかじめ配布された資料・テキストは熟読すること

### 【事前・事後学習の内容】

受講する前に、こちらが提示した先行研究論文に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

メディア 都市 生活 平安仏画 異時同図法

## 言語学研究概論【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 葛西 宏信 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 身につけた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

言語学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータを交えながら、言語学の諸分野を概括し、受講者が言語について、より専門的な知識を身につけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定  
その他プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。
- 『新・自然科学としての言語学：生成文法とは何か』 福井直樹著、筑摩書房、2012年。
- シリーズ朝倉「言語の可能性」中島平三監修、朝倉書店。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法（漆原・葛西）
- 第2回 音韻：音声、音素、異音（漆原）
- 第3回 音節構造：音節、モーラ、sonority hierarchy、アクセント（漆原）
- 第4回 同化と異化：削除、挿入、連濁、鼻濁音（漆原）
- 第5回 派生と屈折：形態素、派生、屈折、順序づけ（漆原）
- 第6回 複合語(1)：右側主要部、語彙的緊密性（漆原）
- 第7回 複合語(2)：第一姉妹の原則、項構造（漆原）
- 第8回 複合動詞：語彙的複合動詞、統語的複合動詞（漆原）
- 第9回 文の構造：句構造、c統御、支配（葛西）
- 第10回 移動現象(1)：格、A移動、主要部移動（葛西）
- 第11回 移動現象(2)：A-bar移動、島の制約（葛西）
- 第12回 言語間変異：原理とパラメータ（葛西）
- 第13回 語の意味：語彙概念構造、語彙的アスペクト（葛西）
- 第14回 文の意味：含意、前提、真理条件、量化詞（葛西）
- 第15回 発話行為：協調の原理、関連性理論（葛西）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 35% 期末レポート 65%

## 言語学研究概論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習：文献の予習をすること（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）  
事後学習：教科書の練習問題や、担当教員が出す課題に取り組むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 比較文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立つ能力を修得する。	◎	文学、思想、文化に対する高度な知識を得て、比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つ能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	文学的資料を適切に分析し、比較文学において高度な研究ができる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題が解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			比較文学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この講義は大学院生にふさわしい比較文学に関する知識と価値観を学生に提供するもので、比較文学の研究史（Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など）を踏まえて、影響研究、ジャンル研究、比較研究、翻訳研究、翻案研究などの実例を紹介し、研究方法を教える予定である。又、文学批評と関連する項目であるジェンダー、パラリテラチャー、ポストコロニアリズムに関しても視野に入れて授業を進める方針である。

この講義の到達目標は以下の通りである。

- ・ 比較文学研究に関する高度な知識を得ることで、国際社会・地域社会に役立つ能力を修得する。
- ・ 文学的資料の分析を通して、高度な比較文学研究ができる。
- ・ 比較文学の知識を、グローバル社会における課題解決に応用できる。

## 教科書 /Textbooks

インターネット資料、プリントを必要に応じて配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談した上で決定する。

## 比較文学研究概論【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学とは何か？（基本的問題提起）（岩本）
- 第2回 比較文学とは何か？（Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など）（岩本）
- 第3回 比較研究（フランス学派：文学作品の二項関係の影響研究）（岩本）
- 第4回 ジャンル研究（物語、詩、戯曲）（ストラック）
- 第5回 比較研究（アメリカ学派：文学と絵画、文学と映画などの対比研究）（ストラック）
- 第6回 文学批評の諸姿勢（ストラック）
- 第7回 ジェンダーと語り直し（ストラック）
- 第8回 受容と変容（岩本）
- 第9回 比較文学における翻訳研究（岩本）
- 第10回 翻案研究（岩本）
- 第11回 普遍性と文化の差異（岩本）
- 第12回 ポストコロニアリズム（ストラック）
- 第13回 パラリテラチャー（ストラック）
- 第14回 越境する文学（ストラック）
- 第15回 まとめ（岩本・ストラック）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 課題：20% 期末試験：50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業準備のために文学作品を事前に読むことが必要な場合がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

文学、比較文学、Weltliteratur、ジャンル、翻訳、翻案、ポストコロニアリズム、文学理論、パラリテラチャー

## 日本美術史研究【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本美術史の専門知識を修得する。美術史を専門とする学芸員の職を目指すことが可能なレベルの知識を身に付ける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本美術史の研究方法を修得し、美術史の学術論文を執筆する技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 他文化圏の美術に対しての日本美術ならではの特性を理解する。
		日本美術史研究

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本美術史においては、著名な作品でありながら、制作年代や制作者、当初の状態などについて、未だ解明されていない作品が幾つも存在する。本講義では、これまで多くの先行研究が発表されて来たにも関わらず、未だ定説を見ない問題について、それらの先行研究論文を読み進めながら考えて行く。

今年度取り上げる問題は、法華寺所蔵「阿弥陀三尊并持幡童子像」の堂内の掛け方についてと、高野山有志八幡講十八箇院所蔵「阿弥陀聖衆来迎図」の制作年代についてである。

従って、本授業での目標は、美術史的な考察方法・研究方法の習得であり、最終的には参加者各自に自らの説を提示してもらうこととする。

## 教科書 /Textbooks

なし。但し、毎回、こちらが提示した先行研究論文を読んで来ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順に関する説明
- 2回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解①【浄土図・来迎図】
- 3回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解②【迎講】
- 4回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解③【印相】
- 5回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解④【卍字繋ぎ文様】
- 6回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解⑤【輪宝を中央に置く文様】
- 7回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解⑥【堂内の配置】
- 8回 2～7回を踏まえたディスカッション
- 9回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解①【夢中見仏】
- 10回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解②【悉皆金色身】
- 11回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解③【彼岸と此岸】
- 12回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解④【阿弥陀五尊】
- 13回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解⑤【四天王寺西門信仰】
- 14回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解⑥【制作年代】
- 15回 9～14回を踏まえたディスカッション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業への参加態度・・・50%

## 日本美術史研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

## 【事前・事後学習の内容】

受講する前に、こちらが提示した先行研究論文に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 日本表象文化研究【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本の表象文化についての専門的知識を獲得し理解する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本の表象文化についての専門的な分析方法を習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 日本の表象文化についての課題を設定し、主体的に解決する態度を身につけている。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本表象文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

前半では日本の大衆文化に関する研究書を取りあげて、その講読をおこなう。本年度は、1950年代～60年代における大衆文化論を取りあげて講読する。後半では、テーマを設定してそれにそった発表を受講者にしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト講読【1940年代】【民主主義】
- 第3回 テキスト講読【1950年代前半】
- 第4回 テキスト講読【1950年代後半】
- 第5回 テキスト講読【1960年代前半】
- 第6回 テキスト講読【1960年代後半】
- 第7回 テキスト講読【福田定良】【哲学】
- 第8回 テキスト講読【鶴見俊輔】【思想】
- 第9回 テキスト講読【加藤秀俊】【社会学】
- 第10回 テーマ発表【問題設定】
- 第11回 テーマ発表【資料収集】
- 第12回 テーマ発表【資料比較】
- 第13回 テーマ発表【分析】
- 第14回 テーマ発表【解釈】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20%、講読発表・テーマ発表・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題（文献の熟読）をおこない、授業に臨むこと。



# 日本表象文化研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 比較広域文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較広域文学研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△ 比較広域文学に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較広域文学研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較広域文学研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

当演習においては、様々な名文献を考察し、その文献に潜んでいる隠喩的思想性を追求していきます。多数の文化に見られるメタファーを分析することを通して、異文化間における概念や思想の差異に関する理解を深めます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談した上で決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回コース紹介
- 第2回 『美学』 ( アリストテレス )
- 第3回 『詩学』 ( アリストテレス )
- 第4回 『論語』 ( 孔子 )
- 第5回 「山上の垂訓」 ( イエス )
- 第6回 『万葉集』
- 第7回 「方丈記」
- 第8回 シェイクスピア ( 「ソネット」 )
- 第9回 ジョン・ダン
- 第10回 小林一茶
- 第11回 アメリカの「独立宣言」
- 第12回 ニーチェ
- 第13回 キップリング
- 第14回 M.L.キング
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：50% 態度：10%

## 比較広域文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to read the weeks assignment and come to class prepared to analyze and discuss the work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 比較広域文化研究【夜】

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	日本の文化に関する深い知識を身に付け、さまざまな他文化との比較研究を通じて、専門的職業人として国際社会及び地域社会に貢献できる能力を修得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	△	日本文化並びにさまざまな他文化に関する深い学識を備えた専門家として、広範囲にわたる資料を駆使し、分析・研究できるようにする。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎	比較文化の専門的な知識と研究能力を生かし、グローバル社会における課題を自ら解決できるようにする。	
			比較広域文化研究	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では「シンボル」と「イメージ」をテーマとした異文化理解を研究する。物事が持つシンボル性や、それに基づくイメージは、たとえ同じものでも、あるいはよく似たものでも、文化によって全く異なる場合が多いことはあまり意識されていない。いくつかの事例を取り上げて、そのシンボル性やイメージの違いを考えると同時に、その違いが重大な誤解や文化摩擦につながりかねない重要性を持つものであることを認識しよう。

この授業の到達目標は以下の通りである。

- ・ シンボル・イメージという抽象的な研究対象を扱い、その成果をグローバル社会で応用できる。
- ・ 日本文化と異文化の内的関係を理解できる。

## 教科書 /Textbooks

特になし。授業中に資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・シンボルとイメージの研究はなぜ必要か？
- 2回 シンボル・イメージと非言語コミュニケーションの関係
- 3回 龍とドラゴンは同じ？
- 4回 龍のシンボル性
- 5回 ドラゴンのシンボル性
- 6回 身近な動物のシンボル性
- 7回 火のシンボル性
- 8回 地獄の業火としての火
- 9回 浄火としての火
- 10回 水のシンボル性
- 11回 水で洗うのは体が心か
- 12回 物理的洗浄と衛生感
- 13回 精神的洗浄と宗教
- 14回 火と水と葬儀形式の関係
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20%、レポート80%で評価する。

## 比較広域文化研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## ヨーロッパ比較文化研究【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	△	日本とヨーロッパ文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	
			ヨーロッパ比較文化研究	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

今年度は、記憶をテーマとして、思想、映画、写真、芸術、文学、歴史といった様々な領域を横断しながら、ヨーロッパ文化圏に属する作品や文献に触れていく。

## 教科書 /Textbooks

初回に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ロラン・バルト著『明るい部屋』花輪光訳、みすず書房  
ヴァルター・ベンヤミン『図説 写真小史』久保哲司編訳、ちくま学芸文庫  
ポール・リクール『記憶・歴史・忘却』久米博訳、新曜社、等

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体イントロダクション：記憶・記録・想像力
- 第2回 エクリチュール1：導入
- 第3回 エクリチュール2：回想
- 第4回 エクリチュール3：文学的想像力
- 第5回 エクリチュール4：まとめ
- 第6回 写真1：導入
- 第7回 写真2：記録 / 記憶としての写真
- 第8回 写真3：芸術作品としての写真
- 第9回 写真4：まとめ
- 第10回 映像1：導入
- 第11回 映像2：記録 / 記憶としての映像
- 第12回 映像3：現実の影としての映画
- 第13回 映像4：まとめ
- 第14回 エクリチュール・写真・映像
- 第15回 まとめ：記憶・記録・想像力の間

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%とレポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# ヨーロッパ比較文化研究 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化とは何か。知性とは何か。こうした問いにおける記憶の役割を考えながら、ヨーロッパの思想、映画、写真、芸術、文学、歴史に触れていく。

## キーワード /Keywords

## 日英比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor  
 フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year  
 単位 /Credits  
 2単位  
 学期 /Semester  
 2学期  
 授業形態 /Class Format  
 演習  
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日英比較文化研究に関する高度な知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日英比較文化に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		日英比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

In this course students will learn about British culture and society and have the opportunity to compare it with Japanese culture and society. Topics covered include but are not limited to, politics, music, fashion, sport, the monarchy, food and drink. This course is discussion based and students will have ample opportunity to give their opinions and ideas about topics under discussion.

## 教科書 /Textbooks

Materials will be distributed each week by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction  
 Week 2: Music  
 Week 3: Fashion  
 Week 4: Media  
 Week 5: Food and Drink  
 Week 6: Monarchs of the past  
 Week 7: The Monarchy in present day Britain  
 Week 8: Politics  
 Week 9: Multicultural Britain: an historical overview  
 Week 10: Multicultural Britain: economic migrants and refugees  
 Week 11 Primary and secondary education  
 Week 12: University education  
 Week 13: The Arts  
 Week 14: Language  
 Week 15: Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%  
 Report 30%  
 Presentation and Discussion 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 日英比較文化研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

Students are expected to read relevant materials each week.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will gain insight into historical and modern aspects of British society.

## キーワード /Keywords

Britain, Japan

## 日米比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日米比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
- 2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II:Patterns of Culture
- 9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
- 12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
- 13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
- 14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
- 15回 Wrap-up and Final Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 日米比較文化研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 理論言語学研究 (形態論) 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 形態論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語の形態およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 身に付けた専門知識を生かし、言語の形態と実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (形態論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

## 教科書 /Textbooks

学生の興味・関心・レベルに応じて決定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 言語学の対象と目的
- 第2回 言語学における形態論の位置づけ
- 第3回 形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
- 第4回 形態論の基本的概念(2)：派生
- 第5回 形態論の基本的概念(3)：屈折
- 第6回 形態論の基本的概念(4)：複合語
- 第7回 形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
- 第8回 形態論の基本的概念(6)：接語
- 第9回 アメリカ構造主義言語学における形態論
- 第10回 生成文法理論における形態論
- 第11回 語彙的緊密性
- 第12回 主要部と第一姉妹の原則
- 第13回 生産的語形成と限定的語形成
- 第14回 分散形態論
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30%  
発表 40%  
期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 理論言語学研究（形態論）【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習：文献（特に英語文献）の予習  
事後学習：課題の提出

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 理論言語学研究 (統語論) 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 統語論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 身につけた専門知識を使って、統語現象およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 身につけた専門知識を生かし、統語論および実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (統語論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

生成文法の『原理とパラメータ』の理論的枠組みの中で、言語間の違いがどのようにして分析されてきたかを概観する。また、受講生の興味に応じて、様々な言語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1) 生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- (2) 統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 プラトンの問題
- 第3回 生成文法の展開
- 第4回 句構造理論 (1) 【統語範疇、c 統御】
- 第5回 句構造理論 (2) 【構成素テスト】
- 第6回 句構造理論 (3) 【Xバー理論】
- 第7回 移動 (1) 【A 移動】
- 第8回 移動 (2) 【Aバー移動】
- 第9回 移動 (3) 【主要部移動】
- 第10回 移動 (4) 【局所性】
- 第11回 世界の諸言語の分析 (1) 【wh 移動】
- 第12回 世界の諸言語の分析 (2) 【空項】
- 第13回 世界の諸言語の分析 (3) 【削除】
- 第14回 世界の諸言語の分析 (4) 【格】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 理論言語学研究 ( 統語論 ) 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習：文献の予習  
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の購読

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東北アジア研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 日本列島および朝鮮半島を一つの地域として捉え、その文化および経済の課題を、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国家間の問題として捉えられがちな日本および朝鮮・韓国の関係を思想・文化・地域経済といった異なった視点から分析することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 一国の利益と利害にとらわれることなく、広く国際的な地域社会における協力関係の利点と恩恵を考慮することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東北アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本と朝鮮半島とは2千年にわたる歴史のなかで互いの文化の発展をもたらす多くの交流の一方で、国家間における戦争や対立を繰り返してきました。ここでは、日本と朝鮮半島という東北アジア地域の視点から、その歴史・文化・政治・経済の研究について、日本・韓国の二国間とそれを越えた社会の視点から基礎的な研究方法をオムニバスで紹介します。具体的には、江戸時代の国際関係と日朝関係（担当者八百3回）、東アジアの思想史における朝鮮と日本の思想文化の比較（担当者金3回）、経済発展過程における日韓両国の比較と両国間の経済関係（担当者尹3回）、日韓の政治と国際関係（担当者李3回）をリレー方式で行い、学生の皆さんにまとめてもらう予定です。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 北島万次『秀吉の朝鮮侵略と民衆』(岩波書店、2012)
- 仲尾宏『朝鮮通信使-江戸日本の誠信外交』(岩波書店、2007)
- 小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』(藤原書店、2012)
- 小倉紀蔵『創造する東アジア』(春秋社、2011)
- 野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』(慶應義塾大学出版会、2001)
- 野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』(慶應義塾大学出版会、2004)
- 李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』(法政大学出版局、2011)
- 吉澤文寿『戦後日韓関係：国交正常化交渉をめぐる』(クレイン、2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 八百-幕藩制国家と朝鮮王朝の史料研究
- 第3回 八百-近世における通信使と漂流民の研究史
- 第4回 八百-封建制と官僚制からみた日韓社会の比較
- 第5回 金-兵学と儒学の比較研究
- 第6回 金-国学と朱子学の比較研究
- 第7回 金-思想史から見た日韓文化の比較
- 第8回 尹-経済発展での日韓比較
- 第9回 尹-日韓両国間の貿易・投資の展開
- 第10回 尹-環黄海地域をめぐる経済交流
- 第11回 李-サンフランシスコ講和条約と戦後日韓関係
- 第12回 李-日韓会談(1) 基本関係、請求権
- 第13回 李-日韓会談(2) 残された問題
- 第14回 学生の報告①
- 第15回 学生の報告②



## 東北アジア研究概論 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告... 40% 期末レポート... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカ社会概論 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会理解に必要な基礎的な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する基礎的な力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる基礎的な力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のB・オバマ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

## 教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治 新版』(有斐閣アルマ 2010年)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 20世紀後半における保守主義政治【保守主義】
- 第3回 レーガン政権のイデオロギー【保守主義】
- 第4回 クリントン政権の歴史的位相【ニューデモクラット】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アメリカ社会概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アメリカ 政治

## イギリス地域概論 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ イギリスに関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究および一次資料の収集・整理ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。現代イギリス文化を構成している諸要因を通時的・共時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

## 教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 異文化理解の方法(歴史認識をめぐって)
- 3回 異文化理解の方法論(資料読解の方法)
- 4回 異文化理解の方法論(多文化主義の変遷)
- 5回 イギリス文化の状況(1970年代まで)
- 6回 イギリス文化の状況(1980年代以降)
- 7回 文化研究の方法論的変遷(1960年代まで)
- 8回 文化研究の方法論的変遷(1970年代)
- 9回 言語論的展開
- 10回 サッチャー主義とイギリス社会
- 11回 スコットランドの文化と現状
- 12回 ウェールズの文化と現状
- 13回 北アイルランド紛争の背景
- 14回 21世紀イギリス社会の展望
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# イギリス地域概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。  
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代中国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国、及び途上国、新興国（地域）経済理解に必要な基礎的・専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国、及び途上国、新興国（地域）経済に対する政策提言を可能にする実証的分析・研究が行える。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 習得した知識や技能を適切かつ有意義に生かすこと、研究に対する誠実な姿勢、的確な視点を持つ。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代中国経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国経済や途上国、新興国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献、Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル、中文文献、邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

## 教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
  - 2回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(1) SNA 政策
  - 3回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(2) 経済成長
  - 4回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(3) 企業
  - 5回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(4) 農村、農業
  - 6回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(5) 金融
  - 7回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(1) SNA、経済発展、経済政策
  - 8回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(2) 経済政策、労働、金融
  - 9回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(3) 経済政策、労働、金融、内陸、沿海
  - 10回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(1) 経済成長
  - 11回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(2) 市場経済、経済成長
  - 12回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(3) 移行経済、市場経済
  - 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(1) 経済政策、経済成長
  - 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(2) 経済成長、北京コンセンサス、市場経済
  - 15回 まとめ
- \* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60%      ディスカッションへの参加状況・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 現代中国経済研究【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得していることがのぞましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東アジア国際政治研究【夜】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 東アジアの国際政治について、専門的な知見を有している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東アジアの国際政治について、社会科学的な調査や分析を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東アジアの国際政治に関して、修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

東アジア国際政治研究

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、日韓国交正常化交渉を切り口として、脱植民地化と冷戦論理の相剋によって規定されてきた戦後東アジア地域秩序の構図を、近年公開された新資料を使い、理解するうえでいくつかの視座を提供したい。換言すれば、戦後東アジアの国際規範でもあったサンフランシスコ講和条約に示された、いわゆる分離地域に対する法理とその精神が、日韓国交正常化交渉の場ではいかに議論されたのか、また、その帰結はイタリア講和条約などの他地域の例とどう異なったのかを比較検証することで、戦後東アジアにおける脱植民地化の論理を探り出したい。新資料とは、近年公開された日韓およびアメリカ政府資料である。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の演習で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

浅野豊美 編 『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編：請求権と歴史認識問題の起源』（東京：慈学社、2013年）  
李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化I：東アジア冷戦編』（東京：法政大学出版局、2011年）  
李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（東京：法政大学出版局、2011年）  
その他、演習の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロ（演習の趣旨および進め方、資料の紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 帝国日本の解体と戦後日韓関係
- 第3回 サンフランシスコ講和条約の適用と日韓関係
- 第4回 2つの講和条約と日韓交渉における植民地主義
- 第5回 日韓会談における被害補償交渉の過程分析
- 第6回 日韓請求権交渉と「米国解釈」
- 第7回 日韓会談の政治決着と米国
- 第8回 韓国の対日導入資金の最大化と最適化
- 第9回 日韓国交正常化交渉における基本関係問題
- 第10回 戦後日本のポツダム宣言解釈と朝鮮の主権
- 第11回 日韓会談と文化財問題
- 第12回 日韓会談と在日朝鮮人
- 第13回 日韓会談と領土問題
- 第14回 未完の日韓会談：残された問題
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%、討論への貢献度 50%



## 東アジア国際政治研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミで指示する文献を授業開始前までに熟読したうえで討論に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治、脱植民地化、冷戦、解放、分離、日韓国交正常化交渉、賠償、請求権、サンフランシスコ講和条約

# 東アジア政治思想研究【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本、中国、朝鮮・韓国の伝統と近代の政治思想史を読み直し、東アジア三国の思想や文化に関する様々な専門知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を生かせるよう実践的な問題や課題に関心をもち、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア政治思想研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本近代の政治思想史を「朱子学化」という視点から読み直す。それを通して、今日と将来の日本と東アジアを構想する。

## 教科書 /Textbooks

小倉紀蔵著『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012）5500円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小倉紀蔵著『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』（春秋社、2011）  
○与那覇潤著『中国化する日本』（文芸春秋、2011）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要紹介
- 2回 第1章 【朱子学】【日本近代】
- 3回 第2章 【儒教】【主体】
- 4回 第3章 【理】【論理】
- 5回 第4章 【朱子学的思惟】【階層性】
- 6回 第5章 【垂直性】【水平性】
- 7回 第6章 【こころ】【ニヒリズム】
- 8回 第8章 【国体論】【靈魂】
- 9回 第9章 【元田永孚】【教育勅語】
- 10回 第10章 【福沢諭吉】【朱子学的半身】
- 11回 第11章 【丸山真男】【朱学学的半身】
- 12回 第12章 【主体的韓国人】【朴鐘鴻】
- 13回 第13章 【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
- 14回 第14章 【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学生の報告 30% レポート 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

# 東アジア政治思想研究【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去、現在、未来を思想的に考えよう。

## キーワード /Keywords

# アメリカ社会研究 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会理解に必要な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカの社会文化を分析した古典的名著であるL・ハーツの『アメリカ自由主義の伝統』を輪読する。19世紀前半にアメリカを旅したトクヴィルが観察したように、アメリカでは社会革命を経ずして生まれた社会に特有の精神風土が開花することになった。その風土をアメリカが世界大国になった20世紀中期の現実を踏まえて、あらためて考察しなおしたのがハーツの著作である。この演習では、21世紀アメリカの社会的現実を紹介しながら、ハーツの議論の今日的有効性とその限界を考えていく。その上で、参加者自体のアメリカ観の養成をはかる。

## 教科書 /Textbooks

Louis Hartz with an introduction by Tom Wicker, The Liberal Tradition in America: An Interpretation of American Political Thought since the Revolution (San Diego, CA: Harcourt Brace & Company, 1991)[有賀貞訳『アメリカ自由主義の伝統』(講談社学術文庫 1994年)]

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】【方法論】
- 第2回 アメリカにおけるJ・ロック【自由主義】
- 第3回 トクヴィルとハーツ【政治参加】
- 第4回 革新主義史学への挑戦者としてのハーツ【革新主義】
- 第5回 アメリカにおける階級【社会主義】
- 第6回 アメリカ革命への視座【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義とアメリカ【共和主義】
- 第8回 ジャクソン期の「民主主義」【ジャクソン期】
- 第9回 南部政治の特殊性【南部】【奴隷制】
- 第10回 南北戦争と南北のイデオロギー対立【南北戦争】
- 第11回 再建期の思想動向【再建期】
- 第12回 革新主義を支えたもの【社会主義】【キリスト教】
- 第13回 ニューディールの実験主義【ニューディール】
- 第14回 ハーツと1950年代の自由主義政治【冷戦】
- 第15回 『アメリカ自由主義の伝統』の今日性【21世紀】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アメリカ社会研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イギリス地域研究 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ イギリスに関する専門的な知識を修得し、それに基づいて高度な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究を的確に整理し、一次資料に基づく議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能に基づき、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺的な地域に関する文献を読み、続いてイギリス社会を総合的に取り扱った歴史的な著作を中心に議論を展開する。

## 教科書 /Textbooks

S. Bassnett, Studying British Culture  
 J. Harris, Private Lives Public Spirit  
 E・H・カー『歴史とは何か』  
 成瀬治『近代市民社会の成立』  
 B・アンダーソン『想像の共同体』

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 地域・文化研究の方法論
- 3回 スコットランドの再定義
- 4回 カムリカウェールズか
- 5回 北アイルランド研究の現状
- 6回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8回 イギリス人の「生と死」
- 9回 イギリスの家族構造
- 10回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11回 イギリス社会における労働
- 12回 イギリス社会における宗教
- 13回 社会と国家
- 14回 社会と社会理論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容・・・100%

# イギリス地域研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。  
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際協力研究 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際協力に関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際協力に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際協力に関して修得した知識と技能を生かして、広い視野に立って適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際協力研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、新興援助国である中国や韓国が既存の国際開発レジームにとってどのような存在であるのかに焦点をあて、国際開発協力の最新の動向を理解します。とりわけ21世紀に入って以降の中国によるアフリカ援助は、アフリカの国々の経済成長を助けていると評価されるものの、その中国モデルは既存の援助ルールとは一線を画しています。そのことが従来のドナー国とのあいだに摩擦を生み出しており、今後の国際援助レジームの行く末を不透明にする原因となっています。授業では国際開発協力をめぐる国際政治にも焦点を当ててこの問題について考察します。

## 教科書 /Textbooks

Ian Watson, Foreign Aid and Emerging Powers, Routledge, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

エマ・モーズリー『国際開発援助の変貌と新興国の台頭』明石書店、2014年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 新興国の台頭と開発援助
- 第3回 ディスカッション
- 第4回 IR理論から考える新興国と地政学
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 アフリカにおけるアジアの援助国
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 アジアにおける政府開発援助
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 新興国、アジアの対外援助、地政学
- 第11回 ディスカッション
- 第12回 援助効果の議論と官民連携
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 開発効果の議論
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論への貢献度・・・ 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 国際協力研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

事前に文献の該当ページをしっかりと読み込んでおくこと。事後学習としては翌週にディスカッションがあるので、学んだ内容を復習して、何を討論したいのかの論点を明確にしておくこと。

また、開発援助の歴史と仕組みについて十分な知識が無ければ、学部の『国際協力論I』も併せて受講してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 安全保障研究 【夜】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際関係における安全保障上の問題について知識を習得し、それに基づいて、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 安全保障に関する先行研究を収集し的確に整理することができる。一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 安全保障に関する具体的、実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

安全保障研究

## 授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

## 教科書 /Textbooks

未定だが、メインとなる書籍は購入すること（例えば、下記のスケジュール例であれば、Just and Unjust Warがメインとなる。13回、14回、15回に用いる論文は事前にコピーを配布する）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

# 安全保障研究 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジюмеを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

### 第1回 ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分、質疑応答をしてもらう。

例えば、以下、11回までは、Michael Walzer, *Just and Unjust Wars: A Moral Argument with Historical Illustrations* 4th Edn., Basic Books, 2008, を2章ずつ講読してゆく。（各回ともに、15～20分×2章＝30～40分の要旨報告と質疑応答をしてもらう）

第2回 ch.1 Against Realism, ch.2 The Crime of War

第3回 ch.3 The Rules of War, ch.4 Law and Order in the International Society

第4回 ch.5 Anticipations, ch.6. Interventions

第5回 ch.7 War's Ends and the Importance of Winning, ch.8 War's Means and the Importance of Fighting Well

第6回 ch.9 Noncombatant Immunity and Military Necessity, ch.10 War against Civilians

第7回 ch.11 Guerrilla War, ch.12 Terrorism

第8回 ch.13 Reprisals, ch.14 Winning and Fighting Well

第9回 ch.15. Aggression and Neutrality, ch.16 Supreme Emergency

第10回 ch.17 Nuclear Deterrence, ch.18 The Crime of Aggression

第11回 ch.19 War Crimes, Soldiers and their Officers

第12回 Just and Unjust Warの総括、および、小レポートの要旨報告

第13回 Thomas Nagel, "War and Massacre," in T.Nagel et.al., eds., *War and Moral Responsibility*, Princeton UP, 1974.

第14回 Richard Norman, *Killing in Self-defence*, in Richard Norman, *Ethics, Killing and War*, Cambridge UP, 1995, pp.117-157.

第15回 Richard Norman, *Killing the Innocent*, in *ibid.*, pp.159-206. + 期末レポート要旨報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（30%）、予習状況（30%）、レポート（40%）から評価したい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 国際政治経済研究【夜】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際政治経済の様々な理論を理解し、複雑化する国際政治経済の諸問題を専門的に論じることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際政治経済に関する事項について、修得した知識と技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

国際政治経済研究

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容に対し、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。  
関下稔『国際政治経済学要論』見洋書房、2010年  
○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年  
Robert O'Brien, Marc Williams, Global Political Economy: Evolution and Dynamics, 4th edition, Palgrave MacMillan, 2013.  
Ronen Palan, Global Political Economy: Contemporary Theories, 2nd edition, Routledge, 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。  
野林健・長尾悟『国際政治経済を学ぶ - 多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房、2011年。  
○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
- 第3回 グローバリゼーションと国際関係
- 第4回 国際政治経済の見方(1) 重商主義
- 第5回 国際政治経済の見方(2) 自由主義
- 第6回 国際政治経済の見方(3) 批判理論
- 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み(1) ブレトン・ウッズ、GATT体制
- 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み(2) レジームの変容と課題
- 第9回 金融のグローバル化と通貨危機
- 第10回 国際金融秩序の構築
- 第11回 地域主義の展開(1) 北米の経済協定
- 第12回 地域主義の展開(2) ヨーロッパの統合
- 第13回 地域主義の展開(3) アジアの多様性
- 第14回 科学技術と国際政治経済
- 第15回 まとめ

# 国際政治経済研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加（議論への貢献度など）...20%、期末レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。  
授業終了後には必ず復習すること。  
必要に応じて事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、読んでから授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## イギリス文学研究【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

## 教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ベルティンク、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（イメージの起源）
- 3回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（死）
- 4回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（再生）
- 5回 文学テキストへの応用（Charles Dickens）
- 6回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（イメージと神話）
- 7回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（歴史）
- 8回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（古代芸術）
- 9回 文学テキストへの応用（P. B. Shelley）
- 10回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（スペクトル）
- 11回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（映像）
- 12回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（遠隔視）
- 13回 文学テキストへの応用（W. B. Yeats）
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

# イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回テキストを読み、自分の研究分野に照らし合わせながら見解をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

19世紀から現代に至るイギリス文学とその背景にあるキリスト教との関係について分析する。扱う作家は以下の5人である。

William Blake  
 S. T. Coleridge  
 William Wordsworth  
 T. S. Eliot  
 C. S. Lewis  
 Graham Greene

毎回、担当者の発表に基づいて、ディスカッション形式で授業をすすめる。

## 教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回プリントを用意する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 イン트로ダクション
- 2回目 William Blake, The Songs of Innocence
- 3回目 William Blake, The Songs of Experience
- 4回目 S. T. Coleridge, Kubla Khan
- 5回目 S. T. Coleridge, The Rime of the Ancient Mariner
- 6回目 William Wordsworth, "I Wondered Lonely as a Cloud"
- 7回目 William Wordsworth "The Rainbow"
- 8回目 T. S. Eliot, The Love Song of J. Alfred Prufrock
- 9回目 T. S. Eliot, Hollow Man
- 10回目 C. S. Lewis, The Lion, the Witch and the Wardrobe
- 11回目 C. S. Lewis (protestantism)
- 12回目 J. R. R. Tolkien, Lord of the Rings
- 13回目 J. R. R. Tolkien (Catholicism)
- 14回目 Graham Greene, The Third Man
- 15回目 Graham Greene, The Quiet American



## 現代イギリス文学研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、指示されたテキストや文献を読んで、自分の見解をまとめておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

This course in English expression will focus on the field of academic thesis writing. Classes will systematically address the theories that guide and direct thesis production and offer tuition in the English language skills required for successful engagement with the field of academic writing. It is hoped that by the end of the course students will be able to plan and produce focused and professional research papers.

## 教科書 /Textbooks

Swales, John M., & Freak, Christine, Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills, 3rd. ed. (Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes) 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction: Audience, Purpose and Strategy, Organization, Style
- Week 2 Flow & Language Focus 1
- Week 3 Openings: General Statements, Statistics, Definitions
- Week 4 Definitions cont. & Schools of Thought
- Week 5 Problem-Solutions Texts & Language Focus 2
- Week 6 Flow of Ideas in a Process Description & Language Focus 3
- Week 7 Structure of Data Commentary & Language Focus 4
- Week 8 Concluding a Commentary & Language Focus 5
- Week 9 Writing Summaries & Language Focus 6
- Week 10 Writing Critiques & Language Focus 7
- Week 11 Critical Reading
- Week 12 Constructing a Research Paper: Thesis Design
- Week 13 Discussion Sections & Language Focus 8
- Week 14 Presentation Week: Outline Your Thesis
- Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1 short essay (700 to 1000 words) (100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

# 英語表現法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

## 教科書 /Textbooks

*Adventures of Huckleberry Finn* Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4  
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1-4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5-8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9-12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13-16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17-23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24-27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28-31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32-35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36-40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何ゆえに生じているのか。
- 12回 41-43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

## アメリカ文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

## 【事前・事後学習の内容】

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 現代アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイ / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	◎ 現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

## Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest “walkers” in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for weekly presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America’s greatest living author.

## 教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)  
Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Journal articles on the library database.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

## 現代アメリカ文学研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Requirements: Final Essay: 30%, Four 1-page summaries: 20%, participation: 20%, Presentations and Socratic seminar questions: 20%, TED Talk and other homework: 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and all students will be expected to participate in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not be able to pass the course.

## キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

## 英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「事実上の国際共通語」の地位を得て久しい英語ですが、それゆえにグローバル化が進むのにあわせ、この言語に習熟することが前にもまして重要になってきています。英語教育について研究しようと志す方はもちろん、英米文学や英語学、あるいは中国語教育などについての研究を目指す方も、たとえ直接英語教育に携わる立場に立たなくとも、英語学習者の方々への助言を行なうなど、さまざまな形で間接的に英語教育にかかわることとなります。この授業は、そういう方にとって有意義な学びを提供できるものと思います。

英語教育学の根本となるのは言語理論であったり、それを本に発展した教授法ではありますが、学習者要因なども非常に重要です。また、理論と実践の間にも大きな開きがあります。そこで、本授業では、最初に言語理論や教授法、学習者要因などを扱い、後半では具体的な実践活動について考えてみたいと思っています。最終段階ではディベート教育、通訳教育などについてもふれ、今後の応用について考えてもらえるよう工夫したつもりです。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業ではプリントなどを用い、皆さんの学習の便宜を図ります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業の中で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：新しい時代の英語教育を目指して
- 第02回 アジア諸国における英語
- 第03回 TESOLとは何か：TESLとTEFL
- 第04回 日本における言語政策と英語教育論争
- 第05回 20世紀の言語理論
- 第06回 構造主義的外国語教授法
- 第07回 人間主義的外国語教授法
- 第08回 コミュニカティヴ・アプローチ
- 第09回 学習者とモチベーション
- 第10回 カリキュラム・シラバス・テスト
- 第11回 スピーキング・リスニングの指導
- 第12回 リーディングの指導
- 第13回 文法・作文の指導
- 第14回 通訳教育とグローバル人材育成
- 第15回 復習とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の度合い50% + 学期末レポート50%



# 英語教育法研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 社会システム総合概論 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える様々な課題に対して、経済学的な観点、社会的な観点、歴史的な観点、国際関係論的な観点等、multidisciplinaryな視点からアプローチします。受講生は専攻の異なる学生と討議を重ね、異なる学問分野からの知的刺激を受けながら、各テーマを多角的に捉える視点を身に付けます。そのことによって、自己の研究テーマに広がりをもたせることができるようになります。また、前半部分には、研究者として心得ておかなければならないアカデミック・ルールについても学びます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 図書館ツアー
- 第3回 アカデミック・ルール(剽窃行為等)について
- 第4回 テーマ①「多文化主義」(担当:吉川哲郎)
- 第5回 グループ・ワーク(プレゼンテーション準備)
- 第6回 プレゼンテーション
- 第7回 テーマ②「ジオパーク」(担当:野井英明)
- 第8回 グループ・ワーク(プレゼンテーション準備)
- 第9回 プレゼンテーション
- 第10回 テーマ③「高齢化社会」(担当:前田 淳)
- 第11回 グループ・ワーク(プレゼンテーション準備)
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 テーマ④「フェアトレード」(担当:大平 剛)
- 第14回 グループ・ワーク(プレゼンテーション準備)
- 第15回 プレゼンテーション

※なお、新図書館の稼働状況によっては第2回の実施時期が変更になるおそれがあります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(4本)100%(1本につき25%)  
※各テーマが終了するごとに、受講生には2000字程度のレポート課題が課せられます。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 社会システム総合概論【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

レポート課題では、アカデミック・ルールスキルが身についているかどうか評価の対象となりますので、学术论文の書き方に関する文献を読むなどしてルールに慣れ親しんでおく必要があります。

事前学習としては、グループ・ワークで自分が担当する箇所をしっかりと調べておくことが求められます。また、事後学習としてレポート執筆が義務づけられますので、アカデミック・ルールがきちんと身についているかを確認してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

水曜の6限に社会システム修士課程1年の全員が一堂に会する授業です。他専攻の学生とグループを組むこともあり得ますので、積極的にコミュニケーションを取り、グループ・ワークに努めてください。なお、場所は新図書館の「ラーニング・コモンズ」を予定していますが、変更になる場合もあります。

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会心理学に関連する研究を進めていくための基礎的な指導を行う。研究テーマを絞り、研究史をまとめる作業を行いつつ、研究方法の予備的検討を行う。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2～14回目 発表や討論など
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容50%、研究遂行上の積極性50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。  
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)  
(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。  
(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。  
(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。  
(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。  
(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。  
(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する  
平素…40%、課題…40%、討議…20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマおよびその方法論を検討することを目的とする。研究テーマにおいては人間の基本的特性を理解した上で、人間関係に関わる諸問題を検討する。さらに、方法論においては人間関係に関わる諸問題についてどのような調査・分析が可能かを検討する。そして、修士論文のテーマを具体化することが目標となる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 山田剛史・林創 (2011). 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
- 大野木裕明・中沢潤 (編著) (2002). 心理学マニュアル研究法レッスン 北大路書房
- 浦上昌則・脇田貴文 (2008). 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第15回 研究指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて、十分に検討しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法の習得するために、テーマに関する文献収集とその検討や研究手法に関する指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
資料は初回の授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究計画の検討1【研究目的・課題をめぐって】
- 3回 研究計画の検討2【研究方法をめぐって】
- 4回 修士論文に関わる文献の購読1【修士論文・課題】
- 5回 修士論文に関わる文献の購読2【修士論文・方法】
- 6回 修士論文に関わる文献の購読3【日本教育制度学会・学会誌掲載論文】
- 7回 修士論文に関わる文献の購読4【日本教育政策学会・学会誌掲載論文】
- 8回 修士論文に関わる文献の購読5【日本教育経営学会・学会誌掲載論文】
- 9回 修士論文に関わる文献の購読6【日本教育法学会・学会誌掲載論文】
- 10回 修士論文に関わる文献の購読7【日本教育社会学会・学会誌掲載論文】
- 11回 研究方法1【フィールドワーク・学校】
- 12回 研究方法2【フィールドワーク・学校外教育】
- 13回 研究計画の検討3【先行研究の検討(研究目的・課題をめぐって)】
- 14回 研究計画の検討4【先行研究の検討(研究方法をめぐって)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...40% 発表報告...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。



# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基礎力を身につけることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。プリントを配布する予定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定と討論①
- 第3回 研究テーマの設定と討論②
- 第4回 研究テーマの設定と討論③
- 第5回 研究テーマの設定と討論④
- 第6回 関連資料の講読と討論①
- 第7回 関連資料の講読と討論②
- 第8回 関連資料の講読と討論③
- 第9回 関連資料の講読と討論④
- 第10回 関連資料の講読と討論⑤
- 第11回 関連資料の講読と討論⑥
- 第12回 関連資料の講読と討論⑦
- 第13回 関連資料の講読と討論⑧
- 第14回 関連資料の講読と討論⑨
- 第15回 関連資料の講読と討論⑩

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに研究計画や研究資料に関するレジュメを作成し、授業終了後はレジュメ等に目を通しながら理解を深めること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会問題としての生活問題に関する理論を基礎にして、対象者を権利の主体として位置づけるための社会福祉研究のあり方について、文献研究を通して深めていく。

## 教科書 /Textbooks

適時指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 問題意識に関する討論
- 3回 講読文献の決定と討論
- 4回 文献講読と討論
- 5回 文献講読と討論
- 6回 文献講読と討論
- 7回 文献講読と討論
- 8回 問題意識を深めるための中間討論
- 9回 文献講読と討論
- 10回 文献講読と討論
- 11回 文献講読と討論
- 12回 文献講読と討論
- 13回 文献講読と討論
- 14回 文献講読と討論
- 15回 まとめの討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

指定するテキストの中には、すでに絶版となっている物も含まれているため、文献探索の労をいとわない様にしてほしい。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、修士課程での2年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。  
 本年度に関しては、被虐待状況に置かれた子どもの抱える心理的・精神医学的問題への理解と援助の問題を中心に検討する。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 研究計画の検討
- 4回 文献購読 第1章
- 5回 文献購読 第2章
- 6回 文献購読 第3章
- 7回 文献購読 第4章
- 8回 文献購読 第5章
- 9回 文献購読 第6章
- 10回 参加者の研究計画の再検討
- 11回 事例検討 その1
- 12回 事例検討 その2
- 13回 フィールドワーク その1
- 14回 フィールドワーク その2
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

2年間の研究活動を見通して、問題意識をしっかりとって参加してほしい。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究計画、研究方法

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究テーマ・研究課題の設定方法、課題に応じた資料の収集方法や、調査方法等の論文作成に必要な知識について学び、課題の明確化と研究への着手を進める。

## 教科書 /Textbooks

授業の中で紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文作成にあたって (概要説明)
- 第2回 問題意識の整理
- 第3回 研究方法1 (研究の種類)
- 第4回 研究方法2 (研究の進め方)
- 第5回 研究計画書の書き方
- 第6～10回 研究計画書の発表 (第1回目)
- 第11～14回 研究計画書の修正 (第2回目)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表と授業への積極的関与により評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

研究テーマと研究計画について必ず整理してくる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

この科目は、研究と修士論文の作成のための基礎的な知見と研究方法を修得することを目的とします。  
研究テーマに関する文献・資料の収集を行いながら、先行研究と研究の方法論を学び、研究を独自で展開するために必要な能力を身につけます。同時に、論文執筆に必要なスキルを高めます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。  
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。  
人間関係に関わる諸課題について調査できる。  
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2回～第15回 論文執筆指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

自主的な研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、自らの研究課題に関連する論文（レポート）の作成に向けて、以下の準備作業を行う。  
 ( 1 ) 研究テーマ・問い、論証戦略の確定  
 ( 2 ) 調査方法の検討  
 ( 3 ) 自らの研究テーマ・問いについての既存の研究の整理  
 ( 4 ) 調査法の習得

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマ・問いの確認
- 第3回 既存の研究の探索
- 第4回 既存の研究の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 基本仮説・作業仮説の検討
- 第7回 論証戦略の検討
- 第8回 調査法の整理
- 第9回 調査法の検討
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第14回 調査の計画
- 第15回 研究報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 特別研究基礎 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

報告者はレジユメを用意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
  - 第2回調査方法検討
  - 第3回周辺領域の文献収集
  - 第4回文献リストの作成
  - 第5回 先行研究に関する批判
  - 第6回先行研究に関する総論
  - 第7回調査計画
  - 第8回調査計画の再検討
  - 第9回仮説作成
  - 第10回 仮説作成の再検討
  - 第11回予備調査
  - 第12回予備調査の再検討
  - 第13回先行研究との関連性
  - 第14回本調査への準備
  - 第15回 まとめ
- 予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
- ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

# 特別研究基礎 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%  
各自の調査研究 ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

## キーワード /Keywords

人類学  
フィールドワーク

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点( 討論への参加状況含む ) ...40% 事前調査と発表内容...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に、発表までの作業計画をたてて準備し、発表資料を作成すること。  
各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標： 多くの作品を読破することで、自分の扱う作品やテーマを絞り込み、それらに対する批評方法を意識化できるようになること。

- ①英米語圏の文学の知識を応用し、論文作成の基本能力を養うこと。
- ②英米語圏の文学作品や批評理論の資料を分析できる技能を修得すること。
- ③英米語圏の文学の課題を主体的に分析できる態度を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入。担当学生と相談の上、1学期の予定表を作成します。
- 第2回 テーマに沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
- 第3回 前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
- 第4回 前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
- 第5回 前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
- 第6回 前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
- 第7回 前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
- 第8回 前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
- 第9回 前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
- 第10回 前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
- 第11回 前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
- 第12回 前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
- 第13回 前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
- 第14回 前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
- 第15回 総括。修士論文の題目を決定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書... 80% 授業への参加度など... 20%



# 特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前・事後学習の内容】

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭におき、修論作成に活かしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

## 教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎1）
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎2）
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎3）
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎4）
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎5）
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開1）
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開2）
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開3）
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開4）
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開5）
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用1）
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用2）
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用3）
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用4）
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用5）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題を準備してくること。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文学作品の読解、批評論文の読解を通して、アメリカ文学を分析する際の手法を理解し、身に付けることを目的とする。  
授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味の所在を踏まえたうえで決定するが、本年度はジョン・スタインベックの小説の精読を行う予定である。また、修士論文の執筆に必要な資料の収集、読解、活用に関する指導と、修士論文の構想の作成に関する指導も行なう。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回の授業時に、受講生の興味の所在を踏まえた上で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性に関する詳細の決定
- 2回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：図書館
- 3回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：ネット活用
- 4回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：他大学蔵書
- 5回 最初に決めたテーマと関連した作品の読解
- 6回 最初に決めたテーマと関連した作品の分析
- 7回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の読解
- 8回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の分析
- 9回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の精読
- 10回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の読解
- 11回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の分析
- 12回 修論のテーマに関する指導
- 13回 修論の構想に関する指導：章構成について
- 14回 修論の構想に関する指導：各章の内容について
- 15回 レポートの提出・講評

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の学習状況50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

夏休み中に修士論文の構想を確定し、夏休み明けの最初の授業時に発表する必要がある。

## 【事前・事後学習の内容】

授業前に、作品の事前に指定された箇所を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究課題に取り組むための準備として十分な文献講読を行い、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等の基礎を指導する。

## 教科書 /Textbooks

未定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 文献講読とディスカッション(1)
- 5回 文献講読とディスカッション(2)
- 6回 文献講読とディスカッション(3)
- 7回 文献講読とディスカッション(4)
- 8回 文献講読とディスカッション(5)
- 9回 文献講読とディスカッション(6)
- 10回 文献講読とディスカッション(7)
- 11回 文献講読とディスカッション(8)
- 12回 文献講読とディスカッション(9)
- 13回 学生による研究報告(1)
- 14回 学生による研究報告(2)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、これから大学院での研究活動を始めるにあたって必要な基礎力を身に着けるためのお手伝いをしたいと思います。あくまでも研究の主体は受講生ですから、こちらから何かを教えるというのではなく、主体的に取り組んでこられたことを確認し、発展させるための手助けをしたいと思います。これから2年間しっかりがんばりましょう。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究方針の確認(1)
- 第02回 必要な文献の購読と吟味(1)
- 第03回 必要な文献の購読と吟味(2)
- 第04回 必要な文献の購読と吟味(3)
- 第05回 必要な文献の購読と吟味(4)
- 第06回 必要な文献の購読と吟味(5)
- 第07回 必要な文献の購読と吟味(6)
- 第08回 必要な文献の購読と吟味(7)
- 第09回 学期末小論文の作成準備協議(1)
- 第10回 学期末小論文の作成準備協議(2)
- 第11回 学期末小論文の作成準備協議(3)
- 第12回 学期末小論文の作成準備協議(4)
- 第13回 学期末小論文の作成準備協議(5)
- 第14回 学期末小論文の作成準備協議(6)
- 第15回 学期末小論文の作成準備協議(7)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、学期末小論文によって評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

論文作成の基本知識と技巧を習得する。

## 教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配る。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

鄧紅著『王充新八論』（中国社会科学出版社2003年）○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 先行研究の選定
- 第二回 先行研究の引用
- 第三回 学術論文の章節
- 第四回 学術論文の構造
- 第五回 学術論文の言語表現
- 第六回 論文の標点
- 第七回 論文のバランス
- 第八回 注釈の作成
- 第九回 参考資料の調査
- 第十回 資料の調べ方
- 第十一回 図書館の利用法
- 第十二回 インターネットと論文作成
- 第十三回 論文講読（1）
- 第十四回 論文講読（2）
- 第十五回 論文試作、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業準備40%、レポートの完成度60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

論文作成道具の用意

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学ぶことを目標とする。また修士論文のテーマを絞り込んでいく。  
主に『文選』所収の作品を取り上げて、中国の六朝時代の文学について理解を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 六朝の文学と『文選』(1)  
第2回 六朝の文学と『文選』(2)  
第3回 陶潜「雑詩」二首(巻30)  
第4回 左思「招隱詩」(巻22)  
第5回 陸機「招隱詩」(巻22)  
第6回 王康琚「反招隱詩」(巻22)  
第7回 張協「雑詩」十首(1)(巻29)  
第8回 張協「雑詩」十首(2)(巻29)  
第9回 張協「雑詩」十首(3)(巻29)  
第10回 張協「雑詩」十首(4)(巻29)  
第11回 張協「雑詩」十首(5)(巻29)  
第12回 張協「雑詩」十首(6)(巻29)  
第13回 張協「雑詩」十首(7)(巻29)  
第14回 劉琨「答盧諶詩一首并書」(1)(巻25)  
第15回 劉琨「答盧諶詩一首并書」(2)(巻25)  
※特に西晋～東晋に焦点をあてているが、あくまで予定であり、実際の進み具合や取り上げる作品は変更することがある。発表用に資料を作ってもらう。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

- ① 調べや資料作成はすべて授業前にやっておいて下さい。
- ② 授業で報告後、考え直しや調べ直しをしてもらうこともあります。
- ③ 授業前、授業後に参考書等を利用して理解を深めて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

六朝文学、魏晉南北朝文学、『文選』、陶淵明

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国語教育に関する文献を講読し、主に日本における中国語教育の諸問題から興味のある課題を見出す。同時に、外国語教育研究における資料収集・データ分析・論文作成などの基本を身に付ける。

## 教科書 /Textbooks

随時配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

史有为 著 『寻路汉语——语言习得与对外汉语教学研究』 商务印书馆、2013年  
胡玉華 著 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成-「わかる」中国語から「できる」中国語へ』 東方書店、2009年  
竹内理・水本篤 編著 『外国語教育研究ハンドブック(改訂版)』 松柏社、2014  
黄南松・胡文泽・何宝璋著 『对外汉语教学语法疑难解析』 北京大学出版社、2015年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス+日本における中国語教育の現状  
第2回~5回 文献講読+資料収集方法  
第6~10回 文献講読+データ分析方法  
第11~14回 文献講読+論文作成方法  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50%  
課題の完成度.....50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず予習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の積極性を高く評価する。

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、大学院生活の最初の段階として必要な研究への取り組みの基礎固めをおこなう。受講者と相談のうえ、文献収集とその精査を中心におこなっていく。最終的な目標は修士論文のテーマの可能性をできるだけ広い視野のもとで明確にしていくことである。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第4回 研究計画の作成と基本文献の収集
- 第5回～第7回 基本文献の講読と精査
- 第8回～第10回 関連文献の講読と精査
- 第11回～第13回 テーマ構想の可能性についての検討
- 第14回～第15回 授業の総括と今後の研究計画の構築

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50% レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で出された課題について、情報収集を綿密におこなうことが求められる。授業外時間での情報収集能力の向上を意識してほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談した上で決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文計画に関する検討
- 2回～14回 院生による口頭発表及び教員による指導
- 15回 今後の研究計画に関する検討

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：45% 態度：25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、認知言語学、認知文学



## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

This course will be an introduction to comparative cultural analysis. We will cover different modes of analysis and interpretation for research. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course. The goal is the acquisition of research concepts and fundamentals for later application. Students will be encouraged to focus on their chosen areas of research for presentation and discussion.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and Introduction
- 2回 Research Fundamentals A
- 3回 Research Fundamentals B
- 4回 Research Fundamentals C
- 5回 Introduction of research student research topics and materials.
- 6回 Discussions and Presentations A
- 7回 Discussions and Presentations B
- 8回 Discussions and Presentations C
- 9回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 10回 Student Discussion and Presentation A
- 11回 Student Discussion and Presentation B
- 12回 Orientations and Guidelines for Presentations to be led by students based on the contents of materials.
- 13回 Student-led Discussion and Presentation A
- 14回 Student-led Discussion and Presentation B
- 15回 Student-led Discussion and Presentation C

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50% Final 2000 word paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、どのような課題について論文を書くか、また、その受講生のこれまでの学習・研究状況に応じて、必要な講義と文献講読を行う。同時に、言語学の分野における論文執筆作法の基礎を身につける。言語学の下位分野1領域の興味のある課題について、小さな論文をまとめる。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生との相談
- 第2回 言語学の対象と目的【規範文法・記述文法・理論言語学】
- 第3回 音声学【調音音声学・音響音声学・聴音音声学】
- 第4回 音韻論【文節音素・超分節音素・音節構造】
- 第5回 形態論1【屈折形態論・形態音素規則】
- 第6回 形態論2【派生形態論・複合語形成】
- 第7回 統語論1【項構造・句構造】
- 第8回 統語論2【原則と媒介変項の理論】
- 第9回 意味論1【真理条件・含意・前提】
- 第10回 意味論2【照応・作用域】
- 第11回 語用論1【発話行為論】
- 第12回 語用論2【グライス理論・関連性理論・ポライトネス理論】
- 第13回 言語学上の問題の発見と分析方法【仮説演繹体系】
- 第14回 学生による発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への準備状況および参加度...30% 課題...30% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）  
事後学習：課題の提出

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、言語学の下位分野の中から、興味のある課題を選び、論文を作成する。受講生が選んだテーマに応じて、必要な文献講読を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1)文献講読を通して、言語学に関する知識を身につける。
- (2) 言語学に関する論文作成の基礎を身につける。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
 その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生と相談
- 第2回 - 第10回 文献講読
- 第11回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 事前学習：文献の予習
- 事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の講読

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中華人民共和国の共産党一党支配体制と市場経済化との関係について検討し、改革開放政策に対する評価について議論する。中国研究の資料・文献について収集・読解能力を養う。詳細は受講生の関心に応じて決定する。学期末にレポートを課す。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールを進める。  
 1回 インTRODクシヨン  
 2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論。  
 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。  
 中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。  
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

## 教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
  - 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 15回 まとめ
- \* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60%      ディスカッションへの参加状況・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とする。そのため学部レベルの当該科目の知識を習得していることがのぞましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献とともに原典・古典を読解する。ゼミ参加学生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。

## 教科書 /Textbooks

随時紹介する。またゼミ参加学生各自の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
読解する文献、原典・古典は授業中決める。  
レジュメの作成・報告、討論  
論文作成法の学習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% レポートや論文 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

東アジア国際関係史・比較思想の関連著述を読み漁ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的に読むこと。

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

東アジア経済に関連したテーマで修士論文を作成することを前提として、東アジア経済の基本的文献とともに研究を進める上での方法論についても文献を精読していき、論文執筆に求められる知識と研究能力を身につけていく。

## 教科書 /Textbooks

研究テーマに応じて相談して決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション  
第2回～第14回 レジユメによる報告とディスカッション  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 40% 報告 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

修士論文を書くための基礎作業を行う

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

別途指示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第5回 研究史のまとめ方  
第6回～第15回 史料の探し方・読み方

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(4000字)・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、まず、研究テーマ（日本政治外交史）を決める手助けをしたい。

## 教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2回～15回 学生による報告とそれに対する指導。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに教員から提示された課題を完遂すること。授業終了後には講義中指摘された問題点を自分なりに考え、次週の講義に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理と、「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生に対して個別に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 インTRODクシヨN  
2回～14回 修士論文の経過報告  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

各自が研究対象とする地域と課題を設定し、基本的な文献を収集・読破する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション  
第2回：研究する上での基本的姿勢（講義）  
第3回：課題設定における諸注意（講義）  
第4回～第14回：各自の報告・議論  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%  
レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生の必要に応じて開講する。  
戦後東南アジアの国際関係、政治や社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生による報告と議論を行う。それを通して、【大学院生として身につけておくべき基礎的・初歩的知識の獲得】を目指す。  
同時に、修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法（文献検索や参考文献の提示の仕方などの細かい点も含めて）を教示し、論文もしくは課題研究を完成させることを目指す。  
また何度か短い課題レポートを科し、添削をして返却する。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、以下を考えている。  
(1) 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。  
(2) 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。  
(3) Amitav Acharya, Constructing a Security Community in Southeast Asia, Routledge, 2001.  
(4) 服部民夫・船津鶴代・鳥居高編『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所、2002年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。  
○大阪市立大学経済研究所監修『アジアの大都市シリーズ』日本評論社、1998年～2000年。  
バンコク編、ジャカルタ編、クアラルンプール・シンガポール編、マニラ編の4冊がある。  
○Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 テキストとスケジュールの相談、説明  
第2～4回 『東南アジア現代政治入門』を3回に分けて輪読、議論する  
第5～7回 『アジア政治とは何か』を3回に分けて輪読、議論する  
第8～10回 Constructing a Security Community in Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する  
第11～13回 『アジア中間層の生成と特質』を3回に分けて輪読、議論する  
第14回 これまでの議論を踏まえて各人の課題レポートを決め、その内容を報告する  
第15回 まとめの議論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

# 特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード /Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN



# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国を中心とした社会の諸問題について各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて各自で調査する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方などについての話し合い
- 2回 論文の書き方、資料収集方法などについての確認
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 文献講読と解説
- 5回 文献講読と解説
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 文献講読と解説
- 8回 文献講読と解説
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 文献講読と解説
- 11回 文献講読と解説
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 文献講読と解説
- 14回 文献講読と解説
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 30% 発表... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジユメを作って発表にのぞむこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会概論とあわせて履修すると効果的です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション。  
第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論  
第15回 まとめ  
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%  
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。  
授業外の作業についても授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文執筆に向けての基礎的な指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論執筆に向けた基礎的な指導(1)
- 3回 修論執筆に向けた基礎的な指導(2)
- 4回 修論執筆に向けた基礎的な指導(3)
- 5回 修論執筆に向けた基礎的な指導(4)
- 6回 修論執筆に向けた基礎的な指導(5)
- 7回 修論執筆に向けた基礎的な指導(6)
- 8回 修論執筆に向けた基礎的な指導(7)
- 9回 修論執筆に向けた基礎的な指導(8)
- 10回 修論執筆に向けた基礎的な指導(9)
- 11回 修論執筆に向けた基礎的な指導(10)
- 12回 修論執筆に向けた基礎的な指導(11)
- 13回 修論執筆に向けた基礎的な指導(12)
- 14回 修論執筆に向けた基礎的な指導(13)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に授業準備を十分に整え、事後にその回の課題を完了させておくこと。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資の分析を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。

到達目標は以下の通りである。

- ① 国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。
- ② 現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。
- ③ 国際経済の数理モデルを理解できる。

## 教科書 /Textbooks

中西訓詞・広瀬憲三・川井一宏著『国際経済理論』（有斐閣ブックス）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）  
伊藤元重・大山大道著『国際貿易』（岩波書店）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカードモデルI【比較優位】【貿易パターン】
- 3回 リカードモデルII【2国多財モデル】【相対賃金】【技術進歩】
- 4回 特殊の要素モデルI【特殊の要素】【生産構造】
- 5回 特殊の要素モデルII【比較静学】
- 6回 ヘクシャー・オリーンモデルI【ヘクシャー・オリーン定理】【要素価格均等化定理】
- 7回 ヘクシャー・オリーンモデルII【ストルパー・サムエルソン定理】【リプチンスキー定理】
- 8回 貿易均衡【交易条件】【オファー・カーブ】
- 9回 貿易政策論の基礎I【小国】【ラーナーの対称性定理】
- 10回 貿易政策論の基礎II【大国】【関税と数量規制政策の同値性】
- 11回 海外直接投資I【国際資本移動】【マクドゥーガル分析】
- 12回 海外直接投資II【多国籍企業】【取引コスト】
- 13回 戦略的貿易政策I【国際寡占】【戦略的行動】
- 14回 戦略的貿易政策II【輸入関税政策】【輸出補助金政策】
- 15回 まとめ

## 特別研究基礎 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 %                      課題提出 ( 数回 ) 70 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分など経済数学の知識が必要。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

国際貿易、直接投資、経済統合



## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、修士課程の1年生が修士論文を作成する上で必要となるスキルを身に付けることを目指します。論文とはいかなるものであるかをまずは学び、論文作成上のアカデミック・ルールを身に付けます。次いで、実際に学術論文をもとに、論文の内容把握とともに、論理展開の方法について学習します。

## 教科書 /Textbooks

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半部分は上記テキストを用い、後半部分では学術論文のコピーを教材として使用します。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 テキスト第1章、第2章
- 第3回 テキスト第3章、第5章
- 第4回 テキスト第7章
- 第5回 論文執筆のアカデミック・ルール
- 第6回 学術論文の解剖①(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第7回 学術論文の解剖①(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第8回 学術論文の解剖②(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第9回 学術論文の解剖②(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第10回 学術論文の解剖③(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第11回 学術論文の解剖③(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第12回 学術論文の解剖④(1) (英語論文) (内容把握)
- 第13回 学術論文の解剖④(2) (英語論文) (論理展開の分析)
- 第14回 学術論文の解剖⑤(1) (英語論文) (内容把握)
- 第15回 学術論文の解剖⑤(2) (英語論文) (論理展開の分析)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習として、配布された資料に目を通してから授業に臨んでください。事後学習としては、学んだ内容を実際の論文等で確認する作業をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

国際機構を主題とする修士論文を作成するために、基礎的な文献や一次資料を収集しつつ、これらを整理するための技能を養う。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに  
第2回-第14回 報告と議論  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告30%、参加70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講者各自が研究を進めることが目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究方法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉猟とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

各受講生が学問的意義、社会的意義のある研究を進め、論文執筆できるようになることが到達目標である。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。  
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)  
(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。  
(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。  
(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。  
(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。  
(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。  
(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する  
平素…40%、課題…40%、討議…20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集、研究の方法論を学び、研究を独自で展開するのに必要な能力をつける。研究テーマにおいては人間の基本的特性を理解した上で、人間関係に関わる諸問題を検討し、文献・資料の収集を行う。さらに、方法論においては人間関係に関わる諸問題についてどのような調査・分析が可能かを検討する。そして、修士論文を完成させるのに必要な能力をつけることが最終的な到達目標となる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回～第15回 論文執筆指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて、先行研究などを調べ十分に検討しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

特別研究基礎の成果及び出てきた課題をふまえ、研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法を習得する。

### 目標

- ① 研究に必要な知識を習得する。
- ② より効果的な研究法を選択、吟味し、実践する。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
資料は初回の授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 文献の検討 1【研究論文・課題】
- 3回 文献の検討 2【研究論文・方法】
- 4回 文献の検討 3【日本子ども社会学会・学会誌掲載論文】
- 5回 文献の検討 4【日本教育学会・学会誌掲載論文】
- 6回 文献の講読 5【日本比較教育学会・学会誌掲載論文】
- 7回 文献の講読 6【異文化間教育学会・学会誌掲載論文】
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究方法 1【フィールドワーク・学校】
- 10回 研究方法 2【フィールドワーク・学校外教育】
- 11回 研究方法 3【面接・質問事項の精査】
- 12回 研究方法 4【面接・聞き取りの手法】
- 13回 研究計画の検討 1【先行研究の検討(研究目的・課題)】
- 14回 研究計画の検討 2【先行研究の検討(研究方法)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度 ...50%  
発表報告...50%



# 特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジюме等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

臨床心理学領域の修士論文を書くのに必要とされる知識・理論の習得や、問題の所在を明確化して研究デザインを導き出すための力を身につけることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献講読と討論①
- 第3回 文献講読と討論②
- 第4回 文献講読と討論③
- 第5回 文献講読と討論④
- 第6回 文献講読と討論⑤
- 第7回 文献講読と討論⑥
- 第8回 文献講読と討論⑦
- 第9回 文献講読と討論⑧
- 第10回 文献講読と討論⑨
- 第11回 研究デザインと討論①
- 第12回 研究デザインと討論②
- 第13回 研究デザインと討論③
- 第14回 研究デザインと討論④
- 第15回 研究デザインと討論⑤

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに研究計画や研究資料に関するレジュメを作成し、授業終了後はレジュメ等に目を通しながら理解を深めること。

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」  
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべきことを吟味する。

## 教科書 /Textbooks

適時指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1～5回 社会福祉研究の動向に関する討論
- 第 6～10回 研究方法に関する検討
- 第11、12回 研究課題に関する報告と討論
- 第13、15回 研究論文の意味と位置

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のための基本的学習を行う。受講生の研究計画について話し合い、問題意識を掘り下げ、研究テーマが明確化できるような支援を行う。参考文献を読むことで、社会福祉の理論について学び、論文執筆に役立つ理論的枠組みについて検討できるようにする。研究計画を検討し、具体化できるように支援を行う。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究に関する報告と討議、検討
- 3回 研究に関する報告と討議、検討
- 4回 研究に関する報告と討議、検討
- 5回 研究に関する報告と討議、検討
- 6回 研究に関する報告と討議、検討
- 7回 研究に関する報告と討議、検討
- 8回 研究に関する報告と討議、検討
- 9回 研究に関する報告と討議、検討
- 10回 研究に関する報告と討議、検討
- 11回 研究に関する報告と討議、検討
- 12回 研究に関する報告と討議、検討
- 13回 研究に関する報告と討議、検討
- 14回 研究に関する報告と討議、検討
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50%、 報告・レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

報告のためのレポートの作成など、事前学習が必要になります。

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、修士課程での2年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。とりわけ本年度は被虐待状況に置かれてきた子ども・青年の自立のプロセスとそこでの支援の問題について、フィールドワークの取り組みも行ないつつ検討していきたい。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 研究計画の検討
- 4回 文献購読 第1章
- 5回 文献購読 第2章
- 6回 文献購読 第3章
- 7回 文献購読 第4章
- 8回 文献購読 第5章
- 9回 文献購読 第6章
- 10回 参加者の研究計画の再検討
- 11回 事例検討 その1
- 12回 事例検討 その2
- 13回 事例検討 その3
- 14回 事例検討 その4
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究活動の基礎



# 特別研究 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究課題の整理と、研究方法の精緻化を進める。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 特別研究の進め方 (概要説明)
- 第 2～6 回 研究計画の修正と進捗報告
- 第 7～14 回 関連文献・関連論文の報告
- 第 15 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告により評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず報告の準備をしてくること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この科目は、特別研究基礎から引き続いて、研究と修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とします。研究テーマに関する文献・資料の収集を行いながら、先行研究と研究の方法論を学び、研究を独自で展開するために必要な能力を身につけます。同時に、論文執筆に必要なスキルを高めます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。  
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。  
人間関係に関わる諸課題について調査できる。  
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回～第 15 回 論文執筆指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

自主的な研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講者の問題関心にそった論文（レポート）の作成をめざす。  
そのため、以下のことを行う。  
（１）自らの研究関心に関連する文献のレビュー（テキスト批評）  
（２）調査法の習得  
（３）論文（レポート）の執筆

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 問いと論証戦略の確認
- 第3回 既存の研究の整理（文献リストの作成）
- 第4回 文献のレビュー（テキスト批評）1
- 第5回 文献のレビュー（テキスト批評）2
- 第6回 調査法の検討
- 第7回 文献のレビュー（テキスト批評）3
- 第8回 文献のレビュー（テキスト批評）4
- 第9回 文献のレビュー（テキスト批評）5
- 第10回 研究報告 1
- 第11回 文献のレビュー（テキスト批評）6
- 第12回 文献のレビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献のレビュー（テキスト批評）8
- 第14回 文献のレビュー（テキスト批評）9
- 第15回 研究報告 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回オリエンテーション：研究計画  
 第2回本調査データの検討  
 第3回周辺領域の文献  
 第4回文献リストの作成  
 第5回 先行研究に関する批判  
 第6回先行研究に関する総論  
 第7回補足調査計画  
 第8回補足調査計画の再検討  
 第9回中間発表準備および章立ての作成  
 第10回 章立ての再検討  
 第11回論文指導  
 第12回論文指導  
 第13回論文指導  
 第14回論文指導  
 第15回 まとめ  
 予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。  
 ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

## 特別研究 1 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %  
各自の調査研究 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

## キーワード /Keywords

人類学  
フィールドワーク

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 修士論文発表会への参加

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点( 討論への参加状況含む ) ...40% 事前調査と発表内容...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に、発表までの作業計画をたてて準備し、発表資料を作成すること。  
各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること。

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標： 多くの作品の中から自分の扱う作品やテーマを決定し、それらに対して批評方法を実践し、方向性を見出せるようになること。

- ①英米語圏の文学の知識を応用し、論文完成の基本能力を養うこと。
- ②英米語圏の文学や批評理論の資料を分析し、研究に応用できるようになること。
- ③英米語圏の文学に関する課題を主体的に考える態度を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 特別研究 1 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	導入。担当学生と相談の上、2学期の予定表を作成します。
第2回	1学期に決定した修士論文の題目に沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
第3回	前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
第4回	前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
第5回	前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
第6回	前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
第7回	前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
第8回	前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
第9回	前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
第10回	前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
第11回	前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
第12回	前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
第13回	前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
第14回	前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
第15回	総括。修士論文のおおよその流れの決定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

【事前・事後学習の内容】  
毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭におき、修論作成に活かしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に活用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

## 教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で、必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、平素

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、1000～1200字のエッセイ課題を用意してくること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、アメリカ文学、特に小説を分析する際の研究方法に関する理解を深め、身に付けることを目的とする。授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味のある所を踏まえたうえで決定し、可能な限り、修士論文の作成につながる形での授業を行いたい。本年度は、ジョン・スタインベックの小説と批評論文の精読を行う予定である。前期に引き続き、修士論文執筆に必要な資料の読解と、収集に関する指導を継続する。後期は、夏休み明けに提出してもらった修士論文の構想を入念に検討し、その構想を確定する作業も行ないたい。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回の授業時に、受講生の実情を踏まえた上で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性の決定
- 2回 夏季休業中の研究に関する報告
- 3回 夏季休業中の研究に関する指導
- 4回 修士論文のテーマに関する指導
- 5回 修士論文の構想に関する指導
- 6回 修士論文執筆に必要な資料の収集
- 7回 修士論文執筆に必要な資料の読解
- 8回 修士論文執筆に必要な資料の分析
- 9回 修士論文で取り上げる作品の精読：ストーリー展開
- 10回 修士論文で取り上げる作品の精読：人物描写
- 11回 修士論文で取り上げる作品の精読：伝記との関連性
- 12回 修士論文で取り上げる作品の精読：社会背景との関連性
- 13回 修士論文の構想の確定
- 14回 全体のまとめ
- 15回 次年度の研究に関する指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の研究状況50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 【事前・事後学習の内容】

授業前に、作品の事前に指定された箇所を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究課題を具体化する能力の養成を目的に、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等を指導する。社会言語学的手法を用いて、人間の言語行動と彼らの属する社会との係わりを探究する課題の研究指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

未定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 方法論について検討(1)
- 5回 方法論について検討(2)
- 6回 方法論について検討(3)
- 7回 方法論について検討(4)
- 8回 方法論について検討(5)
- 9回 課題研究(1)
- 10回 課題研究(2)
- 11回 課題研究(3)
- 12回 課題研究(4)
- 13回 課題研究(5)
- 14回 学生による研究報告
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords



# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「特別研究」は、大学院での学びの中核となる修士論文作成を視野に、そのためのsupervisionを行っていくために設定されたものです。本学から本格的な研究活動が始まります。来年度の修士論文を視野に準備を進めていきましょう。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究状況・課題の確認
- 第02回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
- 第03回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
- 第04回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
- 第05回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
- 第06回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
- 第07回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
- 第08回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
- 第09回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
- 第10回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
- 第11回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
- 第12回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
- 第13回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
- 第14回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
- 第15回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の題目を確定し、基本構造と章節を定める。

## 教科書 /Textbooks

授業ごとに配る

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○鄧紅著『王充新八論統編』中国社会科学出版社2007年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文第1ブロックの作成
- 第2回 論文第2ブロックの作成
- 第3回 論文第3ブロックの作成、「はじめに」
- 第4回 論文第4ブロックの作成
- 第5回 論文第5ブロックの作成
- 第6回 論文第5ブロックの作成、「第一節」
- 第7回 論文第7ブロックの作成
- 第8回 論文第8ブロックの作成
- 第9回 論文第9ブロックの作成、「第二節」
- 第10回論文第10ブロックの作成
- 第11回論文第11ブロックの作成
- 第12回論文第12ブロックの作成、「第三節」
- 第13回論文第13ブロックの作成
- 第14回論文第14ブロックの作成、「おわりに」
- 第15回 まとめ、解説

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業準備 30%、レポートの完成度 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学ぶことを目標とする。また修士論文のテーマを絞り込んでいく。  
主に『文選』所収の作品を取り上げて、中国の六朝時代の文学について理解を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 陶潜「始作鎮軍參軍經曲阿作」(巻26)
  - 第2回 陶潜「辛丑歳七月赴仮還江陵夜行塗口」(巻26)
  - 第3回 謝靈運「永初三年七月十六日之郡初發都」(巻26)
  - 第4回 謝靈運「過始寧墅」(巻26)
  - 第5回 顔延之「和謝監靈運」(巻26)
  - 第6回 顔延之「始安郡還都与張湘州登巴陵城樓作」(巻27)
  - 第7回 江淹「雜體詩」三十首「張黃門(苦雨)協」(巻31)
  - 第8回 江淹「雜體詩」三十首「劉太尉(傷乱)琨」(巻31)
  - 第9回 江淹「雜體詩」三十首「劉太尉(傷乱)琨」(巻31)
  - 第10回 江淹「雜體詩」三十首「郭弘農(遊仙)璞」(巻31)
  - 第11回 江淹「雜體詩」三十首「張廷尉(雜述)綽」(巻31)
  - 第12回 江淹「雜體詩」三十首「許徵君(自序)詢」(巻31)
  - 第13回 江淹「雜體詩」三十首「陶徵君(田居)潛」(巻31)
  - 第14回 江淹「雜體詩」三十首「謝臨川(遊山)靈運」(巻31)
  - 第15回 江淹「雜體詩」三十首「顔特進(侍宴)延之」(巻31)
- ※特に劉宋～梁に焦点をあてているが、あくまで予定であり、実際の進み具合や取り上げる作品は変更することがある。発表用に資料を作ってもらおう。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究 1 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

- ① 調べや資料作成はすべて授業前にやっておいて下さい。
- ② 授業で報告後、考え直しや調べ直しをしてもらうこともあります。
- ③ 授業前、授業後に参考書等を利用して理解を深めて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

六朝文学、魏晋南北朝文学、『文選』、陶淵明

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。	
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究 1	

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

外国語教育に関する文献を講読、「特別研究基礎」で見出した課題を熟考し、その解決方法を探り、レポートにまとめ、発表する。

## 教科書 /Textbooks

随時配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

吉島茂・大橋理枝 訳 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社、2004年  
冯胜利・施春宏 著 『三一语法：结构・功能・语境——初中高级汉语语法点教学指南』 北京大学出版社、2015年  
東京大学外国語教育学会編著 『外国語教育学会のフロンティア-四技能から異文化理解まで』 成美堂、2009  
竹内理・水本篤編著 『外国語教育研究ハンドブック(改訂版)』 松柏社、2014

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス+世界における中国語教育の動き  
第2～第8回 文献講読  
第9～11回 課題についての議論  
第12～14回 論文発表  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度.....50%  
レポートの完成度...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献の予習と発表の事前準備が必要。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の積極性を高く評価する。

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための基礎的な力を養う。受講者は具体的な構想を随時発表していく。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究テーマについての討議①
- 第3回 研究テーマについての討議②
- 第4回 研究テーマについての討議③
- 第5回 研究テーマについての討議④
- 第6回 研究方法についての討議①
- 第7回 研究方法についての討議②
- 第8回 研究方法についての討議③
- 第9回 研究方法についての討議④
- 第10回 資料解釈についての討議①
- 第11回 資料解釈についての討議②
- 第12回 資料解釈についての討議③
- 第13回 資料解釈についての討議④
- 第14回 資料解釈についての討議⑤
- 第15回 総括と今後の課題の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 50パーセント レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業外時間では綿密な情報収集を心がけること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談した上で決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文計画に関する検討
- 2回～14回 院生による口頭発表及び教員による指導
- 15回 今後の研究計画に関する検討

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：45% 態度：25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、表象、認知言語学、認知文学

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次  
 単位 /Credits: 2単位  
 学期 /Semester: 2学期  
 授業形態 /Class Format: 演習  
 クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student topic. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students for their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and Introduction.
- 2回 Guidance for thesis research A
- 3回 Guidance for thesis research B
- 4回 Guidance for thesis research C
- 5回 Introduction of student thesis topics and materials.
- 6回 Discussions and Presentations A
- 7回 Discussions and Presentations B
- 8回 Discussions and Presentations C
- 9回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 10回 Student Discussion and Presentation A
- 11回 Student Discussion and Presentation B
- 12回 Orientations and Guidelines for Presentations to be led by students based on the contents of materials.
- 13回 Student-led Discussion and Presentation A
- 14回 Student-led Discussion and Presentation B
- 15回 Student-led Discussion and Presentation C

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%Final 2000 word paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究 1 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、修士論文作成の予備研究としての研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。そして、可能であれば複数の言語学関連教員の前での発表を通して、発表技術（ハンドアウト、発表、質疑応答への対応など）を身につける。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生との相談
- 第2回 - 第9回 文献講読
- 第10回 - 第13回 課題研究
- 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
- 事後学習：課題の提出および次回に行われる前回の内容に基づく質疑応答への準備

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、修士論文作成のための予備研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。文献講読を通して、受講生の選んだテーマについて理解を深めながら、最後は、先行研究の概要をレポートとしてまとめる。到達目標は以下の通りである。

- (1)文献講読を通して、修士論文作成に必要な知識を身につける。
- (2) 言語学に関する論文作成の技法を身につける。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 受講生と相談
- 第 2 回 - 第11回 文献講読
- 第12回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前学習：文献の予習  
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の講読

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代中国の対外認識および外交の変遷について検討し、内政と国際要因が中国の対外的な行動に及ぼす影響を与えてきたのかについて理解を深める。また研究テーマに関する資料の収集・読解能力を養う。詳細は受講生の研究テーマに応じて決定する。学期末にレポートを課す。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールを進める。

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論
- 15回 レポート提出とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。  
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。  
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

## 教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
  - 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 15回 まとめ
- \* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・ 60%      ディスカッションへの参加状況・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 特別研究 1 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得していることがのぞましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

## 授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献とともに原典・古典を読解する。ゼミ参加学生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。このゼミは基本的に、1学期の「特別研究基礎」の延長線上にある。

## 教科書 /Textbooks

随時紹介する。またゼミ参加学生各自の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
読解する文献、原典・古典は授業中決める。  
レジュメの作成・報告、討論  
参加学生の論文指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% レポートや論文 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

東アジア国際関係・比較思想に深い関心を持つこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的に読むこと。

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

## 授業の概要 /Course Description

東アジアの経済発展について事例研究に関する主要文献を熟読して、修士論文作成に必要な研究テーマの設定と資料収集、分析を行うことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

最初の授業時に研究テーマを考慮して決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に必要に応じて指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、研究テーマの確認
- 2回～14回 各自、事例研究にかかわる文献を選んで、発表していく。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 40% 報告 40% ディスカッション 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出来るだけ早い時期に、研究テーマに関する文献リストと各章の構成を確定しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文のための指導の時間です。今年を受講生がいないため開講しません。  
くずし字法の習得により修士論文に必要な古文書の解読を行います。

まず16か月間の研究計画を立てて、研究史の整理（先行研究の比較と分析）を報告してもらいます。  
その後、修士論文のために集めた史料を紹介してもらいます。それに基づいて分析と解読を行います。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

見玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』（東京堂出版）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究計画①
- 第3回 研究計画②
- 第4回 研究史の整理①
- 第5回 研究史の整理②
- 第6回 研究史の整理③
- 第7回 基本史料の紹介①
- 第8回 基本史料の分析①
- 第9回 基本史料の紹介②
- 第10回 基本史料の分析②
- 第11回 基本史料の紹介③
- 第12回 基本史料の分析③
- 第13回 基本史料の紹介④
- 第14回 基本史料の分析④
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究史の整理（28000字程度）と基本資料の紹介と分析（14000字程度）の期末レポート・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、研究テーマ（日本政治外交史）を絞り込み、必要史料を収集・解説する手助けをしていく。

## 教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション。  
第2回～15回 学生による報告とそれに対する指導。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに教員から提示された課題を完遂すること。授業終了後には講義中指摘された問題点を自分なりに考え、次週の講義に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理を引き続き行い、論文のテーマとなる「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生に対して個別に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 インTRODクシヨN  
2回～14回 修士論文の経過報告  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成へ向け、研究史を丹念にフォローし、論点を整理したうえで、課題を明確化する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション  
第2回：研究史の作り方（講義）  
第3回～14回：各自の報告・議論  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%  
レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## 特別研究 1 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

戦後東南アジアの国際関係に関する英語および日本語文献を輪読、受講生を中心とする報告と討論を通して、【大学院生として身につけておくべき学問的素養】を身につける。同時に、【修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法を教示し、論文を完成させること】を目指す。また課題レポートをいくつか科す。レポートは添削・評価をして返却し、修士論文作成の技能を高めていく。

## 教科書 /Textbooks

受講生の修士論文（もしくは課題レポート）のテーマによって相談して決定するが、以下が候補となる。

- (1)Ho Khai Leong and Samuel C. Kuo ed.,China and Southeast Asia, ISEAS, 2005.
- (2)岩崎育夫編『アジアと民主主義』アジア経済研究所、1997年。
- (3)山影進『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
  - \* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
  - \* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2～4回 China and Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
- 第5～7回 『アジアと民主主義』を3回に分けて輪読、議論する
- 第8～10回 『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』を3回に分けて輪読、議論する
- 第11～12回 これまでの議論を踏まえて、各自のテーマを決定して報告
- 第13～14回 報告に対する総括と全体の議論を2回に分けて行う
- 第15回 補足とまとめ

# 特別研究 1 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

## キーワード /Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生の修士論文のテーマに沿った文献講読ならびにプレゼンテーションを行う。

## 教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、各自で調査・収集する。また、適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方などについての説明
- 2 回 論文作成方法や資料収集方法の確認
- 3 回 プレゼンテーションと討議
- 4 回 文献講読と解説
- 5 回 文献講読と解説
- 6 回 プレゼンテーションと討議
- 7 回 文献講読と解説
- 8 回 文献講読と解説
- 9 回 プレゼンテーションと討議
- 10 回 文献講読と解説
- 11 回 文献講読と解説
- 12 回 プレゼンテーションと討議
- 13 回 文献講読と解説
- 14 回 文献講読と解説
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 30% プレゼンテーション... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの際には、レジюмеを作成すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN。  
第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論  
第15回 まとめ  
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%  
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。  
授業外の学習についても、授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導。

## 教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて各自で調査する。個別の相談に応じる。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論作成に向けた指導(1)
- 3回 修論作成に向けた指導(2)
- 4回 修論作成に向けた指導(3)
- 5回 修論作成に向けた指導(4)
- 6回 修論作成に向けた指導(5)
- 7回 修論作成に向けた指導(6)
- 8回 修論作成に向けた指導(7)
- 9回 修論作成に向けた指導(8)
- 10回 修論作成に向けた指導(9)
- 11回 修論作成に向けた指導(10)
- 12回 修論作成に向けた指導(11)
- 13回 修論作成に向けた指導(12)
- 14回 修論作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に報告準備を十分に整え、事後にその回の課題を完了させておくこと。

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 特別研究 1 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

- 各自興味ある研究課題を見つけ、修士論文を作成するためのスキルを身につける。到達目標は以下の通りである。
- ・ 国際経済の数理モデルの分析アプローチを理解できる。
  - ・ 諸経済理論により現実の国際経済問題を説明できる。
  - ・ 学習したスキルを応用できる。

## 教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマを考慮して決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 受講生による報告・討論
- 第15回 課題の提出・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り込み 60% 課題の提出 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

大学院レベルのミクロ・マクロ経済学の履修が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、新興国の台頭によって国際的な秩序の再編が進みつつある現状を踏まえ、「グローバル・サウス」を支える様々な国際機関に焦点を当てて躍動する「グローバル・サウス」の実態把握に努める。そのことによって、我々の西欧中心史観に修正を加えるとともに、「グローバル・ノース」と「グローバル・サウス」の間に認められる国際政治力学について考察する。

## 教科書 /Textbooks

Jacqueline Anne Braveboy-Wagner, Institutions of the Global South, Routledge, 2009.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ヴィジャイ・プラシャド『褐色の世界史』水声社、2013年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 NAMについて
- 第3回 G77について
- 第4回 OPECについて
- 第5回 汎アメリカ主義について
- 第6回 汎アフリカ主義について
- 第7回 汎アラブ主義と汎イスラムについて
- 第8回 サブ地域コミュニティ：ラテンアメリカとカリブ海
- 第9回 サブ地域コミュニティ：アフリカ
- 第10回 サブ地域コミュニティ：東南アジア、南アジア、西アジア、大洋州
- 第11回 関連英語文献①
- 第12回 関連英語文献②
- 第13回 関連英語文献③
- 第14回 関連英語文献④
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告と貢献度・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に該当頁をしっかりと読んでくること。事後学習としては、学んだ内容についてインターネット等でさらに情報を収集し、内容の理解を深めるようにすること。

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

## 授業の概要 /Course Description

国際機構を主題とする修士論文の作成に向けて、文献を収集および整理しつつ、修得した知識と技能をもとに問題関心を深める。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに  
第2回-第14回 報告と議論  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告30%、参加70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 2 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

1年次の「特別研究基礎」、「特別研究 1」の成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために具体的に個別指導を行うことで、多くの文献を集め「文献の網羅」をすると同時に、「コンテンツの確定」、ならびに修士論文の概略の作成を目指します。

## 教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初に論文作成計画書を作成し、それによって指導をしていきます。

- 第 1 回 導入。1 学期間の計画書の作成 ( 1 )
- 第 2 回 計画書の作成 ( 2 )
- 第 3 回 計画書に従い、指導など ( 1 )
- 第 4 回 計画書に従い、指導など ( 2 )
- 第 5 回 計画書に従い、指導など ( 3 )
- 第 6 回 計画書に従い、指導など ( 4 )
- 第 7 回 計画書に従い、指導など ( 5 )
- 第 8 回 計画書に従い、指導など ( 6 )
- 第 9 回 計画書に従い、指導など ( 7 )
- 第 10 回 計画書に従い、指導など ( 8 )
- 第 11 回 計画書に従い、指導など ( 9 )
- 第 12 回 計画書に従い、指導など ( 10 )
- 第 13 回 計画書に従い、指導など ( 11 )
- 第 14 回 計画書に従い、指導など ( 12 )
- 第 15 回 総括。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書 ... 80% 授業への参加度など ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 特別研究 2 【夜】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

#### 【事前・事後学習の内容】

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭におき、修論作成に活かしてください。

### キーワード /Keywords

## 特別研究 2 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 2

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマに従い、論文の構成章節を決めて、論点と資料を確認する。そのうえで、論文を作成していく。

## 教科書 /Textbooks

授業ごとに学生が用意する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業ごとに配る

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回から第十五回まで、授業ごとに、修士論文の章節に従って、資料を確認して、できあがた部分を読み合せて、添削修正する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文の進展 80%、授業への構え 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

最後の頑張り

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。	
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究 2	

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修論指導。

## 教科書 /Textbooks

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
修論作成について討論する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講者各自が研究を進めることが目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究方法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉獵とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

各受講生が学問的意義、社会的意義のある研究を進め、論文執筆できるようになることが到達目標である。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回オリエンテーション：研究計画  
 第2回本調査データの検討  
 第3回周辺領域の文献  
 第4回文献リストの作成  
 第5回 先行研究に関する批判  
 第6回先行研究に関する総論  
 第7回補足調査計画  
 第8回補足調査計画の再検討  
 第9回中間発表準備および章立ての作成  
 第10回 章立ての再検討  
 第11回論文指導  
 第12回論文指導  
 第13回論文指導  
 第14回論文指導  
 第15回 まとめ  
 予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。  
 ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

## 特別研究 2 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %  
各自の調査研究 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

## キーワード /Keywords

人類学  
フィールドワーク

# 特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本学期末をめどに、修士論文作成のための中間発表会が予定されています。修士論文の全体像ができあがり、内容を充実させていく時期になります。あせらず、それでいて着実に準備を進めていきましょう。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究状況・課題の確認
- 第02回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
- 第03回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
- 第04回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
- 第05回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
- 第06回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
- 第07回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
- 第08回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
- 第09回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
- 第10回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
- 第11回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
- 第12回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
- 第13回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
- 第14回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
- 第15回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## 特別研究 2 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 3

## 授業の概要 /Course Description

受講者各自の研究テーマを論文として結実させることが、特別研究基礎、特別研究 1、特別研究 2、特別研究 3 を通じた目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究手法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉獵とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 … 50 % 研究への積極的取り組み等 … 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究3 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために個別的な指導を行う。論文の構成や内容などの検討を図りながら論文の完成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な場合は適宜指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 研究に関する報告と討議、検討
- 3回目 研究に関する報告と討議、検討
- 4回目 研究に関する報告と討議、検討
- 5回目 研究に関する報告と討議、検討
- 6回目 研究に関する報告と討議、検討
- 7回目 研究に関する報告と討議、検討
- 8回目 研究に関する報告と討議、検討
- 9回目 研究に関する報告と討議、検討
- 10回目 研究に関する報告と討議、検討
- 11回目 研究に関する報告と討議、検討
- 12回目 研究に関する報告と討議、検討
- 13回目 研究に関する報告と討議、検討
- 14回目 研究に関する報告と討議、検討
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20%、論文80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 特別研究 3 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

1年次の「特別研究基礎」、「特別研究1」、及び2年次1学期の「特別研究2」の成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために、具体的に個別指導を行い、論文の完成を目指します。（講義全体のキーワードは「修士論文作成」「論の拡大」などです。）

## 教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初にこれまでの進捗状況を確認した上で、2学期の論文作成計画書を新たに作成し、それによって指導をしていきます。

- 第1回 導入、担当学生と相談の上、計画書を作成
- 第2回 前回作成した計画書に従い、指導など(1)
- 第3回 計画書に従い、指導など(2)
- 第4回 計画書に従い、指導など(3)
- 第5回 計画書に従い、指導など(4)
- 第6回 計画書に従い、指導など(5)
- 第7回 計画書に従い、指導など(6)
- 第8回 計画書に従い、指導など(7)
- 第9回 計画書に従い、指導など(8)
- 第10回 計画書に従い、指導など(9)
- 第11回 計画書に従い、指導など(10)
- 第12回 計画書に従い、指導など(11)
- 第13回 計画書に従い、指導など(12)
- 第14回 計画書に従い、指導など(13)
- 第15回 総括。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 特別研究3 【夜】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

#### 【事前・事後学習の内容】

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭におき、修論作成に活かしてください。

### キーワード /Keywords

# 特別研究 3 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の最後のスパート。論文を細かくチェックして、論文を完成させる

## 教科書 /Textbooks

授業ごとに配る

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業ごとに配る

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回から第十五回まで、毎回論文の進捗を確認して、十五回目の授業の時に、最終チェックを入れる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文の完成度、論点の確立状況による

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

修士論文を完成しないと、本授業の単位をもらえないかも。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修論指導。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
修論作成について討論する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の討論・修論の作成により100%で評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## 特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Years クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
- 第2回本調査データの検討
- 第3回周辺領域の文献
- 第4回文献リストの作成
- 第5回 先行研究に関する批判
- 第6回先行研究に関する総論
- 第7回補足調査計画
- 第8回補足調査計画の再検討
- 第9回中間発表準備および章立ての作成
- 第10回 章立ての再検討
- 第11回論文指導
- 第12回論文指導
- 第13回論文指導
- 第14回論文指導
- 第15回 まとめ

予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

## 特別研究 3 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %  
各自の調査研究 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

## キーワード /Keywords

人類学  
フィールドワーク

# 特別研究3 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

いよいよ今学期末、これまでの研究の集大成となる修士論文の提出時期となります。総仕上げの時期となります。今できることを最大限頑張つて、満足できる修士論文を完成できるよう、頑張っていきましょう。そのための最終supervisionを行いません。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究状況・課題の確認
- 第02回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
- 第03回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
- 第04回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
- 第05回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
- 第06回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
- 第07回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
- 第08回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
- 第09回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
- 第10回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
- 第11回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
- 第12回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
- 第13回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
- 第14回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
- 第15回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



## 特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords